愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第85集

森岡第1号窯跡群

（もりおかだいごうようせきぐん）

1999

愛知県埋蔵文化財センター

主な出土遺物

序

伊勢湾に面した知多半島では、常滑市を中心に古来より窯業が盛んでした。現在でも常滑市は、土管やタイル、植木鉢などの産地として有名です。かつて中世には、2,000基とも3,000基ともいわれる窯が半島全域に築かれていたと想定され、今日でも500カ所以上の窯跡が残されています。また、名古屋市の南に隣接する大府市にも、60カ所以上の窯跡が確認されています。

平成8年、愛知県埋蔵文化財センターでは、愛知健康の森公園に接続する県道健康の森線の建設工事に先立ち、愛知県教育委員会を通じて愛知県土木部からの委託を受け、大府市森岡町の森岡第1号窯跡群の発掘調査を実施しました。本窯跡は、以前から県道大府常滑線南側の斜面に灰原の一部が露出していたところからその存在が知られていました。今回の発掘調査の結果、窯2基分の灰原が確認されました。また、大量に出土した遺物から多くの成果を得ることができました。本書はこの報告をまとめたもので、中世窯業史や地域史などの研究に活用されるとともに埋蔵文化財に対するご理解に役立つことができれば幸いです。

なお、調査の実施にあたりまして、愛知県土木部、愛知県教育委員会、大府市教育委員会をはじめ多くの関係諸機関、ならびに地元の方々から多大なご協力をいただきましたことに深く感謝申しあげる次第です。

最後になりましたが、昭和60年度に発足しました財団法人愛知県埋蔵文化財センターは、平成11年度より、財団法人愛知県教育サービスセンター　愛知県埋蔵文化財センターへと衣替えしました。今までのご支援に感謝申しあげますとともに、引き続き変らぬご支援をお願い申しあげます。

平成11年8月

財団法人　愛知県教育サービスセンター
理事長　　久留宮泰啓

例　言

1．本書は、愛知県大府市森岡町上ノ山西地内に所在する森岡第1号窯跡群（県遺跡番号44013）の発掘調査報告書である。

2．調査は、県道健康の森線建設工事に伴う事前調査として、愛知県土木部から同県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

3．調査期間は、1996年（平成8年）4月から6月、調査報告書のための整理期間は、1998年（平成10年）10月から1999年（平成11年）3月である。

4．発掘調査は、当センター坂倉澄夫（主査・現高浜中学校教諭）、藤井孝之（調査研究員・現一宮東部小学校教頭）、中野良法（調査研究員）が担当し、冨田智恵（発掘調査補助員）が補佐した。
また、調査に参加していただいた方々は、以下の通りである。
浅田レイ子、大住美千子、岡田安晴、上飯坂純、上飯坂日出美、木下信雄、児玉五市、
鈴木康吉、土井シヅ、花田良一、牧野みゆき、山村義明

5．調査にあたっては、愛知県教育委員会文化財課、愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県土木部半田土木事務所、大府市教育委員会、大府市歴史民俗資料館のご協力を得た。

6．調査記録および遺物整理等の作業は、中野良法が担当し、以下の方々の参加を得た。
八木佳素実（調査研究補助員）、中村たかみ、本多恵子、田中和子、野川佳江（整理補助員）、
早川さやか（富山大学学生）
なお、出土遺物の写真撮影は、深川進氏の手を煩わせた。

7．本書の執筆および編集は、中野良法が担当したが、第Ⅲ章第2節第2項の鉢および壺、第4項の鉢および壺を八木佳素実が分担執筆した。自然科学分析については、第Ⅳ章第3節を株式会社パレオ・ラボに委託した。また、遺物胎土のX線回析試験および化学分析試験を株式会社第四紀地質調査研究所に、遺物胎土の重鉱物分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼したが、各分析報告を中野が若干改変して掲載したため、第Ⅳ章第1節および第2節の文責はすべて中野にある。

8．本書をまとめるにあたり、次の諸氏にご指導、ご助言をいただいた。記して感謝したい。
愛甲昇寛、赤羽一郎、伊藤正人、尾野善裕、清田善樹、城ケ谷和広、中野晴久、楢崎彰一、
福岡猛、藤澤良祐、古田功治、水野正好（五十音順、敬称略）

9．本書に示す座標数値は、建設省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠する。また、海抜表記は、東京湾標準（T．P．）の数値である。

10．出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで、調査記録は、当センターで保管している。

目　次

第Ⅰ章　調査の概要

第１節 位置と環境 …… 2

第２節 調査の経緯と経過 …… 8

第Ⅱ章　遺構 …… 12

第Ⅲ章　出土遺物

第１節 概要 …… 16

第２節 各遺構の出土遺物 …… 20

第Ⅳ章　自然科学分析

第１節 遺物胎土のＸ線回析試験および化学分析試験 …… 40

第２節 遺物胎土の重鉱物分析 …… 51

第３節 森岡第１号窯跡群出土炭化材の樹種同定 …… 57

第Ⅴ章　まとめ

第１節 灰原出土碗・皿の比較 …… 63

第２節 結語 …… 65

参考文献一覧 …… 66

付表 …… 67

図版 …… 79

挿図目次

第 1 図　遺跡の位置 …… 2
第 2 図　調査地点位置図 …… 3
第 3 図　大府市地質概要図 …… 5
第 4 図　周辺遺跡位置図 …… 7
第 5 図　調査前地形図 …… 9
第 6 図　作業風景 …… 11
第 7 図　遺構配置図 …… 13
第 8 図　土層断面図（1） …… 14
第 9 図　土層断面図（2） …… 15
第10図　部位名称 …… 16
第11図　形態分類図 …… 19
第12図　灰原 03 出土碗形態分類組成図 …… 21
第13図　灰原 03 出土皿底部形態別
　　形態分類組成図（1） …… 25
第14図　灰原 03 出土皿底部形態別
　　形態分類組成図（2） …… 26
第15図　灰原 02 出土碗形態分類組成図 …… 33
第16図　灰原 02 出土皿底部形態別
　　形態分類組成図（1） …… 36
第17図　灰原 02 出土皿底部形態別
　　形態分類組成図（2） …… 37
第18図　比較粘土試料採取位置図 …… 40
第19図　三角ダイヤグラム位置分類図 …… 41
第20図　菱形ダイヤグラム位置分類図 …… 41
第21図　Qt-Pl 図 …… 47
第22図　SiO_2-Al_2O_3 図 …… 47
第23図　Fe_2O_3-Na_2O 図 …… 49
第24図　K_2O-CaO 図 …… 49

表目次

第 1 表　出土遺物集計表 …… 16
第 2 表　灰原 03 出土碗法量平均値 …… 22
　　（全体･胎土別）
第 3 表　灰原 03 出土碗法量平均値
　　（主要形態別） …… 22
第 4 表　灰原 03 出土碗法量平均値
　　（主要器形別） …… 22
第 5 表　灰原 03 出土皿法量平均値 …… 27
　　（底部形態別･胎土別）
第 6 表　灰原 03 出土皿底部形態 1 類法量平均値
　　（体部主要形態別） …… 27
第 7 表　灰原 03 出土皿法量平均値
　　（主要器形別） …… 27
第 8 表　灰原 02 出土碗法量平均値 …… 34
　　（全体･胎土別）
第 9 表　灰原 02 出土碗法量平均値
　　（主要形態別） …… 34
第10表　灰原 02 出土碗法量平均値
　　（主要器形別） …… 34
第11表　灰原 02 出土皿法量平均値 …… 38
　　（底部形態別･胎土別）
第12表　灰原 02 出土皿底部形態 1 類法量平均値
　　（体部主要形態別） …… 38
第13表　灰原 02 出土皿法量平均値
　　（主要器形別） …… 38
第14表　胎土性状表 …… 43
第15表　化学分析表 …… 45
第16表　胎土薄片観察結果 …… 53
第17表　灰原出土炭化材樹種同定結果 …… 59
第18表　灰原出土炭化材樹種 …… 59
第19表　灰原出土碗法量平均値比較表 …… 63
第20表　灰原出土皿法量平均値比較表 …… 64

付表目次

付表1　形態分類別集計表　碗 …… 67
付表2　形態分類別集計表　皿 …… 68
付表3　出土遺物観察表（1） …… 69
ＳＹ02築窯時排出土（第4層),灰原03（1）
付表4　出土遺物観察表（2） …… 70
灰原03（2）
付表5　出土遺物観察表（3） …… 71
灰原03（3）
付表6　出土遺物観察表（4） …… 72
灰原03（4）
付表7　出土遺物観察表（5） …… 73
灰原03（5）
付表8　出土遺物観察表（6） …… 74
灰原03（6）
付表9　出土遺物観察表（7） …… 75
灰原03（7),ＳＹ01築窯時排出土（第3層）
付表10　出土遺物観察表（8） …… 76
灰原02（1）
付表11　出土遺物観察表（9） …… 77
灰原02（2）
付表12　出土遺物観察表（10） …… 78
灰原02（3），ＳＫ01

図版目次

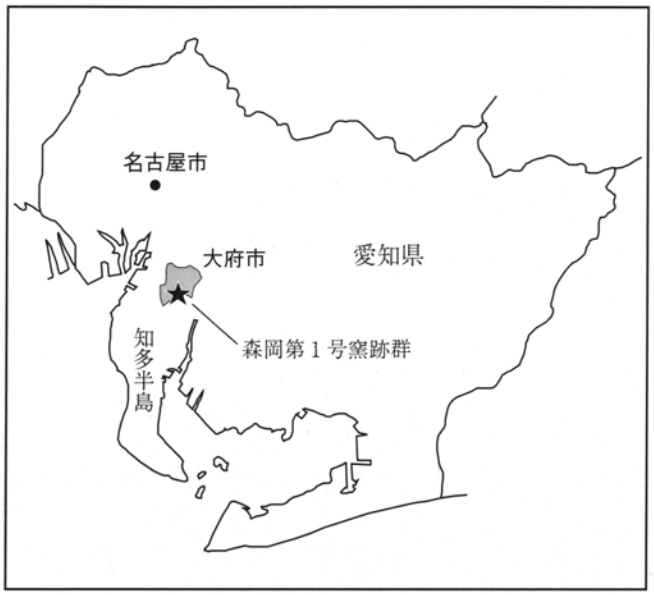
巻頭図版 主な出土遺物
図版1　遺物実測図（1）
ＳＹ02築窯時排出土（第4層），灰原03碗（1）
図版2　遺物実測図（2）
灰原03（2）
図版3　遺物実測図（3）
灰原03（3）
図版4　遺物実測図（4）
灰原03（4）
図版5　遺物実測図（5）
灰原03（5）
図版6　遺物実測図（6）
灰原03（6）
図版7　遺物実測図（7）
灰原03（7）
図版8　遺物実測図（8）
灰原03（8），ＳＹ01築窯時排出土（第3層）
図版9　遺物実測図（9）
灰原02（1）
図版10　遺物実測図（10）
灰原02（2）
図版11　遺物実測図（11）
灰原02（3），ＳＫ01
図版12　遺跡写真（1）
調査前風景，灰原検出状況
図版13　遺跡写真（2）
ＳＹ01築窯時排出土（第3層）検出状況
ＳＹ02築窯時排出土（第4層）検出状況，完掘状況
遺物出土状況,灰原03検出状況（ＳＹ01築窯時排出直土下）
航空測量風景，遺跡周辺
図版14　遺跡写真（3）
Ａライン土層断面，Ｂライン土層断面，Ｃライン土層断面
図版15　遺跡写真（4）
Ｄライン土層断面，Ｅライン土層断面
図版16　遺物写真（1）
図版17　遺物写真（2）
図版18　遺物写真（3）
図版19　遺物写真（4）
図版20　遺物写真（5）
図版21　遺物写真（6）
図版22　ＢＥＩ（反射電子）写真（1）
図版23　ＢＥＩ（反射電子）写真（2）
図版24　顕微鏡下の胎土の状況（1）
図版25　顕微鏡下の胎土の状況（2）
図版26　灰原出土炭化材樹種（1）
図版27　灰原出土炭化材樹種（2）
図版28　灰原出土炭化材樹種（3）

第Ⅰ章　調査の概要

第１節　位置と環境

１．位置（第１図・第２図）

森岡第１号窯跡群は、大府市森岡町上ノ山西地内に所在する。大府市は、愛知県の西部、伊勢湾と三河湾に挟まれた知多半島の付け根に位置する。面積33.59km^2、人口73,000人を数え、その市域は、北は名古屋市・豊明市、西は東海市、南は知多郡東浦町、東はかつての尾張と三河の国境を画する境川を隔てて刈谷市に接する。



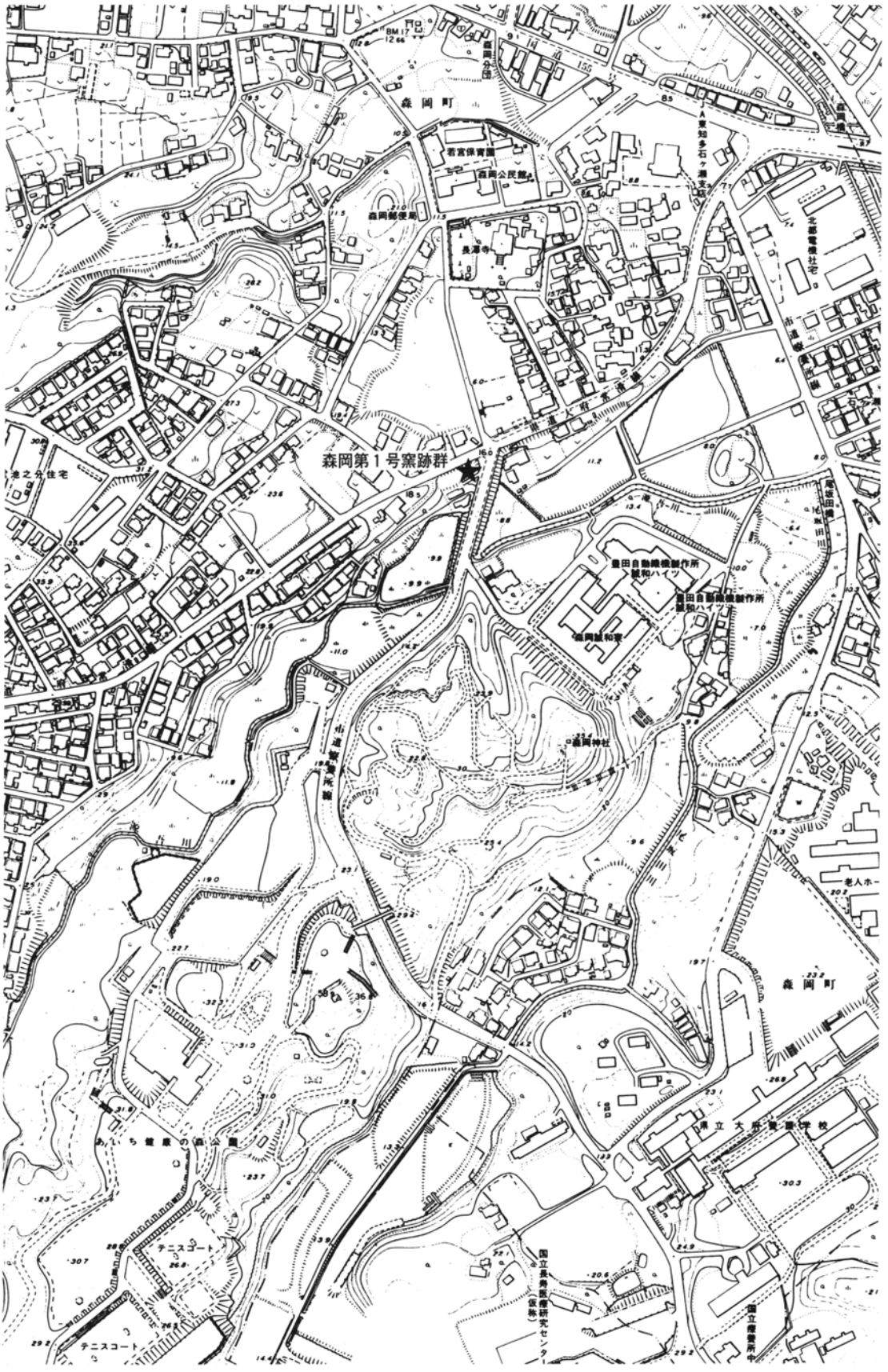
第１図　遺跡の位置

大府市は、県庁所在地で東海地方の行政・経済・文化の中核である名古屋市に隣接しているため、重要な衛星都市の一つとして位置づけられている。また、知多半島の基部に位置するところから、市内の主要道路は、知多半島の諸地域と名古屋市や刈谷市を結びつけており、通勤・通学にＪＲ東海道本線を始めとしてＪＲ武豊線や私鉄バスなどの利用度も高い。

森岡第１号窯跡群は、大府市の南部、幅800ｍ程の舌状をなす小丘陵の南東斜面、標高15ｍ前後の位置に立地する。そこは、境川の最大の支流である石ケ瀬川水系に沿って樹枝状に広がる谷間の一つ、幅50ｍ程の平坦地に面している。南には同一斜面から谷間にかけてあいち健康の森公園が、南東には国立中部病院をはじめ、医療・福祉関連諸施設が広がり、西の丘陵上には住宅が密集し、本窯跡間際まで迫っている。その住宅地を縫うように南西へのびる県道大府常滑線と、東浦町の森岡地区を横断し、国立中部病院の脇を通る市道療養所線とが鋭角に合流した地点に隣接する場所が今回の調査地点である。

２．地理的環境（第３図）

知多半島は、地形的には尾張丘陵の延長と考えられ、大府市が位置する半島北部は、尾張丘陵と知多半島の背梁をなす大府丘陵および知多丘陵とからなる。尾張丘陵と大府丘陵は、大高川から鞍流瀬川の低地を境とし、大府丘陵と知多丘陵は、大田川の本・支流の作る谷によって隔てられている。これら三つの丘陵のうち、大府市には、尾張丘陵の南部と大府丘陵の主部が含まれ、それぞれ東部の丘陵、西部の丘陵と称される。東部の丘陵は、標高40～50ｍでやや急な斜面をなす。それに対して西部の丘陵は、標高70ｍを超える丘陵もあるが、



第２図　調査地点位置図（1：5,000）

およそ40 mで傾斜のゆるやかな丘陵地が広がる。

大府丘陵や知多丘陵は、砂・シルト・粘土層から構成されているため開析が進み、いくつもの舌状の小丘陵が発達している。本窯跡は、その大府丘陵の中央部東端の小丘陵の南東斜面に位置する。

愛知県は、地質構造区分においては西南日本に属し、美濃帯、領家帯、三波川帯、秩父帯の四つの地帯にまたがっている。これらはいずれも中生代あるいはそれ以前に生成された古いものであり、その上に第三紀以後の地層や火山岩が堆積している。

知多半島の丘陵の地質は、南部の師崎層群と北中部の常滑層群とに大別される。知多郡南知多町周辺の標高100 m前後の丘陵を形成している師崎層群は、今からおよそ1,600万年前の第三紀中新世中頃に堆積した砂岩・凝灰質泥岩および凝灰岩からなる海成層である。常滑層群は、師崎層群よりも新しく、今からおよそ600万年から80万年前に存在した東海湖に堆積した第三紀鮮新世の淡水性堆積物で、砂・シルト・粘土・礫の互層から構成されている。この地層は、尾張丘陵の瀬戸層群の延長と考えられる。

大府市にみられる地層は、全て新生代第三紀鮮新世以降のものである。これらは、常滑層群と第四紀更新世（洪積世）の更新統および完新世（沖積世）の完新統（沖積層）に分けられる。丘陵部に広がる常滑層群を構成する主な鉱物は、チャート・フォルンフェルス・長石・石英・雲母などである。長石はよく風化して粘土になりやすくなっている。シルト層や粘土層は、基本的には灰色をしているが、水分を含む量によりその濃さが変わる。また、砂層に伴なうものは濃い灰色のものが多く、礫層に伴うものは桃色になるものが多い。常滑市周辺でみられる地層は、亜炭を挟むことが多いが、大府市内では比較的少ない。

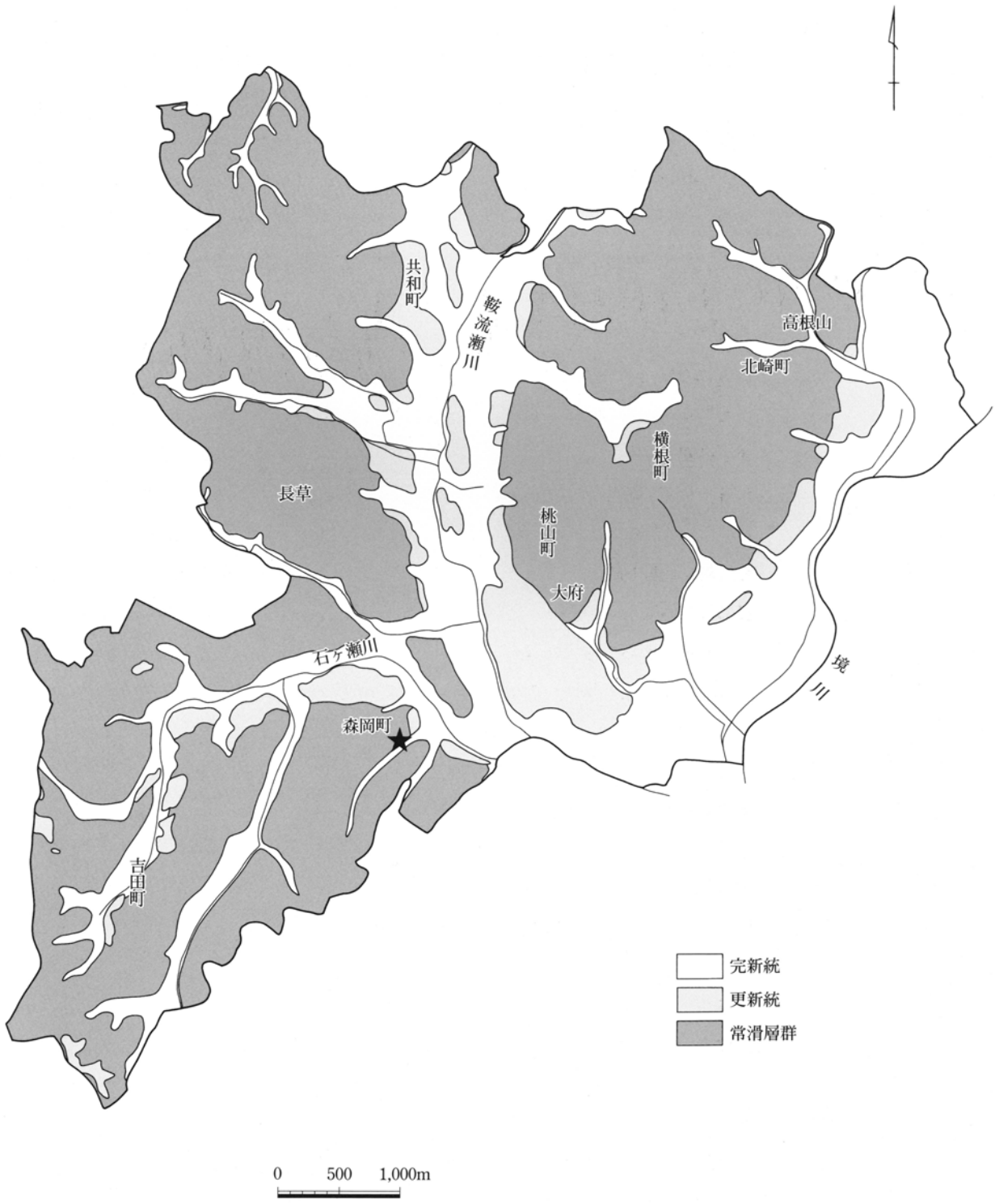
大府市には更新統からなる段丘が多いが、丘陵の上にわずかに残る高位段丘面を別にすれば、中位段丘面と低位段丘面とからなっている。よく締まった砂層・泥層や礫層から形成されているこの地層は、名古屋市の熱田台地をかたちづくる熱田層や知多半島の半田層・野間層などと同時期のものである。

丘陵の樹枝状の谷間と境川の本・支流にそつて完新統（沖積層）が広がっている。境川流域の低地は勾配がゆるく、堆積物は細礫以下のもので構成されている。石ケ瀬川・鞍流瀬川流域の完新統（沖積層）は、境川流域より勾配がきつく、厚さは石ケ瀬橋付近で6 mと比較的薄い。

本窯跡の立地する丘陵は、粘土が多く含まれている常滑層群が広がる。この豊富な粘土が窯体の構築や製品の原料として利用されたものと考えられる。現に、周辺には多くの窯跡が分布している。

3．歴史的環境（第4図）

森岡第1号窯跡群の位置する知多半島北東部は、舌状をなす小丘陵が複雑に発達し、樹枝状の谷間には細く狭い平坦地が存在し、境川水系流域には完新統（沖積層）の低地が広がる。また、境川は衣浦湾を経て三河湾とつながっている。このような環境が豊な生態系を生み、古来から連綿と人々が生活を営んできた。本窯跡周辺にも、縄文時代から戦国時代に至



通商産業省工業技術院地質調査所監修「日本地質図体系」
中部地方（1991）を基に作成

第３図　大府市地質概要図（1：50,000）

る遺跡が分布する。

縄文時代の遺跡は、境川流域の台地の縁辺部に集中している。右岸側の東浦町には、国指定史跡の入海貝塚をはじめとするいくつかの遺跡がみられ、左岸側の刈谷市には、県指定史跡の本刈谷貝塚をはじめ縄文時代の各時期にわたる遺跡が広がっている。大府市内には、散布地として共栄遺跡（区画整理により滅失）と桟敷貝塚の2遺跡が確認されている。

弥生時代の遺跡としては、いずれも弥生から中世の複合遺跡であるが、大府市北東部の台地上に子安神社遺跡（1982・84年市教委調査）と、市東部、境川流域の低地に惣作遺跡（1972年市教委調査）がある。

古墳時代になると完新統（沖積層）の低地に面した丘陵上に古墳が散見できるが、いずれも大府市南東部から東浦町北部に分布する。

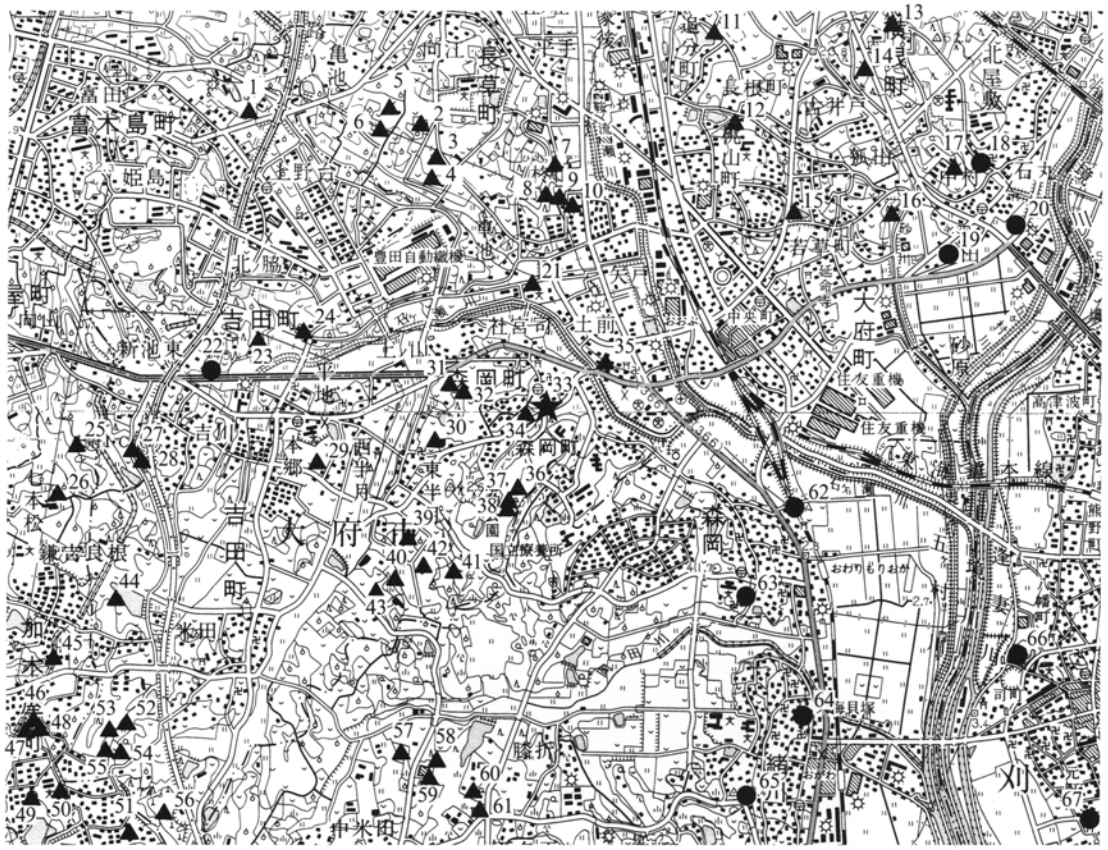
古代には伊勢湾から三河湾の海岸部や衣浦湾沿岸に多くの製塩遺跡が分布する。

灰釉陶器を生産した野々宮古窯の存在が示すように、平安時代になるとこの地域にも窯業遺跡が登場し、中世には多くの丘陵斜面に窯が築かれるようになる。大府市内でも現在63カ所の窯跡が確認されている。これは、市内全遺跡の70％以上にのぼる。その多くが、碗・皿を中心に焼成した窯と考えられるが、12世紀代の瓦を生産した吉田第1・第2号窯（1968・69年市教委調査）や同じく12世紀代の多量の広口長頸瓶が出土した神明古窯址群（1995年市教委調査）などもある。吉田第1・第2号窯出土の三巴文軒丸瓦と唐草文軒平瓦・鬼瓦が、西方約2 kmに所在する社山古窯群（東海市）出土のものと同笵であり、さらに、唐草文軒平瓦が、鳥羽離宮東殿の安楽寿院（京都市）から出土している。野々宮古窯、吉田第1・第2号窯、神明古窯址群とも大府市南西部に所在する。森岡第1号窯跡群は、神明古窯址群から東方約0.7kmと至近距離に位置する。

大府市横根町出土と伝えられる県指定文化財の短頸壷は、13世紀代に比定され、肩部に「藤井宮大明神御酒瓶子」と篦描きされている。現在は、大府市歴史民俗資料館に保管されているが、伝出土地に近い藤井神社の神宝である。

室町時代後期から戦国時代にかけて三河国と境を接する当地域も戦乱の時代を迎える。戦国大名として名をはせた織田氏、松平氏、今川氏の勢力がひしめく中で、緒川城・刈谷城を拠点とする水野氏は、この地域に勢力を拡大していった。特に支配領域を接する松平氏とは、和戦を繰り返した。この状況下において、水野氏第4代当主忠政の娘於大の方が岡崎の松平広忠に嫁し、一男児をもうけるのである。この子こそ後の徳川家康その人である。

大府市の北に位置する豊明市の南西部、名古屋市緑区に隣接した場所に国指定史跡の桶狭間古戦場伝説地がある。1560年（永禄三年）、織田信長が今川義元を奇襲した桶狭間の戦いが行なわれたところである。その戦いに先立つ1558年（永禄元年）から桶狭間の戦い後の1561年（永禄四年）まで、織田氏と今川氏、あるいは水野氏と松平元康（後の徳川家康）とが、現在の大府市と東浦町との境を流れる石ケ瀬川河畔でたびたび合戦を行なった。それらの合戦のひとつが、村木砦古戦場として東浦町指定史跡になっている。



古窯（▲）

1．藤塚古窯	2．立根Ａ古窯群	3．立根Ｂ古窯	4．立根Ｃ古窯
5．立根Ｄ古窯	6．立根Ｅ古窯	7．深廻間Ａ古窯	8．深廻間Ｂ古窯群
9．柊山Ｂ古窯	10．柊山Ｃ古窯	11．長根山古窯	12．鴨池東古窯
13．二ツ池東古窯	14．名高山古窯群	15．川池西古窯	16．羽根山古窯群
17．平子古窯	21．石ケ瀬古窯	23．野々宮古窯	24．大高山古窯
25．権現山古窯	26．長根古窯	27．吉田第１号窯	28．吉田第２号窯
29．ハンヤ古窯	30．北向古窯	31．神明古窯址群	32．海陸庵古窯址群
33．森岡第１号窯跡群（★）	34．森岡第２号窯	35．高根山古窯群	36．旧中部病院第１号窯
37．旧中部病院第２号窯	38．旧中部病院第３号窯	39．律粉古窯	40．籠染第１号窯
41．籠染第２号窯	42．籠染第３号窯	43．東端古窯	44．大日古窯
45．諭田古窯	46．東大堀１号窯群	47．東大堀２号窯	48．東大堀３号窯
49．泡池２号窯	50．北鹿持古窯	51．小家ノ脇１号窯	52．外輪第１号窯
53．外輪第２号窯	54．外輪第３号窯	55．外輪第４号窯	56．骨田末古窯
57．上苅又池古窯群	58．梨ノ木Ａ古窯	59．梨ノ木Ｂ古窯群	60．大草Ａ古窯
61．大草Ｂ古窯群			

その他（●）

18．藤井宮御酒瓶子出土地（鎌倉）		19．横根城跡（戦国）	20．惣作遺跡（弥生～古墳）
22．正官古墓（中世）	62．村木砦古戦場（戦国）	63．妙法寺古墓（中世）	64．入海貝塚（縄文）
65．緒川城跡（室町）	66．刈谷城跡（近世）	67．本刈谷貝塚（縄文）	

※１，25，26，45～51は東海市、２～24，27～44，52～56は大府市、57～65は東浦町、66，67は刈谷市に所在。

第４図　周辺遺跡位置図（国土地理院 1/5 万「名古屋南部・半田」部分）

第2節　調査の経緯と経過

1．調査に至る経緯

愛知県都市公園事務所は、都市公園あいち健康の森建設工事に伴って、大府市森岡町内に所在する森岡第1・第2号窯および用地内の埋蔵文化財所在の有無を1991年（平成3年）5月14日付けで、大府市教育委員会を通じて愛知県教育委員会あてに照会を行なった。これを受けて愛知県教育委員会は、同年7月17日に現地を踏査し、試掘を含めた詳細な確認調査の必要を認めた。その後、公園部分の工事工法を変更し、森岡第2号窯に関しては現状保存されることになったため、県道健康の森線建設用地にかかる森岡第1号窯のみ1995年（平成7年）6月22日に試掘調査を実施した。その結果、部分的にではあるが、最大厚1mにも達する灰層が、北西から南東へ傾斜しながら遺存する状況が確認された。そこで、発掘調査が実施されることになった。

愛知県土木部都市整備課から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた(財)愛知県埋蔵文化財センターでは、1996年（平成8年）4月から6月まで調査を行なった。調査面積は350m^2である。

2．調査前の状況（第5図）

かつて上ノ山西古窯とも称された森岡第1号窯跡群は、県道大府常滑線と市道療養所線との分岐点の西南隅に所在する。以前から県道の南斜面に灰原の一部が露出しており、その存在が知られていたが、窯体の下半部は、農地造成工事の際に滅失したとのことである。上半部は県道部分にあたるため、路床下に残存するか否かは不明である。

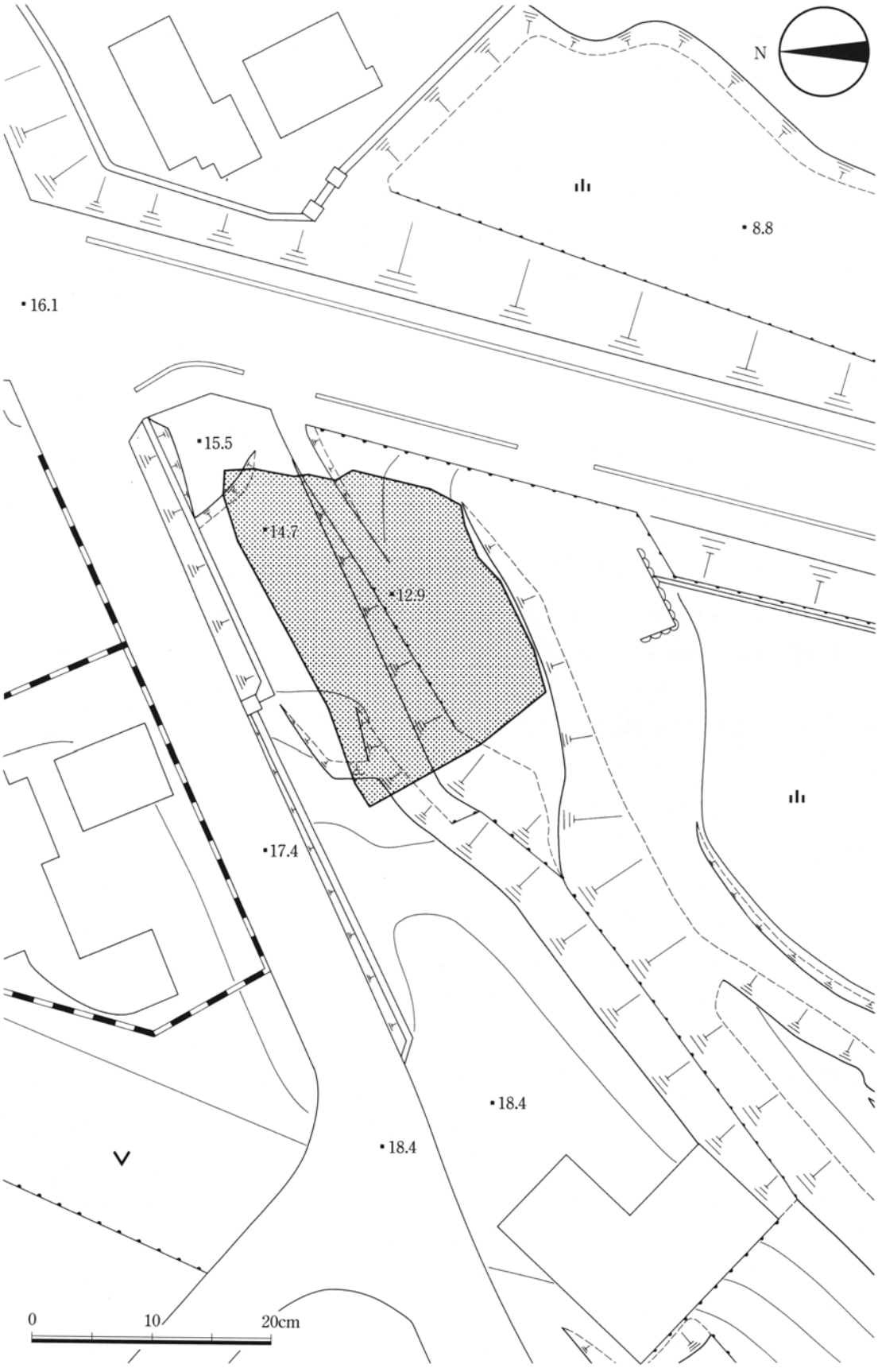
この地はかつて畑であったが、調査直前は、第5図にみられるようにそれぞれ約2mの段差で3段にわたって平坦に整地されており、付近の同一斜面とは全く異なる地形となっていた。崖面には土留め用の杭や板が残っており、上段の平坦面には、コンクリート塊などの産業廃棄物が数ヶ所に露出していた。中段には調査前まで家屋が建っていた。下段は湿地で、常に地表面が水に浸っていた。このような状況であったので、窯跡の遺存状態に関してはかなりの不安があった。

3．調査の経過

調査は4月2日から開始した。始めに愛知県教育委員会が行なった試掘調査で、灰原が最も良好に遺存している場所を中心に調査区を設定した。

調査前の状況から客土が厚く堆積し、かなり地形が改変されていることが明らかであったため、重機により客土および産業廃棄物が多量に投棄されている大撹乱を掘削し、その後、国土座標Ⅶ系に基づいて5m×5mのグリッドを設定、このグリッドに従って発掘調査を進めることにした。

客土除去の進展に伴い、客土直下に小破片の遺物を多く含む黒褐色土層が検出された。県教委調査の試掘坑壁面においても同層が確認されたため、当初これを遺存の灰原と考え、灰原01とし、客土を第1層とした。そして、窯体の有無および灰原の範囲を確認するために、



※アミフセ部分が調査区

第5図　調査前地形図（1：500）

調査区の北・東・西にトレンチを設定した。その結果、北トレンチの壁面に若干の遺物を含む薄い灰層と厚さ0.4 m程の黒色土を埋土とする落ち込みが確認されたが、窯体は 認められなかった。東トレンチでは自然堆積と思われる土が厚く堆積するのみで、灰層は確認されなかった。西トレンチでも自然堆積と思われる土が厚く堆積していたが、さらに掘削を進めていくと、下層から遺物を含む薄い灰層が検出された。これを灰原02とし、灰原02と灰原01の間に堆積している層を第2層とした。

調査区北東部に、近世以降の遺物を含む堆積層が認められたため、トレンチを設定し、その範囲と厚みを確認した。その結果、この層は灰原01直下まで及んでおり、灰原01が極めて新しい時代の再堆積層であることが判明した。この時点ですでに日数を費やしていた。さらに、第2層が調査区全体に認められ、厚いところで1.5 m程あるため、重機を用いて第2層の掘削を行なった。この層を除去すると、本来の灰原が検出された。この灰原は、西トレンチで確認された灰原02と同一のものであることが確認された。

客土除去後、調査区北隅西寄りに基盤層とは明らかに土質の異なる層（第3層）が舌状に厚く堆積していることが平面および撹乱の壁面で確認された。これは、窯を築く際に出た排土と考えられる。灰原02は、この層を取り巻くように調査区北半部のほぼ全域で検出された。灰原02の一部は、第3層上に帯状に検出された。

灰原02の掘削を進めていく段階で、帯状に検出された灰層が、西に傾斜しながら第3層直下へのびることが確認された。このことから灰層が東側と西側で異なるものであることが判明し、また、帯状に検出された灰層と東部の灰層が一連のものであることも判明した。このことから、1基分の築窯時排出土と灰層と想定されていたものが、実は、相前後した時期に近接して築かれた2基の窯の遺構であることが判明した。したがって、東側の築窯時排出土を第4層、灰層を灰原03として調査を進めていった。

灰原掘削後、5月27日に航空測量を行なった。その後、土層確認用ベルト（A～Eライン）での土層断面実測および掘削と平行して、第3層・同層直下の灰原03・第4層の実測および掘削を実施し、6月6日に基盤層を断ち割り、翌7日、調査全てを終了した。

4．成果の概要

紆余曲折した調査になってしまったが、今回の調査では、2基分の築窯時排出土および灰原を検出することができた。しかも、これらは時期が相前後している。さらに、最大厚0.8 mを測る灰層が、最上部と下方が滅失しているのみで、遺存状態は比較的良好であった。

なお、遺構番号については、調査中に便宜的に付したが、本報告では基本的に調査時の番号を踏襲する。

時期が先行する窯に関わる遺構は、ＳＹ02築窯時排出土（第4層）、灰原03

時期が後行する窯に関わる遺構は、ＳＹ01築窯時排出土（第3層）、灰原02、ＳＫ01。

5．調査日誌抄

4月 2日　調査区設定。

4月 8日　重機による客土除去開始。

4月11日　基準杭設置。

4月17日　作業員導入。手掘り調査開始。

5月13日　重機による第2層掘削開始。

5月20日　灰原02掘削開始。

5月23日　2基分の築窯時排出土・灰原のあることが判明。

5月27日　航空測量。

5月28日　ＳＹ01築窯時排出土（第3層）掘削開始。土層段面実測（1/20）開始。

5月29日　ＳＹ01築窯時排出土（第3層）直下の灰原03測量（1/50）・掘削開始。

5月31日　ＳＹ02築窯時排出土（第4層）測量（1/50）・掘削開始。

6月 6日　基盤層地形測量（1/50）。重機による基盤層断ち割り。

6月 7日　埋め戻し。

第6図　作業風景

第Ⅱ章　遺構

概要

森岡第１号窯跡群は、愛知県遺跡地図[註1]に「森岡第１号窯」と記載されている。このことから、調査前は１基分の遺構と考えられていた。しかし、今回の調査では２基分の遺構が確認された。検出された遺構は、築窯時排出土と灰原および土坑である。

以下、各遺構についての概要を記す（第７図～第９図）。

ＳＹ02築窯時排出土（第４層）

調査区のほぼ中央北端に検出された。基盤層の傾斜に直交するかたちで南に向って舌状をなす。上部は後世に削平され、北部は調査区外に広がっているため、その全容を知ることはできないが、残存長5.2ｍ、幅８ｍ、残存高0.85ｍを測る。５層からなるが、各層とも粘質シルトや粘土の小塊を多く含む。

灰原03

調査区北半のかなり広い範囲で検出された。下半部および上部は後世の削平のために滅失している。西部はＳＹ01築窯時排出土（第３層）直下にある。範囲は、東西約24ｍ、南北は残存長であるが、7.5ｍ、灰層の最も厚い部分で0.8ｍを測る。ＳＹ02築窯時排出土（第４層）の中軸線より西側が幅約７ｍ、東側が幅約17ｍと東側に大きく広がりを示す。灰層は、最大６層を数える（Ｅライン）。灰層断面を観察すると、焼台や遺物を多く含む層とあまり含まない層が交互に堆積している状況がうかがえる。

ＳＹ01築窯時排出土（第３層）

調査区の中央北端西寄りに検出された。ＳＹ02築窯時排出土（第４層）の西側斜面および灰原03西部を覆い、基盤層の傾斜にやや西側に斜交するかたちで南に向って舌状をなす。上部は後世に削平され、北部は調査区外に広がっているため、その全容を知ることはできないが、残存長約7.5、幅約7.7ｍ、残存高約0.7ｍを測る。３層からなり、粘質シルトや粘土の小塊を多く含む。

灰原02

調査区北半西部で検出された。下半部および上部は後世の削平のために滅失している。また、西側は調査区外にまで及んでいるが、調査区西端での灰層の厚みが数センチであることから、調査区外へはさほどの広がりはないと考えられる。検出範囲は、ＳＹ01築窯時排出土（第３層）東端以西のみで、東西約10ｍ、南北約９ｍ、灰層の最も厚い部分で0.6ｍを測る。灰層は、最大４層を数える（Ｄライン）。灰層断面を観察すると、焼台や遺物を多く含む層とあまり含まない層が交互に堆積している状況がうかがえる。

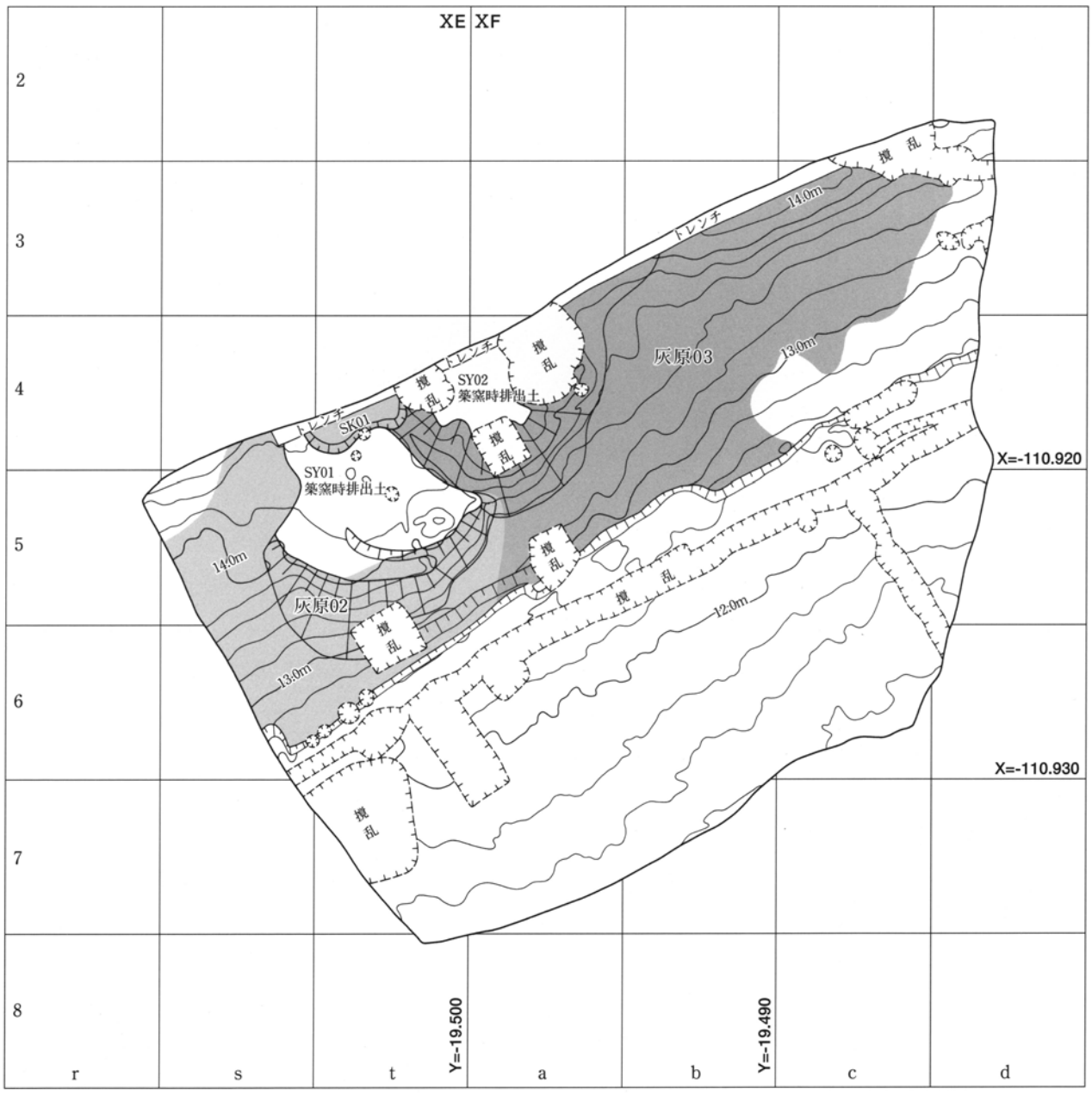
ＳＫ01

調査区の中央北端西寄り、ＳＹ01築窯時排出土（第３層）上に検出された。一部は調査区外に広がっているため、全体の形状は明らかではないが、位置としては、窯体の焚き口に

近い場所にあるといえる。長さ0.33 m、最大幅0.1 m、深さ0.31 mを測る。埋土は、黒色砂質シルトに焼土・炭化物小塊を多く含む。遺物は、陶錘が1点出土している。

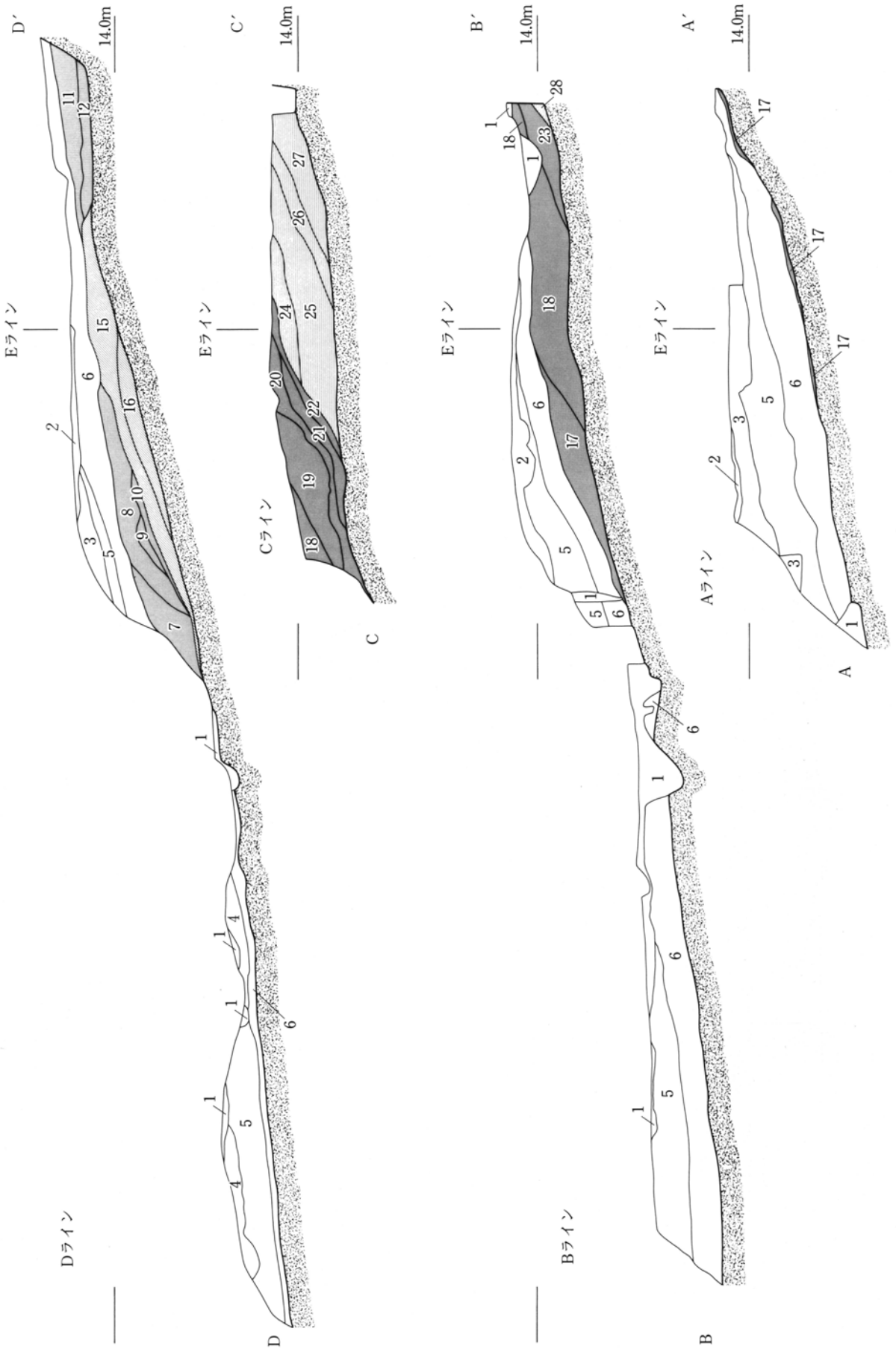
註

1．愛知県教育委員会1995「愛知県遺跡地図」知多・西三河地区

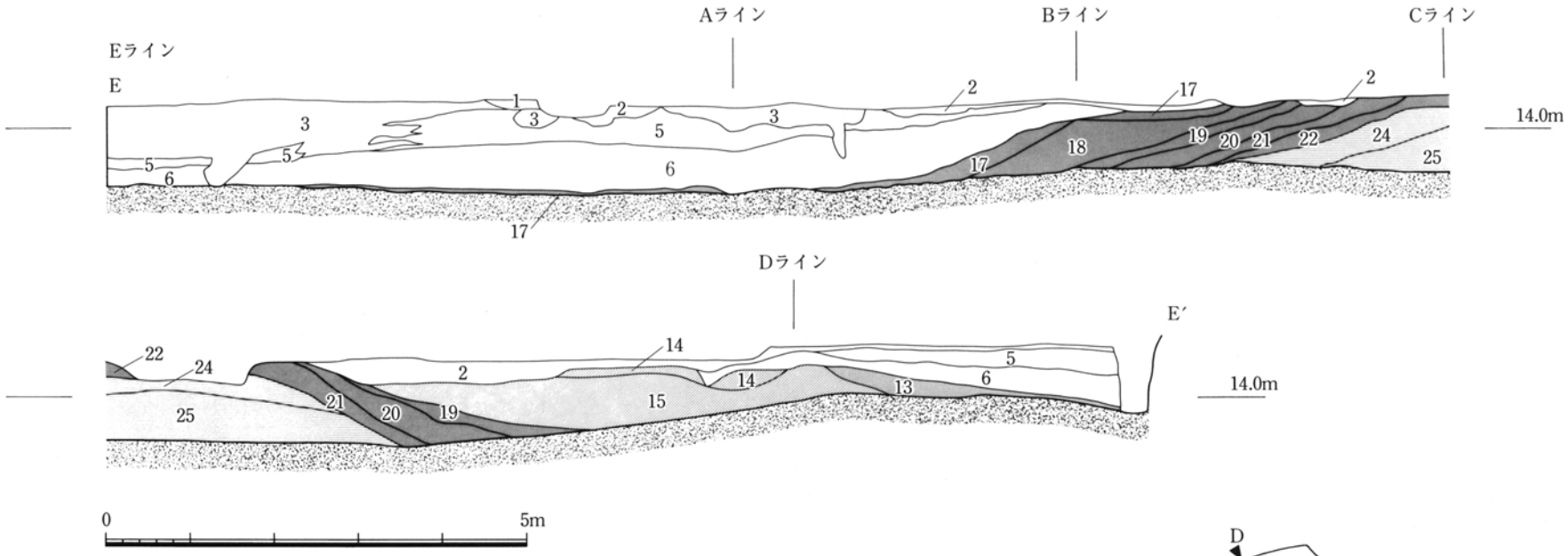


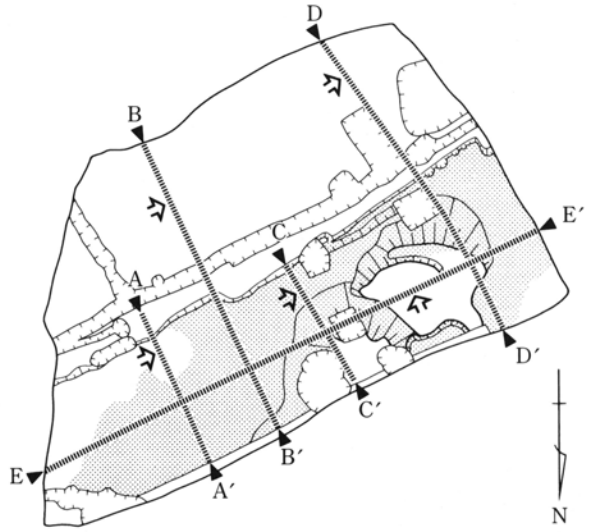
※四隅に記したゴチック体のローマ数字･アルファベット大文字は中グリッドを、算用数字･アルファベット小文字は小グリッドを示す。

第7図　遺構配置図（1：200）



第8図　土層断面図（1）（1：80）





第1層	1.	客土	
灰原01	2.	二次堆積の灰層	
第2層	3.	7.5 YR 7/4	にぶい橙色砂質シルト
	4.	7.5 YR 6/6	橙色砂質シルト
	5.	7.5 YR 5/6	明褐色シルト
	6.	5 YR 5/8	明赤褐色粘質シルト
灰原02	7.	7.5 YR 5/8	明褐色砂質シルト（遺物をあまり含まない。）
	8.	7.5 YR 2/2	黒褐色砂質シルト（窯壁塊を多少含む。焼台・遺物多い。）
	9.	2.5 YR 3/6	暗赤褐色砂質シルト（遺物をあまり含まない。）
	10.	10 YR 3/4	暗褐色砂質シルト（焼台・遺物を多く含む。）
	11.	7.5 YR 5/4	にぶい褐色粘質シルト（焼台・遺物を多く含む。）
	12.	10 YR 1.7/1	黒色砂質シルト（遺物を多く含む。）
	13.	7.5 YR 4/2	灰褐色粘質シルト（遺物を多少含む。）
SY01 築窯時排出土（第3層）	14.	10 YR 5/4	にぶい黄褐色砂質シルト
	15.	5 YR 5/8	明赤褐色粘質シルト
	16.	7.5 YR 5/8	明褐色粘質シルト（2.5 YR 4/8赤褐色粘質シルトブロック・7.5 YR 6/1褐灰色粘土ブロックを多く含む。）
灰原03	17.	7.5 YR 5/4	にぶい褐色粘質シルト（遺物を多く含む。）
	18.	10 YR 2/1	黒色砂質シルト（遺物を多く含む。）
	19.	7.5 YR 3/2	黒褐色砂質シルト（窯壁塊・焼台・遺物を多く含む。）
	20.	7.5 YR 2/2	黒褐色砂質シルト（遺物をあまり含まない。）
	21.	10 YR 3/4	暗褐色砂質シルト（焼台・遺物を多く含む。）
	22.	10 YR 1.7/1	黒色砂質シルト（遺物をあまり含まない。）
	23.	7.5 YR 5/8	明褐色砂質シルト（遺物を多少含む。）
SY02 築窯時排出土（第4層）	24.	5 YR 5/8	明赤褐色粘質シルト
	25.	2.5 YR 5/6	明赤褐色粘質シルト（2.5 YR 4/8赤褐色粘質シルトブロック・7.5 YR 6/1褐灰色粘土ブロックを多く含む。）
	26.	7.5 YR 5/8	明褐色粘質シルト（2.5 YR 4/8赤褐色粘質シルトブロック・7.5 YR 6/1褐灰色粘土ブロックを多く含む。）
	27.	7.5 YR 5/4	にぶい褐色シルト質粘土（2.5 YR 4/8赤褐色粘質シルトブロック・7.5 YR 6/1褐灰色粘土ブロックを多く含む。）
	28.	10 YR 7/4	にぶい黄橙色粗粒砂

※土色は、小山正忠、竹原秀雄編著「新版標準土色帖」(1997) によった。

第9図　土層断面図（2）（1：80）

第Ⅲ章　出土遺物

第1節　概要

1．種類

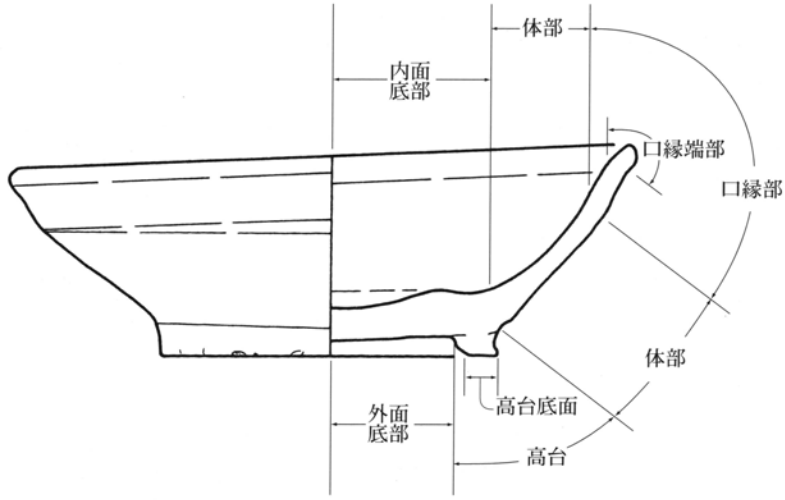
出土した遺物は、遺物収納用コンテナで約350箱を数える。器種としては、碗・皿がほとんどで、ほかに壺・鉢・陶錘・土師質鍋がわずかに出土している。土師質鍋以外は、主として中世に生産された無釉陶器である。また、須恵器や土師器・製塩土器なども出土しているが、中世古窯という遺跡の性格から考えて全くの異質なものであり、関連する遺構も認められないため、流入した遺物ととらえ、本報告ではあえて取り上げない。この出土遺物の個体数については、碗・皿ともに底部1/2以上残存するものを1個体と数え、その他の器種は残存状況に係わらず、全体の出土品からみてあきらかに1個体と判別可能なものを数えた。その結果、築窯時排出土および灰原など遺構内から出土した遺物の総個体数は、8,944点である。このうち碗が7,028点、皿が1,890点、鉢が20点、壺が3点、陶錘が1点、土師質鍋が2点で、碗の全体に占める比率は78.6%、皿は21.1%である（第1表）。

遺　構	碗	皿	鉢	壺	陶錘	土師質鍋	計
SY02排土（第4層）	2						2
灰原03	5,322	1,409	17	2		2	6,752
SY01排土（第3層）	21	6					27
灰原02	1,683	475	3	1			2,162
SK01					1		1
総　計	7,028	1,890	20	3	1	2	8,944

第1表　出土遺物集計表

2．碗・皿の部位名称

出土した碗・皿など遺物の説明は、第10図に従って行なうことにする。碗・皿の部位名称は、研究者により多少異なるが、ここでは、口縁端部・口縁部・体部・底部（内面底部・外面底部）・高台・高台底面という呼称を用いる。



第10図　部位名称

3．碗・皿の形態分類（第11図）

遺物全体の99.7%を占める碗・皿の形態は一様ではない。そこで、主に断面形態をもとに口縁端部・口縁部・体部・底部の各部位、および胎土・コロシ・外面底部の痕跡・高台底面の付着痕について分類を試みた。

口縁端部

碗・皿とも共通である。

A類　丸みを帯びたもの。

B類　内側は直線的で、外側は体部傾斜と斜交するように面をもつもの。

C類　内側の屈曲点は鈍角、外側の屈曲点は鋭角をなし、体部傾斜と斜交するように内側に面をもつもの。

D類　細く尖るもの。

E類　内側は曲線的、外側は直線的なもの。

F類　内側は直線的、外側は曲線的なもの。

G類　体部傾斜と直交するように面をもつもの。

H類　内側は直線的、外側は曲線的だが、頂上部分に平坦な面をもつもの。

口縁部

皿は、器体の立ち上がりが低く、口縁部と体部との境が明瞭でないことから、まとめて体部に含めた。よって、碗についてのみの分類である。

a類　上部は外反し、下部は丸みをもつ。断面形態がいわゆるS字形をなすもの。

b類　上部は外反し、下部は直線的なもの。

c類　外側にのみ明瞭なくぼみがみられるもの。

d類　外側のみ上部が大きく肥厚し、その直下が大きく内湾する。肥厚している部分には体部傾斜と斜交するように面をもつもの。いわゆる玉縁状口縁がこれに相当する。

e類　直線的なもの。

f類　内側は、上部が直線的で下部が曲線的、上部と下部の境には明瞭な稜がある。外側は、上部が直線的で下部にくぼみがみられ、口縁部と体部の境付近には明瞭な稜があるもの。

g類　下部から体部にかけてが最も細く、上部はやや肥厚するもの。

体部

碗

Ⅰ類　曲線的に立ち上がるもの。

Ⅱ類　直線的に立ち上がるもの。

皿

Ⅰ類　曲線的に立ち上がり、上部が外反するもの。

Ⅱ類　上部は直線的、下部は曲線的で、上部と下部の境には明瞭な稜がみられるも

の。

Ⅲ類　直線的だが、外側に明瞭な稜をもつもの。

Ⅳ類　曲線的に立ち上がるが、外側上部が肥厚するもの。

Ⅴ類　直線的に立ち上がるもの。

Ⅵ類　ゆるやかに外反するもの。

Ⅶ類　曲線的に立ち上がるもの。

底部

基本的に碗は高台を伴うため、皿についてのみの分類である。

1類　高台をもつもの。

2類　無高台で、底部が大きく突出するもの。

3類　無高台で、底部は突出しないかわずかに突出するもの。

胎土

土師質の伊勢型鍋以外の遺物は、陶質であるが、胎土を肉眼で詳細に観察すると、砂粒の含有量が少ないA類と多いB類とに大別される。A類は、さらに2群（Aa・Ab類）に分けられる。

Aa類　緻密で砂粒がほとんどないもの。

Ab類　砂粒が多い。胎土は緻密なものから粗いものまである。

B　類　緻密だが砂粒を多量に含み、溶けた砂粒が壁面に粒状に吹き出しているもの。

コロシ

内面底部中央に指で押しなでた痕跡をコロシとした。本窯跡群には、指痕ではなく、板状の筋目痕を有するものもあるが、これもコロシとみなした。

外面底部痕跡

外面底部にはさまざまな痕跡が認められるが、ここでは、器部を粘土塊または回転台などから切り離す工程で生じた糸切りの痕跡と、その後に生じた平行した押圧痕である板目状圧痕について観察した。

糸切り痕の形態は3種類ある。

鮮　明　弧状の糸目が連続しているもの。

不鮮明　弧状の糸目の間隔が開いているもの。

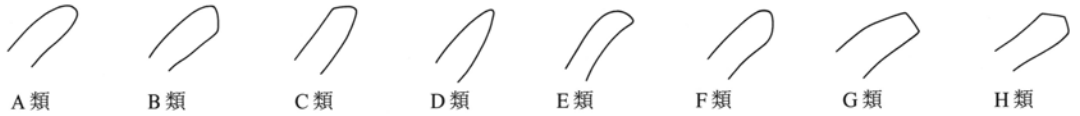
な　し　糸切り痕が認められないもの。

高台底面付着痕

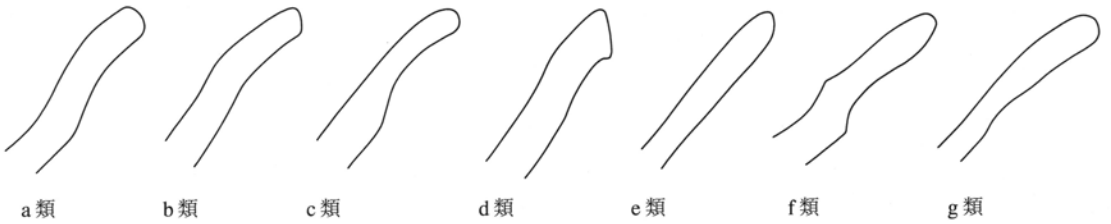
高台底面にもさまざまな痕跡が認められるが、ここでは、砂粒のみの付着または付着痕を有するものと、籾殻のみの付着痕を有するもの、籾殻の付着痕と砂粒の付着あるいは付着痕両方を有するものがある。

なお、各形態分類の集計表は、出土遺物観察表とともに付表にまとめて掲載した。

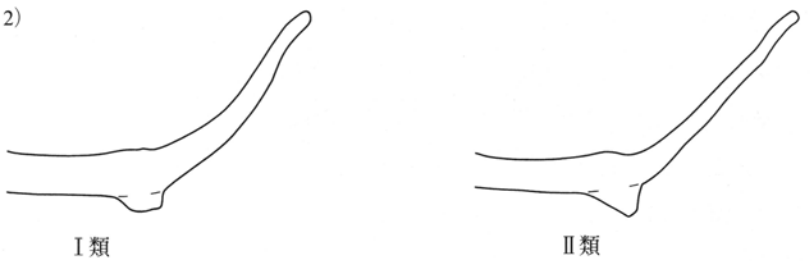
口縁端部（碗・皿共通）（1：1）



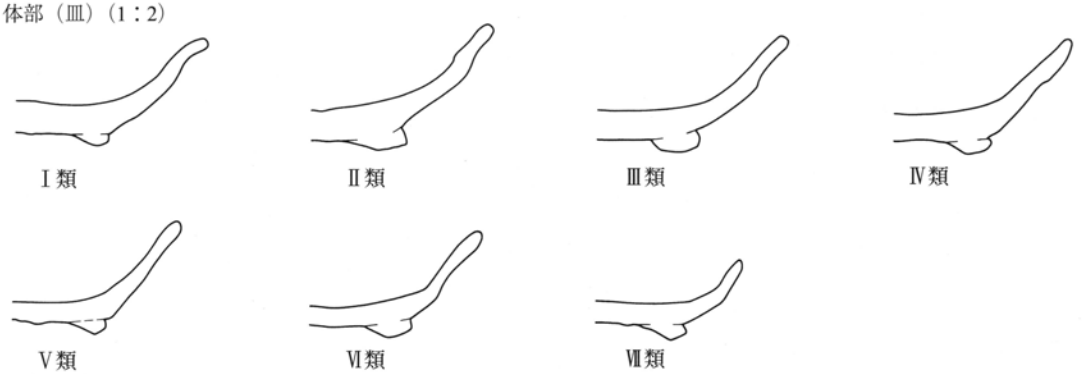
口縁部（碗のみ）（1：1）



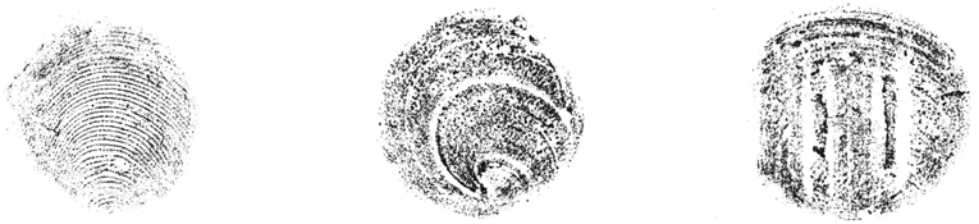
体部（碗）（1：2）



体部（皿）（1：2）



外面底部痕跡（1：2）



第11図　形態分類図

第２節　各遺構の出土遺物

１．ＳＹ02築窯時排出土（第４層）に関する遺物

碗が２点出土している。

碗（図版１－１・２）

１は、口径16.6㎝、器高5.2㎝、高台径8.0㎝を測り、径高指数は31.3である。器形は、口縁端部がＡ類、口縁部がｂ類、体部がⅠ類、胎土はＡｂ類である。断面三角形で高い高台をもつが、その底面には籾殻痕が認められる。糸切り痕は、糸目の間隔が広い不鮮明の部類に属す。焼成状況は良好で、灰白色を呈す。

２は、口径15.8㎝、器高4.6㎝、高台径8.2㎝を測り、径高指数は29.1で、器部が比較的小振りである。器形は、口縁端部がＡ類、口縁部がｂ類、体部がⅡ類、胎土はＡｂ類である。偏平につぶれた高台をもち、その底面には籾殻痕が認められる。糸切り痕は、糸目の間隔が広い不鮮明の部類に属す。焼成状況は良好で、灰黄色を呈す。

２．灰原03に関する遺物

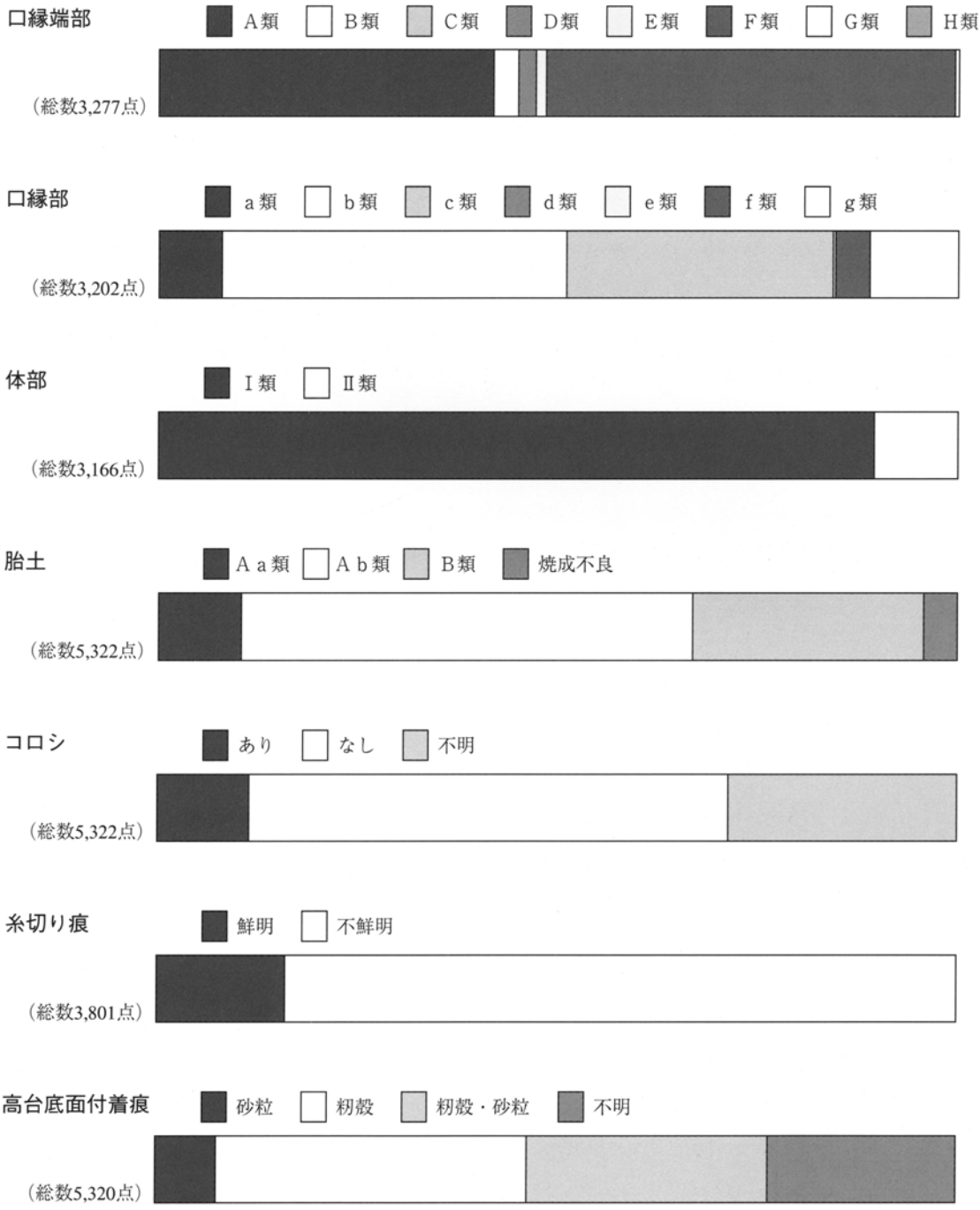
遺物の出土点数は、6,752点、全体の75.5％で、各遺構の中で最も多い出土量である。器種は、碗・皿・鉢・壺・土師質鍋がある。また、焼台も多量に出土している。

碗（図版１～５－３～167）

5,322点出土しており、灰原03出土総点数の78.8％を占める。

各部位の形態を観察すると（第12図）、口縁端部は、Ｆ類51.1％（1,673点）とＡ類41.9％（1,372点）に集中する。口縁部は、ｂ類43.1％（1,381点）とｃ類33.3％（1,065点）に集中する。体部はⅠ類が89.5％（2,833点）と圧倒的に多い。胎土は、Ａｂ類が56.4％（3,004点）と過半数を占め、次いでＢ類28.9％（1,538点）、Ａａ類10.4％（555点）の順となる。また、焼成不良のものも4.2％（225点）ある。なお、Ａａ類は灰色の強い灰白色あるいは灰白色を呈し、Ｂ類は灰色の強い灰白色を呈す。内面底部に施されているコロシは、613点のものに認められるが全体に占める割合は11.5％と少ない。外面底部にみられる糸切り痕の形態は、糸目の間隔が広い不鮮明の部類に属すものが92.6％（3,672点）とほとんどである。79は、糸切り痕とは方向を異にした弧状の筋が１ないし２条認められる。この筋は、糸切り後についたものであるが、なぜこのような痕跡がみられるかは不明である。仮に二重の糸切り痕としておく。板目の痕跡は、634点、15.4％のものに認められる。高台底面の付着痕は、籾殻の付着痕のみを有するものが38.9％（2,068点）と最も多く、籾殻痕と砂粒の付着ないし付着痕両方を有するものが30.1％（1,600点）と次いでいる。高台は、平面形態が楕円形をなすものが多い。また、ほとんどのものが押圧のため先端部分が大きくつぶれ、断面形態が偏平な形状を示す。なお、159は高台をもたない碗である。

多くのものが焼け歪んでいる。また、焼成不良のものも225点あるため、各部位の法量にばらつきがあるが、平均すると口径16.48㎝、器高5.16㎝、高台径8.34㎝を測り、径高指数は31.36である（第２表）。法量を胎土別でみた場合、Ａａ類が全体的に低い数値を示すの



第12図　灰原03出土碗形態分類組成図

		口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	体厚 (cm)	底厚 (cm)	径高指数	点数
全　体		16.48	5.16	8.34	0.46	1.00	31.36	5,317
胎土	Aa類	16.16	5.08	8.09	0.38	0.95	31.45	546
	Ab類	16.39	5.12	8.22	0.45	1.00	31.27	3,007
	B 類	16.72	5.23	8.61	0.49	1.04	31.39	1,538

第２表　灰原03出土碗法量平均値（全体・胎土別）

	形態	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	径高指数	点数
口縁端部	A 類	16.42	5.13	8.25	31.33	1,372
	B 類	16.51	5.15	8.38	31.23	103
	D 類	15.94	5.07	7.89	31.86	72
	E 類	16.66	4.95	8.33	29.57	42
	F 類	16.55	5.19	8.44	31.42	1,673
	G 類	16.56	5.21	8.24	31.33	15
口縁部	a 類	16.56	5.16	8.48	31.28	252
	b 類	16.53	5.16	8.35	31.28	1,380
	c 類	16.44	5.15	8.37	31.36	1,066
	f 類	16.25	5.14	8.40	31.62	137
	g 類	16.48	5.23	8.13	31.70	357
体部	Ⅰ 類	16.48	5.16	8.34	31.39	2,832
	Ⅱ 類	16.51	5.16	8.39	31.28	334

※主な形態のみ

第３表　灰原03出土碗法量平均値（主要形態別）

器　形	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	体厚 (cm)	底厚 (cm)	径高指数	点数
Fa Ⅰ Aa	16.33	5.10	8.45	0.41	0.96	31.34	35
Ab Ⅰ Aa	16.08	5.03	8.03	0.38	0.92	31.33	46
Fb Ⅰ Aa	16.18	5.10	8.19	0.39	0.95	31.46	45
Ac Ⅰ Aa	16.20	5.10	7.98	0.40	0.96	31.58	53
Fc Ⅰ Aa	16.12	5.06	8.05	0.39	0.94	31.43	62
Ag Ⅰ Aa	16.35	5.24	8.19	0.35	1.05	32.10	28
Ag Ⅰ Ab	16.54	5.21	8.12	0.42	1.04	31.55	221
Fg Ⅰ Ab	16.29	5.25	8.05	0.42	1.06	31.99	69
Ab Ⅰ Ab	16.41	5.10	8.14	0.44	1.01	31.16	369
Fb Ⅰ Ab	16.44	5.09	8.14	0.45	1.04	31.02	221
Ac Ⅰ Ab	16.38	5.10	8.35	0.48	0.97	31.23	255
Fc Ⅰ Ab	16.27	5.12	8.28	0.46	0.99	31.58	213
Ab Ⅱ Ab	16.50	5.15	8.32	0.44	1.00	31.28	43
Fb Ⅱ Ab	16.59	5.16	8.43	0.41	1.01	31.10	31
Ac Ⅱ Ab	16.44	5.09	8.39	0.45	1.01	30.85	36
Fc Ⅱ Ab	16.60	5.19	8.49	0.42	1.01	31.22	38
Af Ⅰ Ab	16.23	5.11	8.24	0.52	0.93	31.40	36
Ff Ⅰ Ab	16.29	5.12	8.38	0.55	0.98	31.50	26
Af Ⅱ Ab	16.28	5.14	8.36	0.48	1.01	31.57	27
Ff Ⅱ Ab	16.29	5.16	8.57	0.52	1.09	31.69	33
Fa Ⅰ B	16.70	5.18	8.59	0.49	1.02	31.07	138
Ab Ⅰ B	16.60	5.10	8.63	0.49	1.01	30.86	45
Bb Ⅰ B	16.66	5.33	8.59	0.48	1.12	32.00	26
Fb Ⅰ B	16.75	5.25	8.64	0.49	1.05	31.44	378
Fc Ⅰ B	16.71	5.25	8.61	0.49	1.06	31.52	194

第４表　灰原03出土碗法量平均値（主要器形別）

に対し、B類は高い数値を示す。このことから、Ａａ類（３～29・31～33）のものはやや小振りで薄手、B類（121～159）のものはやや大振りで厚手といえる。ただし、径高指数はＡａ類が最も高い。各部位ごとにみると（第３表）、口縁端部ではD類（5・6・9・19・26・45・57・71・109・112）のものが口径・高台径とも極端に小さく、器高もやや低めである。また、E類（27～30）は器高が最も低いため、径高指数も極めて低い値を示す。口縁部では、ｆ類（110～120）が最も小さい口径となっている。ｇ類（31～43）は器高が高く、高台径が小さい。体部は、Ⅰ類・Ⅱ類ともさほど差異はない。

口縁端部、口縁部、体部、胎土を統合した器形をみた場合（第4表）、ＦｂＩＢ型（133～139）が378点と最も多く、ＡｂＩＡｂ型（48～55）（369点）、ＡｃＩＡｂ型（64～69）（255点）、ＡｇＩＡｂ型（34～39）（221点）、ＦｂＩＡｂ型（58～63）（221点）、ＦｃＩＡｂ型（72～82）（213点）、ＦｃＩＢ型（147～159）（194点）、ＦａＩＢ型（121～124）（138点）が次ぐ。法量は、形態別・胎土別で得られた結果と類似する。

法量平均値および肉眼による観察から、明らかに特徴的なものがある。それは、胎土Ａａ類とＢ類、口縁端部Ｅ類、口縁部ｆ類とｇ類である。

碗の中には口縁端部に顕著な段差がみられるもの（３・８・10・12・14・17～19・20・21・24・25・33・36・42・52・54・58・63・69・70・75・78・90・96・101・104・108・114・120・132・133・138・141・142・152・153・158）や体部に浅い線状の凹みが横方向に認められるもの（16・30・48・59・65・74・110・111・113・117・119・130・131・137・139・144・147・156）、段差と線状の凹みの両方が確認できるもの（64・72・82・87・92・105・127・134・135・151）がある。また、体部と底部の境付近の断面に継目の観察できるもの（５・15）もある。これらの形態を有するものは、中野晴久氏[註1]や伊藤正人氏[註2]が指摘されている粘土紐による成形の痕跡とみなすことができる。つまり、口縁端部にみられる段差は、粘土紐の末端であり、体部にみられる浅い線状の凹みが粘土紐の継目であるといえる。しかし、輪積みか巻き上げかは判然としない。

碗の焼成については、直接重ね焼きされるが、最大13枚重ねられたものが確認された。それ以外に、窯づめの枚数が確認できるものもある。６枚重ね、８枚重ねのものが各１点ずつ、９枚重ねのものが４点、10枚重ねのものが12点、11枚重ねのものが７点、12枚重ねのものが４点、13枚重ねのものが４点で、概ね同一器形の碗が重ねられている。また、上段に皿を重ねたものも認められた。

内面底部に篦記号の施された碗が２点出土している。89は、体部下方にまで至る深く刻まれた１本の線とそれに斜交する浅く細い線が右側に８本､左側に２本短く刻まれている。その形状は葉脈を連想させる。129は、１本の直線が篦で深く刻み込まれている。

多量に出土している碗の中で他例と形態が異なるものが１点ある。165がそれで、いわゆる玉縁状口縁碗と呼ばれているものである。形状は、口縁端部が丸みを帯び、口縁部下方を指なでによってくぼませ､上方を肥厚させて玉縁状の口縁を形成している｡体部は､下方からわずかに丸みをもって開く｡内面底部と体部の立ち上がりぎわには明瞭な稜が認められ、浅く凹んでいる。外面底部には糸目の間隔が広い糸切りの痕跡が残り、高台は中心からややずれて接合され、余剰の粘土が体部下方に盛りあがっている。高台の平面形態は楕円形を示し、先端部分は押圧のためにややつぶれ、台形に近い形状をなし、底面には籾殻痕が認められる。調整は、内外面ともに回転なでが施されている。焼成状況はやや不良で軟質である。法量は、口径17.45㎝、器高6.2㎝、高台径8.4㎝、胴厚0.5㎝、底厚0.75㎝を測り、径高指数は35.53と他の碗より大振りである。

166・167は激しく歪み、外面全体が厚く自然釉におおわれ、内面は全く自然釉が認めら

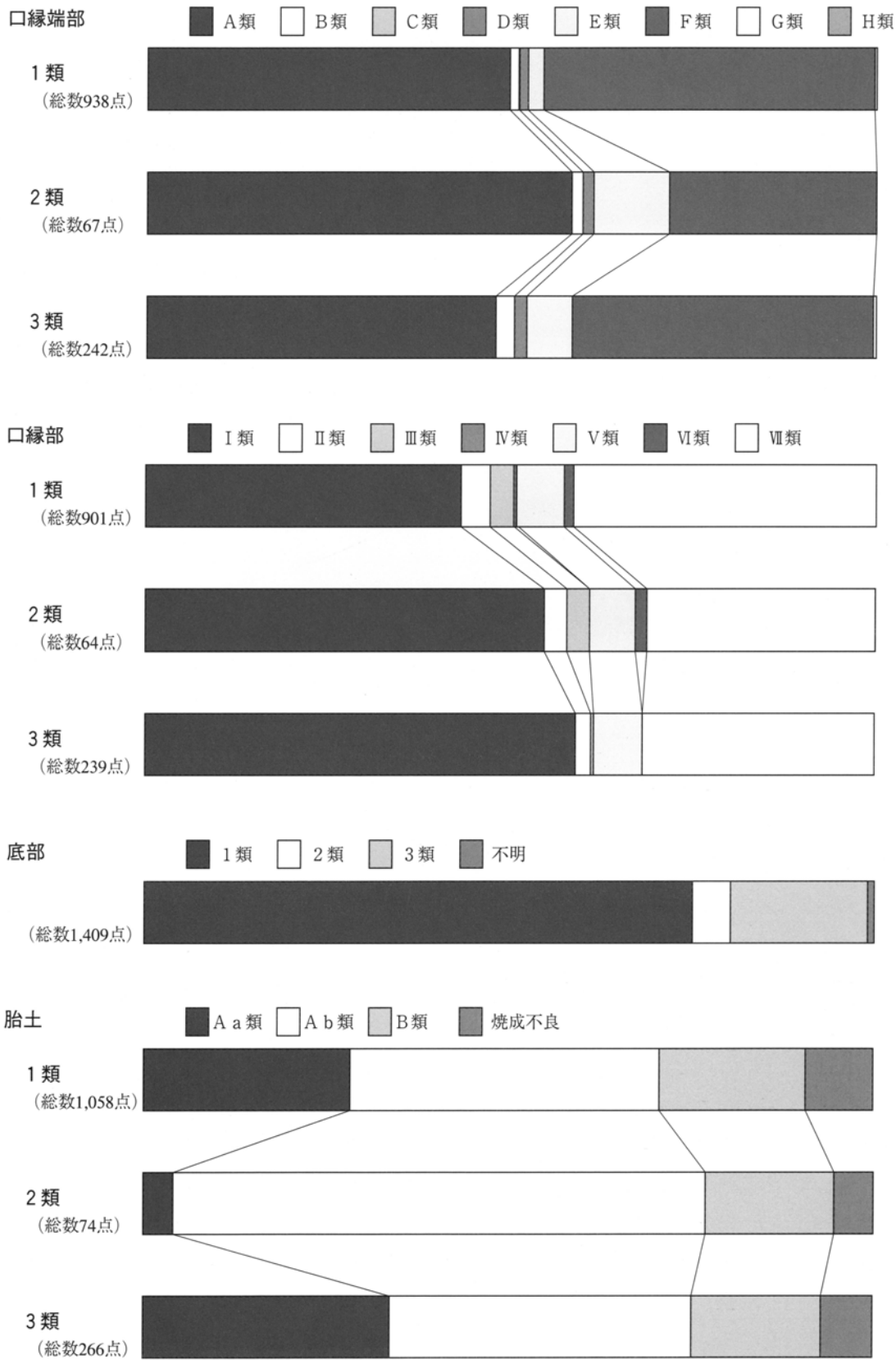
れない。焼成の際に最上部に伏せて使用し、蓋として利用されたものと考えられる。

皿（図版5～7－168～289）

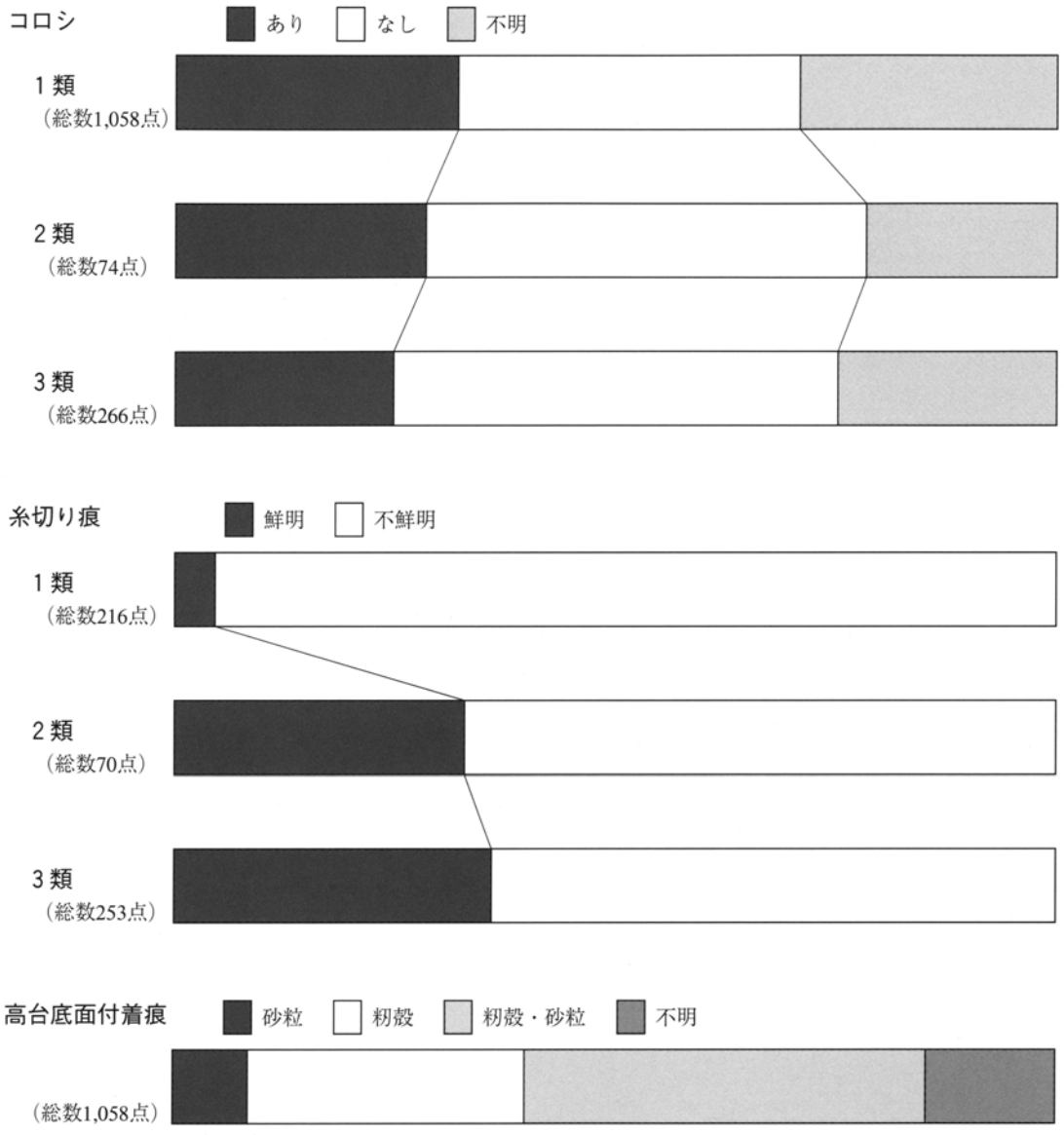
1,409点出土しており、灰原03出土総点数の20.9%を占める。そのうち、底部形態1類が1,058点、2類が74点、3類が266点で、1類が75.1%と大多数を占める。

各部位の形態を底部形態別に観察すると（第13･14図）、口縁端部は、1類がA類44.0%（466点）とF類40.3%（426点）に集中し、2類はA類52.7%（39点）が最も多く、F類25.7%（19点）が次ぐ。3類はA類43.6%（116点）とF類37.6%（100点）に集中する。全体では、A類50.0%（629点）とF類43.6%（548点）に集中する。この傾向は、碗に類似する。体部は、1類がⅠ類36.9%（390点）とⅦ類35.3%（374点）に集中し、2類はⅠ類47.3%（35点）が最も多く、Ⅶ類27.0%（20点）が次ぐ。3類はⅠ類53.0%（141点）が過半数を占め、Ⅶ類28.6%（76点）が次ぐ。全体では、Ⅰ類46.8%（569点）とⅦ類39.3%（478点）に集中する。胎土は、1類でAb類42.4%（449点）が最も多く、次いでAa類28.3%（299点）、B類20.0%（212点）の順となる。また、焼成不良のものも9.3%（98点）ある。2類はAb類73.0%（54点）が大多数を占め、B類17.6%（13点）Aa類4.0%（3点）である。また、焼成不良のものは5.4%（4点）ある。3類はAb類41.4%（110点）が最も多く、次いでAa類33.8%（90点）、B類17.7%（47点）の順となる。また、焼成不良のものは7.1%（19点）ある。全体では、Ab類が43.3%（610点）と最も多く、次いでAa類28.5%（402点）、B類19.6%（276点）の順となる。この傾向は、碗とは異なる。なお、Aa類は灰色の強い灰白色あるいは灰白色を呈し、ほとんどのものの底部中央付近に亀裂が入っている。内面底部に施されているコロシは、1類が32.0%（339点）、2類が28.4%（21点）、3類が24.8%（66点）、全体では427点のものに認められる。全体に占める割合は30.3%と同層出土の碗に比べ約3倍になる。外面底部にみられる糸切り痕の形態は、1類が不鮮明の部類に属すものがほとんどで、95.4%（206点）であるのに対し、2類・3類は、鮮明の部類に属すものの比率が32.9%（23点）、36.0%（91点）と高くなる。板目の痕跡は、1類が2.6%（24点）、2類が15.5%（11点）、3類が4.7%（12点）、全体で47点、3.8%と碗の比率に比べ1/4程度のものにしか認められない。高台底面の付着痕は、籾殻痕と砂粒の付着ないし両方の付着痕を有するものが45.5%（481点）と最も多く、籾殻の付着痕のみを有するものが31.4%（332点）と次ぐ。この傾向は、碗とは異なる。高台は、平面形態が楕円形をなすものが多い。また、ほとんどのものが押圧のため先端部分が大きくつぶれ、断面形態が偏平な形状を示す。

各部位の法量平均値（第5表）は、1類が口径8.78㎝、器高2.57㎝、高台径4.88㎝を測り、径高指数は29.16、2類が口径8.92㎝、器高2.55㎝、底径4.72㎝を測り、径高指数は28.61、3類が口径8.75㎝、器高2.25㎝、底径4.48㎝を測り、径高指数は25.73である。法量を胎土別でみた場合、1類・3類ともAa類が全体的に低い数値を示す。特に、口径・器高・高台径に際立った違いを示す。このことから、1類・3類のAa類（168～194・262～270）の皿は、小振りで低く、薄手であるといえる。1類の体部をみた場合（第6表）、Ⅰ



第13図　灰原03出土皿底部形態別形態分類組成図（1）



第14図　灰原03出土皿底部形態別形態分類組成図（2）

		口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	底径 (cm)	体厚 (cm)	底厚 (cm)	径高指数	点数
1 類		8.78	2.57	4.88		0.36	0.69	29.16	1,058
胎土	Aa類	8.33	2.23	4.60		0.30	0.63	26.80	299
	Ab類	8.86	2.69	4.95		0.39	0.70	30.34	449
	B 類	9.04	2.65	4.94		0.36	0.70	29.30	212
2 類		8.92	2.55		4.72	0.40	0.76	28.61	74
胎土	Aa類	8.98	2.48		4.75	0.35	0.70	28.30	3
	Ab類	8.95	2.56		4.71	0.40	0.78	28.60	54
	B 類	8.72	2.41		4.70	0.43	0.73	27.64	13
3 類		8.75	2.25		4.48	0.36	0.66	25.73	266
胎土	Aa類	8.38	1.98		4.09	0.31	0.62	23.61	90
	Ab類	8.90	2.39		4.71	0.39	0.66	26.82	110
	B 類	9.04	2.39		4.56	0.37	0.68	26.52	47

第5表　灰原03出土皿法量平均値（底部形態別・胎土別）

形態	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	径高指数	点数
Ⅰ類	8.65	2.41	4.77	27.84	355
Ⅱ類	9.42	2.89	5.19	30.77	36
Ⅲ類	9.39	2.81	5.15	29.98	29
Ⅴ類	8.86	2.79	5.03	31.56	59
Ⅵ類	9.03	2.60	4.99	28.85	12
Ⅶ類	8.78	2.63	4.89	29.88	323

※主な形態のみ

第6表　灰原03出土皿底部形態1類法量平均値（体部主要形態別）

器　形	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	底径 (cm)	体厚 (cm)	底厚 (cm)	径高指数	点数
1A Ⅰ Aa	8.28	2.17	4.55		0.28	0.64	26.19	86
1F Ⅰ Aa	8.24	2.15	4.56		0.29	0.62	26.03	79
1A Ⅶ Aa	8.31	2.31	4.58		0.32	0.64	27.73	41
1F Ⅶ Aa	8.49	2.40	4.68		0.32	0.65	28.28	45
1A Ⅰ Ab	8.80	2.58	4.97		0.36	0.69	29.36	48
1F Ⅰ Ab	8.86	2.62	4.91		0.36	0.68	29.57	46
1A Ⅴ Ab	8.89	2.81	5.02		0.39	0.67	31.66	21
1A Ⅶ Ab	8.88	2.70	4.97		0.39	0.72	30.45	110
1F Ⅶ Ab	8.80	2.73	4.95		0.39	0.74	31.06	82
1A Ⅰ B	9.11	2.65	4.86		0.36	0.74	29.08	48
1F Ⅰ B	9.08	2.63	4.98		0.35	0.73	28.98	47
1A Ⅶ B	9.01	2.65	4.88		0.39	0.69	29.38	27
1F Ⅶ B	8.99	2.60	4.95		0.35	0.72	29.03	21
1F Ⅱ	9.44	2.97	5.23		0.50	0.91	31.55	18
2A Ⅰ Ab	9.04	2.57		4.83	0.39	0.80	28.45	19
3A Ⅰ Aa	8.34	1.91		4.09	0.30	0.62	22.89	31
3F Ⅰ Aa	8.31	1.94		3.97	0.31	0.61	23.25	22
3F Ⅶ Aa	8.49	2.11		4.29	0.33	0.61	24.93	18
3A Ⅰ Ab	9.01	2.42		4.79	0.37	0.68	26.84	27
3F Ⅰ Ab	8.97	2.42		4.67	0.36	0.72	26.99	19
3A Ⅶ Ab	8.72	2.38		4.64	0.41	0.65	27.23	16
3F Ⅰ B	9.16	2.45		4.53	0.37	0.77	26.74	13

第7表　灰原03出土皿法量平均値（主要器形別）

類（168～184・191・192・195～200・225～232・241・242）のものが口径・器高・高台径とも低い数値を示す。Ⅱ類（201・202・233・243～246）・Ⅲ類（203～205・247・248）は全体的に高い数値を示し、大振りの器形である。Ⅴ類（206・207・235・236）は口径が小さいため、径高指数が最も高い値を示す。

口縁端部、体部、胎土を統合した器形をみた場合（第7表）、1類ではＡⅦＡｂ型（209～215）が110点と最も多く、ＡＩＡａ型（168～176）（86点）、ＦⅦＡｂ型（220～224）（82点）、ＦＩＡａ型（179～184）（79点）が次ぐ。2類ではＡＩＡｂ型（253・254）の19点が最も多い。3類ではＡＩＡａ型（262～265）が31点と最も多く、ＡＩＡｂ型（271～

273）（27点）、ＦＩＡａ型（266～268）（22点）が次ぐ。法量は、底部形態別・胎土別で得られた結果と類似する。

法量平均値および肉眼による観察から、明らかに特徴的なものがある。それは、胎土Ａａ類、体部Ⅱ類・Ⅲ類・Ⅴ類である。

皿の中にも口縁端部に粘土紐の末端とみなされる顕著な段差がみられるもの（175・178・179・186・189・191・205・215・218・227・229・230・232・237・238・241・244・251・254・257・259・267・271・273・274・280・286・287）や体部に粘土紐の継目とみなされる浅い線状の凹みが横方向に認められるもの（169・181・201・202・207・208・209・216・219・247・248・253・266・272・278・284）、粘土紐の末端と継目両方が確認できるもの（195・249・283）がある。このことから、碗と同様に皿も粘土紐による成形とみなすことができる。しかし、輪積みか巻き上げかは判然としない。

多数出土している皿の中で、底部に穴（孔）の認められるものがある。これには、突き抜けている孔のもの（277・280）と突き抜けていない穴のもの（194・211・217・272）の二種類がある。突き抜けていない穴のものはいずれも外面底部にみられる。280は、孔の形が不整形をなし、内面底部には孔をふさぐように調整痕がみられることから自然に開いた穴の可能性が考えられる。194・217・272は断面形態が尖頭形を、211は山形を、277は平面形態が楕円形をなす。５点とも人為的に開けられた可能性も考えられる。

融着した皿も多く、最大８枚重ねられたものが確認された。289がそれであるが、上から３枚目と最下段の８枚目が３類、１・２枚目と４～７枚目が１類であり、１類と３類が混在する。これは、１類と３類のものが同時期に作られていることを示している。

鉢（図版７－290～298）

17点が出土した。鉢の器形および法量は多様である。片口が確認できるものは５点ある。

290・291は口径25㎝以下の小型の鉢である。

290は碗よりわずかに大きい小型の鉢で、片口を持つ。口径18.0㎝。体部は湾曲して立ち上がり、口縁部は外面を凹ませず、端部をわずかに外反させる。口縁端部は内側に押さえて面をつくる。口縁部には粘土紐積み上げ成形による段差が残る。調整は内外とも回転なでを施す。内面に重ね焼きの痕跡あり。290と口縁部の形態・大きさが同じで、片口を持つ鉢の破片がこの他に３点出土している。

291は小型の鉢で、口径22.2㎝、器高8.7㎝。体部は高台脇で丸みをもって立ち上がったあと内湾ぎみに開き、口縁部は外面を若干なで押さえして凹ませ、外に開く。口縁端部は内側に押さえ、明瞭な面をつくる。器壁は薄い。高台は細く高くつくり、外面は強くなで押さえて湾曲させ、内面は内側に傾斜させる。調整は、内外面とも回転なでを施すが、高台外面の貼り付け部のなで調整はきわめて雑である。高台底面には籾殻痕が若干認められる。内面底部にはコロシあり。291と高台が同じ形態の破片が、この他に２点出土しており、いずれも底面には籾殻痕が残っている。

292～294は口径25㎝以上の大型の鉢である。

292は口径25.4㎝。体部はやや内湾ぎみに立ち上がり、口縁部は外面をなで押さえして若干凹ませ、外に開く。口縁端部は内側に押さえ、明瞭な面をつくる。調整は内外面とも回転なでを施すが、高台脇には削り痕が残り、外面底部は削り後回転なで調整している。なお、外面底部は自然釉が薄く付着した状態になっている。体部外面下部には、紐状の道具による接触痕が未調整のまま残る。接触痕は粘土が柔らかい状態で付いており、対称的な位置にある二ケ所で途切れ、その部分は傾斜して高くなっている。成形後に紐状の道具を使って持ち上げた痕跡と推測される。内面底部には重ね焼きの痕跡がある。

293は口径26.4㎝。体部は内湾ぎみに開き、口縁部は外面をわずかになで押さえして凹ませる。口縁端部は面をつくらず丸く仕上げる。体部外面には成形による凹凸が多く残る。調整は内外面とも回転なでされるが、外面下部は削りを施している。削り部分のすぐ上には紐状の圧痕が残る。内面底部には重ね焼きの痕跡がある。

294は口径27.6㎝、高台径14.5㎝、器高12.8㎝の片口の付いた鉢。体部は内湾ぎみに開き、口縁部は外面をなで押さえして凹ませ、内面は稜をつくって外側に折れる。口縁端部は丸みをもって仕上げる。内面底部が狭く、体部の立ち上がりとの間に粘土接合時の境が段差となって残る。高台は端部を丸く仕上げる。調整は、内外面とも回転なでにより整えるが、外面底部は非回転削りが施されている。外面底部中央には細かい剥離痕があり、凹みに自然釉が溜まっている。この自然釉は焼成前の工程で底面に付いた灰が焼成時に溶けた可能性が考えられる。

295・296は鉢の底部で、器壁がやや薄いことから小型の鉢と考えられる。

295は高台径9.85㎝。内面体部の立ち上がりは押さえによって凹み、底部との境に明確な稜をつくる。底厚が厚いのに対して、体部はかなり薄い。高台は低く、端部は丸みを持つ。高台外面は強くなで押さえされてハの字に開き、内面は内側に傾斜する。高台の貼り付けは雑で、中心からかなりずれている。調整は内外面とも回転なでを施す。高台底面には砂粒が付着する。

296は高台径11.0㎝。体部は内湾して曲線的に立ち上がる。内面底部と体部の間には明瞭な境を持たない。高台は低く、外面はほぼ直立し、内面は内側に傾斜する。高台底面には籾殻圧痕がある。調整は内外面とも回転なでを施すが、高台脇には削り痕が認められる。外面底部には糸切り痕が残る。

297は大型の鉢か。口径は約32.5㎝。ただし、歪みが大きいので推定値である。口径のわりに浅い形となるので、鉢以外の器種の可能性もある。内面底部には篦状工具により線刻が施されているが、残りも悪く、線刻の全体の形象は不明である。体部は内湾して曲線的に立ち上がり、口縁部は外面をなで押さえして凹ませ、外に開く。口縁端部は内側に押さえて面をつくる。調整は内外面とも回転なでを施すが、外面底部は未調整で砂粒が若干付着している。体部下半の仕上げはきわめて雑で、成形後の何らかの道具の接触痕がそのまま残る。道具の痕跡は水平方向の紐状の圧痕と、角度不定の上方向への短い擦痕、および底部脇のやや深い圧痕がある。いずれも粘土がかなり柔らかい状態で付いたものである。

水平方向の圧痕は上方向に引きずった痕を伴なう。これは紐状の道具を成形後の持ち上げに使った痕であると推測される。292・293の圧痕も同様の原因に因るものと考えられる。胎土は精良であるが、高台の剥がれた痕には砂粒が多く付着している。

298は特殊器形の鉢。火舎香炉か。口径27.2㎝、器高は残存部分で8.5㎝。高台部分は、丁寧になで整形されており、底部が内傾していることから、高台ではなく突帯である可能性もある。体部外面にはほぼ等間隔に4単位1～3条の沈線が認められる。ただし、下半部の調整が雑で、削り痕も多く線状に残っているため、下2単位については沈線の範囲が明確でない。沈線は粘土が乾いた状態で施されているが、最下段はあまり乾燥していない状態で施されている。体部は外面がやや外反気味に直線的に立ち上がるが、内面は中ほどで稜を作って角度を変える。口縁部は屈曲して内側に幅1.5㎝程の面をなす。口縁端部は外面をやや内側に押さえて明瞭な面をつくる。調整は、内面と外面上部および高台付近は丁寧に回転なでされている。外面下部には横方向に強くなで押さえした粗整形段階の痕跡が残り、その後に削りが施されている。なお、外面上部に1ケ所、鉛直方向の浅い引き掻き痕がある。これは沈線を施す前についたもので、故意に施されたものである可能性もある。

壺（図版7－299・8－300）

三筋紋壺1点および篦描き紋のある壺1点が出土した。

299は三筋紋壺である。口径11.6㎝、底径10.8㎝、器高22.2㎝。肩部から胴部に三筋紋を施すが、施紋は雑で、沈線は途中で途切れてしっかり全周せず、1単位に1～3条の間で一定しない。口縁部は頸部よりほぼ垂直に短く立ち上がり、端部付近で屈曲する。内面頂部は面をなし、なで押さえされて凹む。口縁端部はわずかに上に摘み上げられ、外面には明瞭な面をつくる。肩部は直線的に短く外に張り出した後、屈曲して最大径部分に至り、底部まで直線的に下がる。整形は、内面全体および外面口縁部までは丁寧な回転なでが施されるが、外面頸部以下は回転削り後回転なでを施し、底部脇は横方向の削りを施している。外面底部は無調整か。わずかに籾殻痕と砂粒の付着があり、全面に薄く自然釉がかかったような状態になっている。この自然釉は焼成前の工程で底面に付いた灰が焼成時に溶けた可能性が考えられる。また碗の小破片が付着している。肩部以上にはかなりの自然釉あり。

300は肩部に篦描きの施された壺である。篦描きは1ケ所に2個のまとまりをもって描かれているが、意匠あるいは字種は不明。口径15.4㎝、胴部最大径23.6㎝、器高は残存部分が31.1㎝。口縁部は頸部より直線的に外に開き、端部付近で屈曲し、内面頂部に面をなす。口縁端部は上に摘み上げられ、外面に面をつくる。肩部は張りが弱く緩やかに湾曲し、口縁より13.4㎝のところで最大径を持つ。整形は、内外面とも肩部以上を回転なでで整える。口縁部には丁寧な回転なでが施されるが、胴部以下の仕上げは雑で、外面下部には下から上への縦方向の板なでの痕跡が浅く残り、胴部中央から肩にかけては横方向の板なでを施している。底部脇には横方向の削りが施される。内面は最大径部分までは回転なでが施されるが、胴部以下はやや斜め左上がりの横なでを施し、底部付近は板の角のようなもので押さえて雑に回転した痕が未調整で残る。

焼台（図版８－301～305）

窯道具として多量の焼台が出土しているが、ここでは５点のみ紹介する。

301～304は、上面平坦部に直径７～９㎝の円形の凹みがみられるため、碗用であろう。いずれも凹みに籾殻痕が認められる。

305は、他のものと比べ、大振りである。籾殻痕が認められる上面平坦部には幅３～５㎝の帯状の凹みが２ないし３条ある。どのような器種を据えたかは詳らかでないが、鉢や壷など比較的大物に用いられたと考えられる。底部の傾斜角度が０度であることから、燃焼室に隣接した平坦な場所に置かれたと判断できる。

５点とも胎土は灰色を呈す。

土師質鍋（図版８－306）

いわゆる伊勢型鍋が２点出土している。

306は、口縁部が1/3程度残存しているのみである。口径は推定28.5㎝。頚部と体部の境に稜をもつ。口縁部は高さ1.8㎝を測り、緩やかに内湾する。口縁端部は短く内側に折り返され、その先端はわずかに突出している。胎土は橙色だが、外面は褐灰色に変色している。

３．ＳＹ01築窯時排出土（第３層）に関する遺物

碗が21点、皿が６点あるが、いずれも灰原03直上から出土している。

碗（図版８－307～310）

口縁端部から底部まで残存している単体のものは４点ある。

器形は、口縁端部がＡ類・Ｂ類・Ｆ類と様々であるが、口縁部は309がｇ類、ほかの３点がｃ類である。体部は全てⅠ類である。310が断面三角形の高台で、胎土がＢ類である以外は、全て偏平につぶれた高台をもち、胎土がＡｂ類である。高台底面は、６点に籾殻痕がみられるほかは全て籾殻痕と砂粒の付着がみられる。糸切り痕は、全て糸目の間隔が広い、不鮮明の部類に属す。また、309は板目の痕跡も認められる。内面底部にコロシの認められるものは１点のみである。

21点のうち14点は融着したもので、器形は、全て口縁端部がＡ類、口縁部がｂ類、体部はⅠ類と同一器形の碗が重ねられている。

皿（図版８－311～315）

底部形態１類のものが５点、３類のものが１点出土している。胎土は全てＡｂ類である。

１類のもの（311～314）は、全て偏平につぶれた高台をもち、その底面は、312が籾殻痕と砂粒の付着がみられる以外は全て籾殻痕のみである。糸切り痕の残るものは１点のみで、糸目の間隔が広い不鮮明の部類に属す。器形は、口縁端部がＡ類・Ｂ類・Ｄ類と様々であるが、体部は311がⅠ類のほか３点がⅦ類である。内面底部にコロシの認められるものは311の１点のみである。

３類である315は、口縁端部Ａ類、体部Ⅰ類であり、糸目が連続した糸切り痕が鮮明に

認められる。

4．灰原02に関する遺物

遺物の出土点数は、2,162点、全体の24.2%である。器種は、碗・皿・鉢・壺がある。また、焼台も多量に出土している。

碗（図版9～11－316～395）

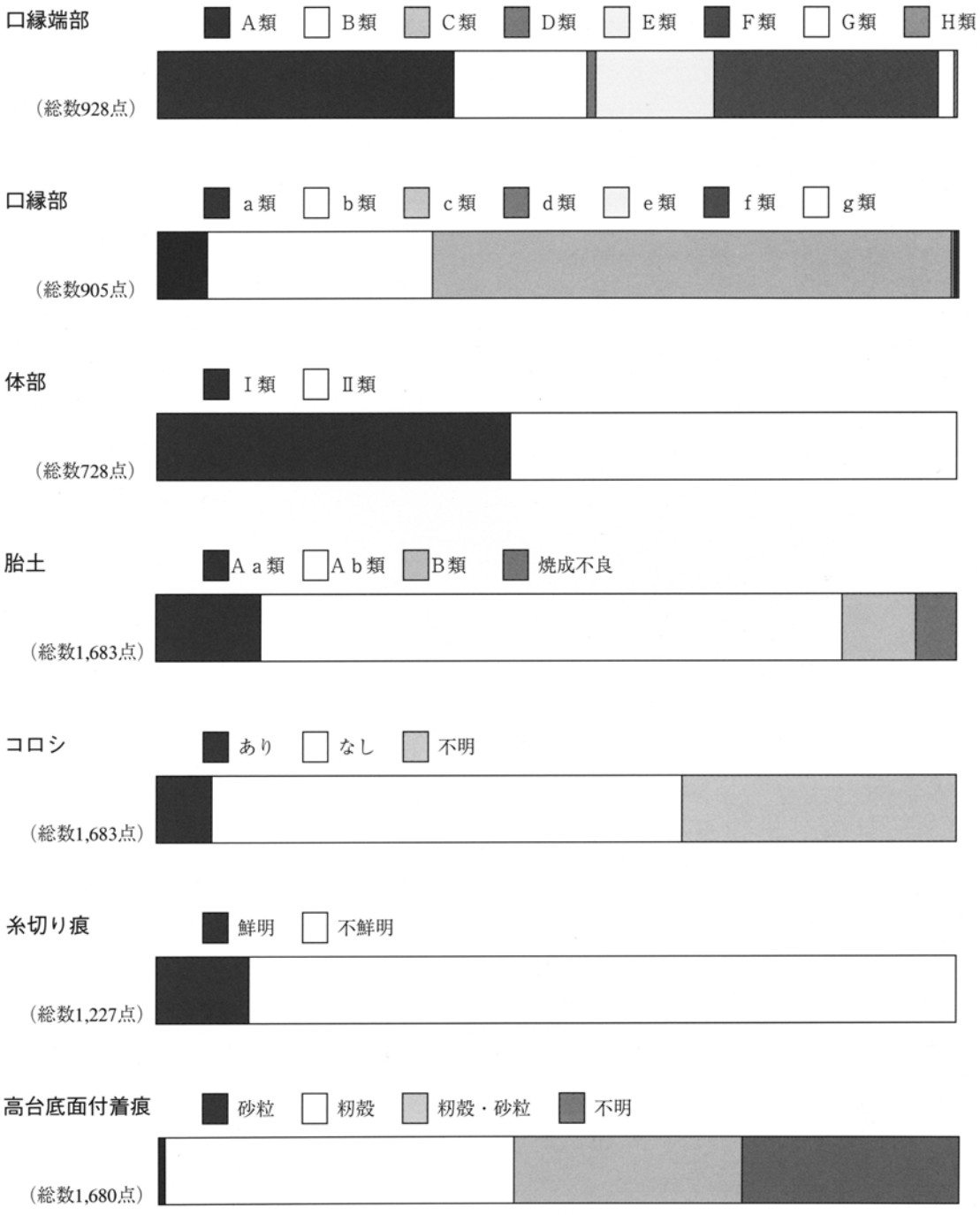
1,683点出土しており、灰原02出土総点数の77.8%を占める。

各部位の形態を観察すると（第15図）、口縁端部は、A類37.0%（343点）と最も多く、次いでF類28.0%（260点）、B類16.7%（155点）、E類14.8%（137点）である。口縁部は、c類64.8%（586点）が過半数を占め、b類28.1%（254点）が次に多い。体部はⅠ類が44.2%（322点）、Ⅱ類が55.8%（406点）とⅡ類が過半数を占めるが、数に大きな隔たりはない。胎土は、Ab類が72.7%（1,223点）と大多数を占め、次いでAa類13.1%（221点）、B類9.2%（154点）の順となる。また、焼成不良のものも5.1%（85点）ある。なお、B類は全て灰色の強い灰白色を呈す。内面底部に施されているコロシは、116点のものに認められるが全体に占める割合は6.9%と少ない。外面底部にみられる糸切り痕の形態は、糸目の間隔が広い、不鮮明の部類に属すものが88.4%（1,085点）とほとんどである。板目の痕跡は、210点、16.5%のものに認められる。高台底面の付着痕は、籾殻の付着痕のみを有するものが43.6%（732点）と最も多く、籾殻痕と砂粒の付着ないし付着痕両方を有するものが28.5%（479点）と次いでいる。高台は、平面形態が楕円形をなすものが多い。また、ほとんどのものが押圧のため先端部分が大きくつぶれ、断面形態が偏平な形状を示す。なお、390は2個体が融着しているものだが、いずれも高台をもたない碗である。

多くのものが焼け歪んでいる。また、焼成不良のものも85点あるため、各部位の法量にばらつきがあるが、平均すると口径16.46㎝、器高5.03㎝、高台径8.46㎝を測り、径高指数は30.59である（第8表）。法量を胎土別でみた場合、Aa類が全体的に低い数値を示すのに対し、B類は高い数値を示す。このことから、Aa類（316～323・326～330・373）のものはやや小振りで薄手、B類（391）のものはやや大振りで厚手といえる。各部位ごとにみると（第9表）、口縁端部ではE類（324～332）が器高が最も低い。口縁部では、a類（325・326・335～338・359・360・384・392）が最も大きい口径となっており、b類（316・320・339～347・358・361～365）が最も大きい径高指数の値を示す。体部は、Ⅱ類のほうが口径が大きく、器高が低い。

口縁端部、口縁部、体部、胎土を統合した器形をみた場合（第10表）、AcⅡAb型（366～373）が74点と最も多く、AcⅠAb型（348～352）（53点）、EcⅡAb型（331・332）（51点）、AbⅠAb型（339・340）（38点）、FbⅡAb型（364・365）（36点）、FcⅡAb型（379～382）（35点）、BcⅠAb型（353～355）（31点）、FcⅠAb型（356・357）（31点）、EcⅡAa型（327～330）（30点）が次ぐ。法量は、口縁端部E類のものが低い器高を示す。点数が少ないこともあるためか、ほかは傾向をとらえることができない。

法量平均値および肉眼による観察から明らかに特徴的なものがある。それは、口縁端部E



第15図　灰原02出土碗形態分類組成図

		口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	体厚 (cm)	底厚 (cm)	径高指数	点数
全体		16.46	5.03	8.46	0.47	0.92	30.59	1,683
胎土	Aa類	16.24	4.81	8.28	0.43	0.93	29.60	211
	Ab類	16.46	5.03	8.46	0.47	0.91	30.61	1,223
	B 類	16.62	5.24	8.60	0.51	0.96	31.56	154

第 8 表　灰原02出土碗法量平均値（全体・胎土別）

	形態	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	径高指数	点数
口縁端部	A 類	16.45	5.00	8.48	30.39	343
	B 類	16.45	5.18	8.45	31.72	155
	D 類	16.36	5.16	8.29	31.53	10
	E 類	16.54	4.65	8.35	27.91	137
	F 類	16.43	5.13	8.49	31.22	260
	G 類	16.78	5.09	8.55	30.29	19
口縁部	a 類	16.69	5.04	8.54	30.24	56
	b 類	16.38	5.14	8.42	31.44	254
	c 類	16.48	4.97	8.46	30.17	586
体部	Ⅰ 類	16.41	5.15	8.44	31.45	322
	Ⅱ 類	16.57	4.94	8.49	29.85	406

※主な形態のみ

第 9 表　灰原02出土碗法量平均値（主要形態別）

器形	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	体厚 (cm)	底厚 (cm)	径高指数	点数
Ac Ⅱ Aa	16.38	4.60	8.43	0.47	0.96	28.02	20
Ec Ⅱ Aa	16.60	4.65	8.42	0.47	0.95	27.92	30
Ec Ⅰ Ab	16.56	4.77	8.32	0.48	0.84	28.17	16
Ec Ⅱ Ab	16.59	4.63	8.34	0.47	0.89	27.87	51
Ab Ⅰ Ab	16.41	5.20	8.49	0.49	0.99	31.70	38
Bb Ⅰ Ab	16.22	5.14	8.32	0.46	0.98	31.76	17
Fb Ⅰ Ab	16.38	5.19	8.36	0.47	0.85	31.70	21
Ac Ⅰ Ab	16.33	5.06	8.48	0.51	0.92	31.14	53
Bc Ⅰ Ab	16.19	5.26	8.36	0.51	0.94	33.24	31
Fc Ⅰ Ab	16.51	5.14	8.47	0.49	0.95	31.08	31
Ab Ⅱ Ab	16.43	5.04	8.42	0.46	0.97	30.64	19
Bb Ⅱ Ab	16.58	5.13	8.49	0.46	0.91	31.22	19
Fb Ⅱ Ab	16.61	5.11	8.64	0.45	0.80	30.86	36
Ac Ⅱ Ab	16.52	4.86	8.40	0.47	0.88	29.55	74
Bc Ⅱ Ab	16.90	4.98	8.79	0.48	0.84	29.48	18
Fc Ⅱ Ab	16.56	5.06	8.65	0.45	0.83	30.62	35

第 10 表　灰原02出土碗法量平均値（主要器形別）

類である。

碗の中には口縁端部に粘土紐の末端とみなされる顕著な段差がみられるもの（316・318・323・337・347・362・377・379・384・387）や体部に粘土紐の継目とみなされる浅い線状の凹みが横方向に認められるもの（340・345・348・367・382・388）がある。このことから、灰原03出土の碗と同様に、粘土紐による成形とみなすことができる。しかし、輪積みか巻き上げかは判然としない。

融着した碗も多く、最大12枚重なったものが確認された。窯づめの枚数が確認できるものも、8枚重ねが2点、7枚、9枚、12枚重ねが各1点ずつ出土している。概ね同一器形の碗が重ねられている。また、上段に皿を重ねたものも認められた。

多量に出土している碗の中で、特殊なものがある。395がそれである。底部残存率7/12、体部の残存長最大2.5㎝と残存状況はあまりよくないが、体部残存最長部分が底部欠損部分と対角上に位置し、その破面から外面体部にかけて長さ約6㎝、幅約2㎝の範囲でわずかに磨耗している。焼成状況は良好であるため、自然に磨耗したとは考えにくい。また、外面底

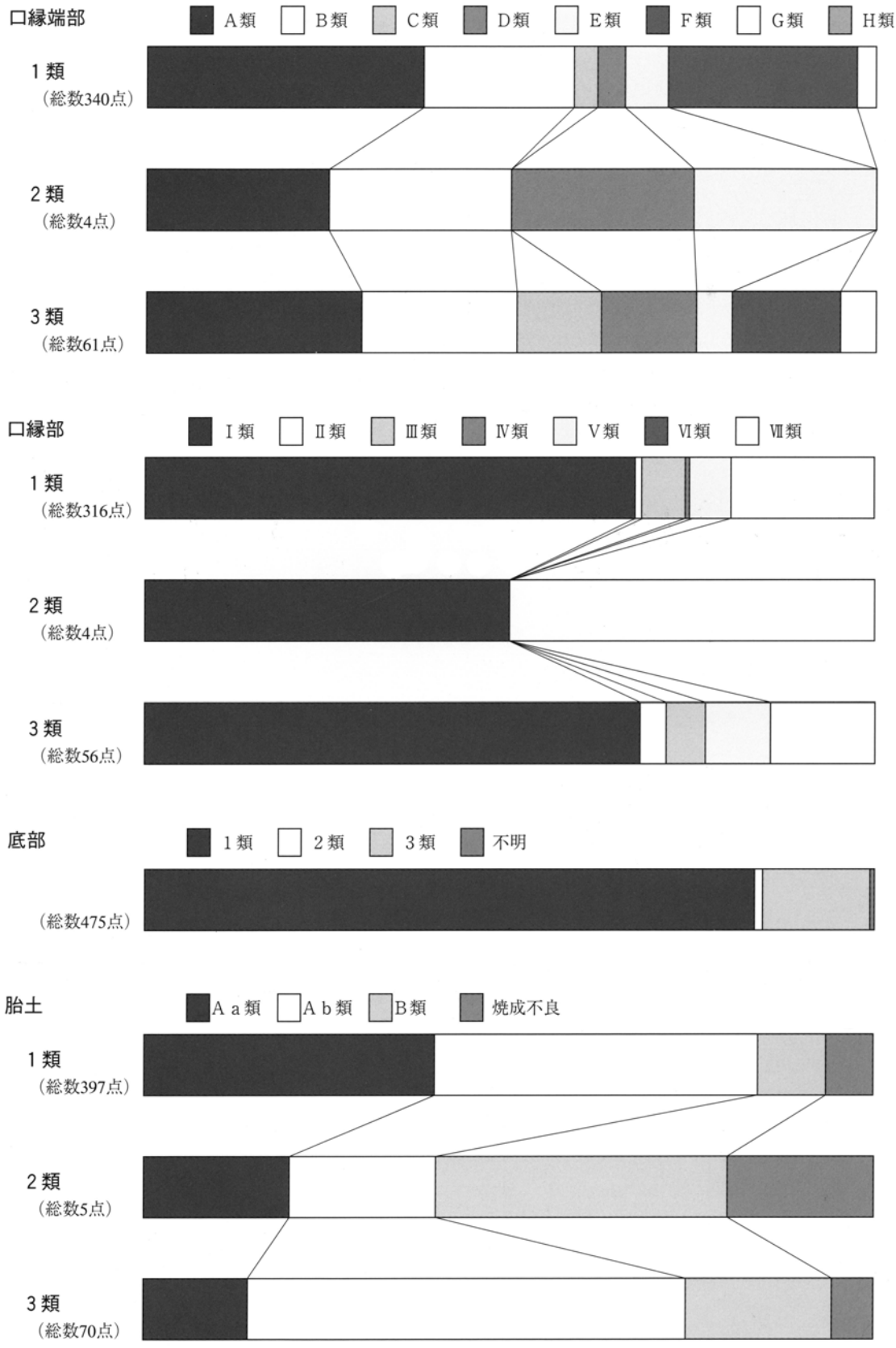
部を親指側に向け、底部欠損部分から手を入れて握るとよく手になじむ。つまり、この状態で手に持って使用した道具として転用されたものと考えられる。どのような目的に使用されたか特定しえないが、焼成後、窯から取り出された碗、皿などの表面にみられる細かな凹凸を削りとるためのもの、あるいは、磨耗部分の破面の曲線、特に下方の曲線が、体部形態Ⅰ類の内面底部と体部の立ち上がりぎわから体部下方にかけての局線に類似しており、わずかに磨耗している状況が極めて軟質なものに使用されたとも想定できることから、碗を整形する際に用いられるいわゆるコテに転用されたものと考えることも可能であろう。

皿（図版11－396～443）

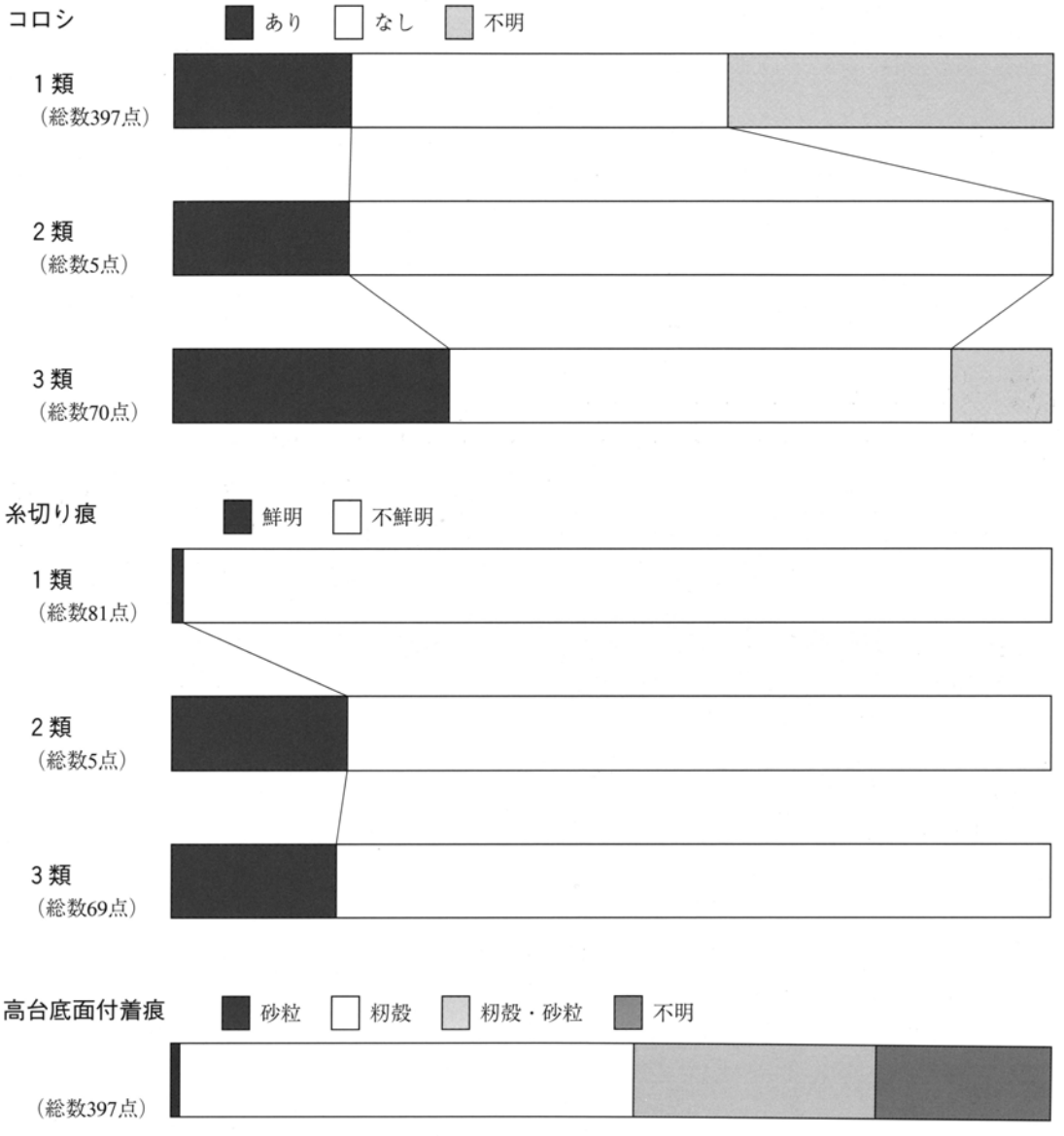
475点出土しており、灰原02出土総点数の22.0%を占める。そのうち、底部形態1類が397点、2類が5点、3類が70点で、1類が83.6%と圧倒的多数を占める。

2類の出土量が5点とわずかなため、各部位の形態を底部形態1類および3類について観察する（第16･17図）。口縁端部は、1類がA類32.5%（129点）と最も多く、F類22.2%（88点）、B類17.6%（70点）が次ぐ。3類はA類25.7%（18点）、B類18.6%（13点）、F類12.9%（9点）、D類11.4%（8点）、C類10.0%（7点）である。出土量が少ないこともあるが、各類型の比率に大きな隔たりはみられない。全体では、A類36.3%（148点）が最も多く、F類24.0%（98点）が次ぐ。この傾向は碗と類似する。体部は、1類がⅠ類53.4%（212点）と過半数を占め、Ⅶ類15.6%（62点）が次ぐ。3類もⅠ類54.3%（38点）が過半数を占め、Ⅶ類11.4%（8点）が次ぐ。全体でもⅠ類67.3%（255点）が過半数を占め、Ⅶ類19.0%（72点）が次ぐ。胎土は、1類がAb類44.3%（176点）、Aa類39.8%（158点）、B類9.3%（37点）である。また、焼成不良のものも6.5%（26点）ある。3類はAb類60.0%（42点）が過半数を占め、次いでB類20.0%（14点）、Aa類14.3%（10点）の順となる。また、焼成不良のものは5.7%（4点）ある。全体では、Ab類が45.1%（214点）と最も多く、次いでAa類36.8%（175点）、B類11.4%（54点）の順となる。この傾向は碗と類似するが、Aa類の比率は碗の約3倍である。内面底部に施されているコロシは、1類が20.2%（80点）、3類が31.4%（22点）、全体では104点のものに認められる。全体に占める割合は21.9%と同層出土の碗に比べ約3倍になる。外面底部にみられる糸切り痕の形態は、1類が不鮮明の部類に属すものがほとんどで、98.8%（80点）であるのに対し、3類は、鮮明の部類に属すものの比率が18.8%（13点）と高くなる。板目の痕跡は、1類が0.9%（3点）、3類が5.8%（4点）、全体で8点、2.0%と碗の比率に比べ1/8程度のものにしか認められない。高台底面の付着痕は、籾殻の付着痕のみを有するものが51.6%（205点）と過半数を占め、籾殻痕と砂粒の付着ないし付着痕両方を有するものが27.5%（109点）と次ぐ。この傾向は、碗と類似する。高台は、平面形態が楕円形をなすものが多い。また、ほとんどのものが押圧のため先端部分が大きくつぶれ、断面形態が偏平な形状を示す。

各部位の法量平均値（第11表）は、1類が口径8.90㎝、器高2.63㎝、高台径4.98㎝を測り、径高指数は29.37、2類が口径8.96㎝、器高2.60㎝、底径4.46㎝を測り、径高指数



第16図　灰原02出土皿底部形態別形態分類組成図（1）



第17図　灰原02出土皿底部形態別形態分類組成図（2）

		口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	底径 (cm)	体厚 (cm)	底厚 (cm)	径高指数	点数
1 類		8.90	2.63	4.98		0.41	0.66	29.37	397
胎土	Aa類	8.85	2.61	4.97		0.38	0.62	28.76	158
	Ab類	8.91	2.62	4.94		0.41	0.67	29.58	176
	B 類	8.92	2.68	4.98		0.47	0.70	30.10	37
2 類		8.96	2.60		4.46	0.46	0.74	28.60	5
胎土	Aa類	8.80	2.45		4.60	0.45	0.75	29.55	1
	Ab類	8.80	2.60		3.90	0.45	1.05	27.84	1
	B 類	9.13	5.23		4.68	0.48	0.73	28.50	2
3 類		8.85	2.33		4.60	0.44	0.71	26.32	70
胎土	Aa類	8.60	2.31		4.21	0.41	0.78	26.88	10
	Ab類	8.84	2.31		4.72	0.46	0.70	26.19	42
	B 類	9.05	2.40		4.63	0.44	0.63	26.47	14

第 11 表　灰原02出土皿法量平均値（底部形態別・胎土別）

形態	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	径高指数	点数
Ⅰ 類	8.94	2.63	5.00	29.42	212
Ⅲ 類	8.68	2.59	4.91	29.73	19
Ⅴ 類	8.90	2.69	4.81	30.46	18
Ⅶ 類	8.85	2.64	4.98	28.60	62

※主な形態のみ

第 12 表　灰原02出土皿底部形態 1 類法量平均値（体部主要形態別）

器　形	口径 (cm)	器高 (cm)	高台径 (cm)	体厚 (cm)	底厚 (cm)	径高指数	点数
1A Ⅰ Aa	9.05	2.69	5.03	0.40	0.56	29.51	36
1B Ⅰ Aa	8.85	2.59	4.97	0.41	0.65	29.11	10
1F Ⅰ Aa	8.76	2.58	4.86	0.33	0.66	29.45	22
1F Ⅶ Aa	8.60	2.61	4.87	0.37	0.73	30.36	15
1A Ⅰ Ab	9.15	2.67	5.10	0.40	0.63	29.30	41
1F Ⅰ Ab	8.72	2.59	4.80	0.35	0.65	29.75	24
1B Ⅰ	9.09	2.73	5.29	0.43	0.74	30.08	15

第 13 表　灰原02出土皿法量平均値（主要器形別）

は 28.60、３類が口径 8.85 ㎝、器高 2.33 ㎝、底径 4.60 ㎝を測り、径高指数は 26.32 である。法量を胎土別でみた場合、各類型とも際立った違いはみられない。１類の体部をみた場合（第 12 表）、Ⅲ類（414・415）は口径・器高が低い数値を示し、Ⅴ類（416・417）は高台径が低い数値を示す。また、器高が高いため、径高指数が最も高い値を示す。

口縁端部、体部、胎土を統合した器形をみた場合（第 13 表）、１類のＡＩＡｂ型（406 ～ 408）が 41 点と最も多く、ＡＩＡａ型（36 点）、ＦＩＡｂ型（411 ～ 413）（24 点）、ＦＩＡａ型（22 点）が次ぐ。

法量平均値および肉眼による観察から、明らかに特徴的なものがある。それは、体部Ⅲ類・Ⅴ類である。

多量に出土している皿の中で口縁端部に粘土紐の末端とみなされる顕著な段差がみられるもの（401・409・411・413・414・421・425・435・437）や体部に粘土紐の継目とみなされる浅い線状の凹みが横方向に認められるもの（402・403・419・424・429・431・434）、粘土紐の末端と継目両方が確認できるもの（426・428・438）がある。このことから、碗と同様に皿も粘土紐による成形とみなすことができる。しかし、輪積みか巻き上げかは判然としない。

多数出土している皿の中で、外面底部に穴が認められるものがある（419）。断面形態は台形をなし、整った形の穴であることから人為的に開けられた可能性も考えられる。

融着した皿も多く、最大５枚重ねられたものが確認された。

鉢（図版11－444）

３点出土し、内２点は片口が確認できる。

444は大型の鉢である。口径26.3㎝、高台径13.3㎝、器高9.8㎝。体部は高台脇で湾曲して立ち上がった後、直線的に開き、口縁部は外面をなで押さえして凹ませ、若干外反させる。口縁端部は内側に押さえて明瞭な面をつくる。内面底部は広く、体部の立ち上がり部分との境が若干凹む。高台は細く高くつくり、外面はほぼ直立させ、内面は内側に傾斜させる。調整は内外面および高台付近を回転なでするが、高台脇には削りが残る。外面底部は削り後回転なでを施す。

壺（図版11－445）

三筋紋壺の下半部が１点出土した。

445は底径11.0㎝。最下段の沈線が低い位置にきているため、三筋以上の可能性もある。沈線の施紋は非常に雑で、幅0.2㎝前後の太めの沈線が巡らされているが、途中で途切れてしっかり全周せず、１単位に１～３条の間で一定しない。体部は器壁が厚く、若干内湾気味に張りをもって立ち上がる。調整は、内面は底部まで回転なでされ、外面は回転削り後回転なでを施し、底部脇は横方向の削りを残す。仕上げは雑で、体部外面には持ち上げ時の指痕がはっきり残り、沈線を消している。外面底部は無調整か。わずかに籾殻痕と砂粒の付着があり、全面に薄く自然釉がかかったような状態になっている。灰原03の299同様、焼成前の工程で底面に付いた灰が焼成時に溶けた可能性が考えられる。

焼台（図版11－446）

窯道具として多量の焼台が出土しているが、ここでは１点のみ紹介する。

446は、上面平坦部に直径8.1㎝の円形の凹みがみられるため、碗用であろう。凹みには籾殻痕が観察される。胎土は灰色を呈す。

５．ＳＫ01に関する遺物

陶錘が１点出土している。

陶錘（図版11－447）

447は、中央部が膨らむ形態をしており、残存長4.4㎝、最大幅1.25㎝、孔径0.5㎝、胎土はＡａ類で、灰白色を呈する。

註

１．中野晴久1984「知多古窯址群における中世陶器成形技法の再検討」『知多古文化研究１』杉崎章先生退官記念論集刊行委員会

２．伊藤正人ほか1998「大高南地区遺跡発掘調査報告書」名古屋市教育委員会

第Ⅳ章　　自然科学分析

第１節　遺物胎土のＸ線回析試験および化学分析試験

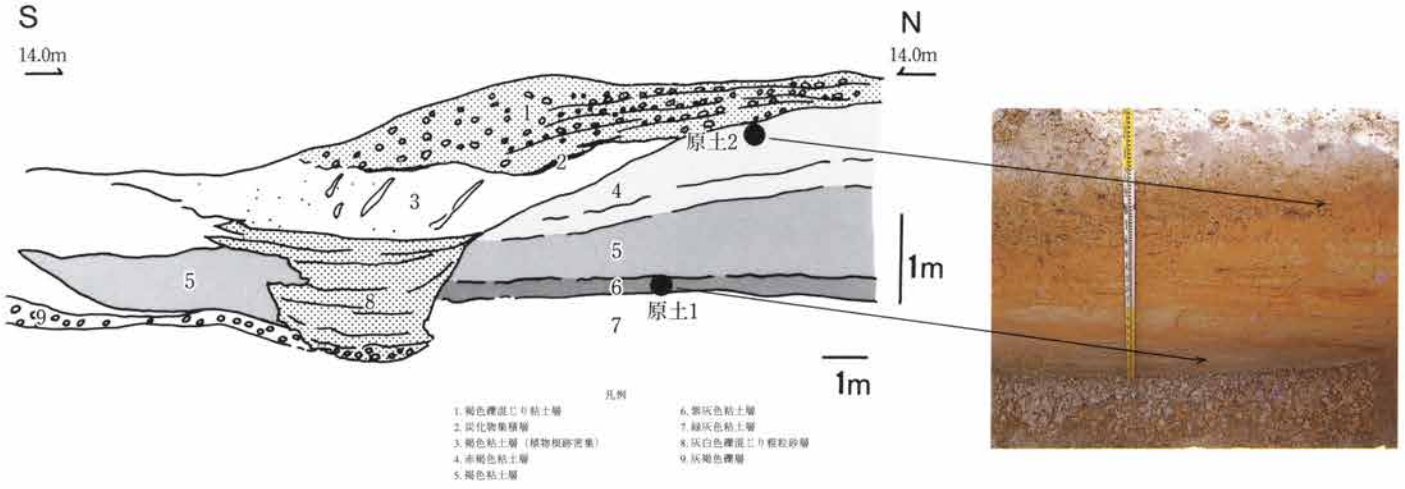
１．はじめに

森岡第１号窯跡群出土遺物の胎土を肉眼で観察した場合、砂粒がほとんどないか多少あるもの（Ａ類）と、緻密だが、砂粒を多量に含み、溶けた砂粒が壁面に粒状に吹き出しているもの（Ｂ類）の二種類に分けることができる。さらに、Ａ類は、緻密なもので、砂粒がほとんどないもの（Ａａ類）と、Ａａ類よりきめが若干粗いか、緻密だが砂粒が多いもの（Ａｂ類）とに分けられる。しかし、肉眼では顕著な違いの分からないものが多い。肉眼による分類が単に見た目の違いのみか、粘土に含まれる鉱物などの違いが肉眼によって観察されるのかを科学的方法によって解明することにした。また、使用された粘土と比較するために、基盤の土（第18図）も合わせて分析することにした。さらに、付近に所在する神明古窯址群と海陸庵古窯址群は本窯跡群と相前後する時期に築かれており、出土遺物の胎土も類似している。つまり、神明古窯址群出土遺物の胎土が森岡第１号窯跡群出土遺物の胎土分類Ａ類と類似し、海陸庵古窯址群出土遺物の胎土がＢ類と類似する。このことから、比較資料として神明・海陸庵両窯跡出土遺物[註1.]を分析し、その結果を掲載した。なお、分析に供した遺物は、整理途中に摘出したため、厳密に分類することができなかった。そのため、データの精度には問題も残るが、本窯跡群出土遺物の特性を考えるうえでは有効とみなしてよいであろう。

２．実験条件

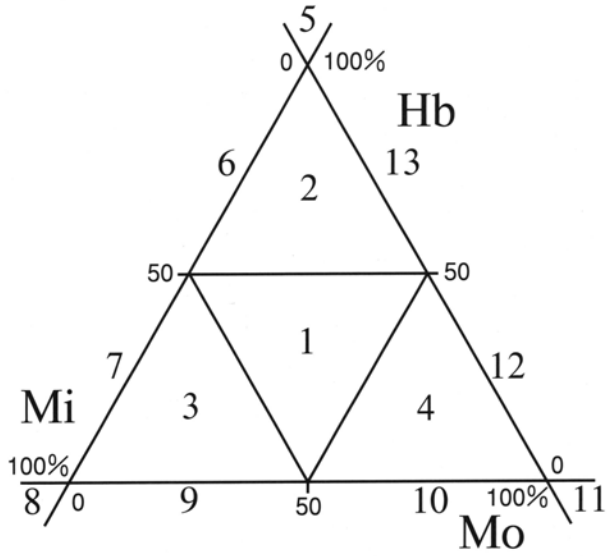
(1) 試料

分析に供した試料は、胎土性状表（第14表）と化学分析表（第15表）に示す通りである。試料は、森岡第１号窯跡群と神明古窯址群、海陸庵古窯址群のもの合計106点である。



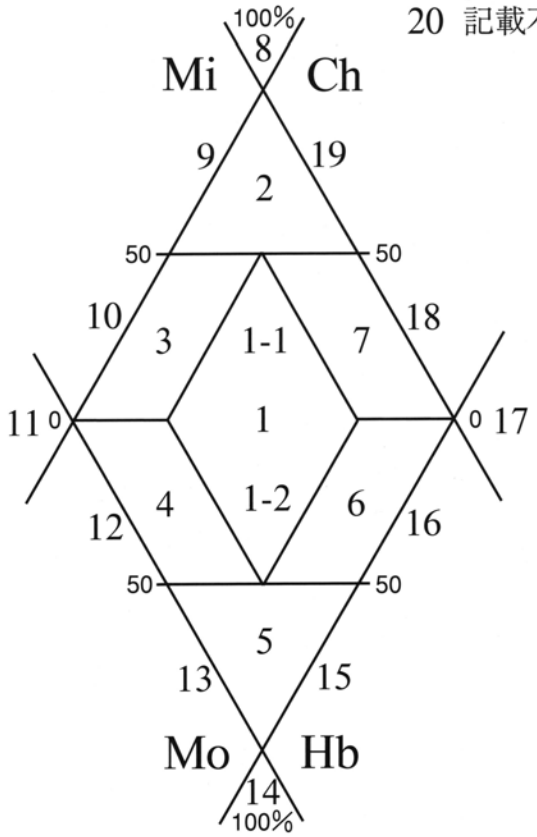
第18図　比較粘土試料採取位置図

14 記載不能



第19図　三角ダイヤグラム位置分類図

20 記載不能



第20図　菱形ダイヤグラム位置分類図

森岡第１号窯跡群の試料の内訳は、灰原02から出土した碗15点（Ａ類10点、Ｂ類５点）、壺１点（445）の合計16点、灰原03から出土した碗30点（Ａ類20点、Ｂ類10点）、壺（300）、鉢２点（297・294）の合計33点と、基盤土２点（原土－１・原土－２）の合計51点である。神明古窯址群の試料は、碗21点、広口長頸瓶10点、片口鉢10点の合計41点である。海陸庵古窯址群の試料は、碗14点である。これらの試料に便宜的に試料番号１～106を付した。

Ｘ線回析試験に供する遺物試料は、洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。また、化学分析は、試料をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

(2) Ｘ線回析試験

試料の胎土に含まれる粘土鉱物および造岩鉱物の同定は、Ｘ線回析試験によった。測定には、日本電子製JDX-8020 Ｘ線回析装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target：Cu，Filter：Ni，Voltage：40kV，Current：30MA，ステップ角度：0.02°計数時間：0.5秒

(3) 化学分析

元素分析は、日本電子製5300ＬＶ型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置をセットし、実験条件は、加速電圧：15kV、分析法：スプリント法、分析倍率：200倍、分析有効時間：100秒、分析指定元素10元素で行なった。

3．Ｘ線回析試験結果の取り扱い

実験結果は、胎土性状表（第14表）に示す通りである。

第14表右側には、Ｘ線回析試験に基づく粘土鉱物および造岩鉱物の組織が示してあり、左には、各胎土に対する分類を行なった結果を示している。

Ｘ線回析試験結果に基づく粘土鉱物および造岩鉱物の各々に記載される数字は、チャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。また、電子顕微鏡によって得られたガラス量とＸ線回析試験で得られたムライト（Mullite）、クリストバライト（Cristobalite）などの組成上の組合せとによって焼成ランクを決定した。

(1) 組成分類

①Mont-MiCa-Hb三角ダイアグラム

第19図に示すように三角ダイアグラムを１～13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。Mont、MiCa、Hbの三成分の含まれない胎土は、記載不能として14にいれ、別に検討した。

三角ダイアグラムは、モンモリロナイト（Mont）、雲母類（MiCa）、角閃石（Hb）のＸ線回析試験におけるチャートのピーク強度をパーセント（％）で表示する。モンモリロナイトは、Mont/Mont+MiCa+Hb × 100でパーセントとして求め、同時にMiCa、Hbも計算し、三角ダイアグラムに記載する。また、三角ダイアグラム内の１～４は、Mont、MiCa、Hbの三成分を含み、各辺は二成分、各頂点は一成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は、第19図に示す通りである。

試料 No	タイプ 分類	焼成 ランク	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物														器種	胎土 分類	遺跡名	出土地点
			Mo-Mi-Hb	Mo-Ch,Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au	ガラス				
1	C		14	20						3099	72	329	135	87			131			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
2	C		14	20						3525	65	169	128				102			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
3	C		14	20						2454	76	231	139				113			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
4	C		14	20						2866	72	214	116				113			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
5	C		14	20						2595	77	277	121				120			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
6	C		14	20						1368	78	214	150				137			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
7	C		14	20						1640	79	315	153				149			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
8	C		14	20						2447	75	208	140				112			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
9	C		14	20						2147	84	317	151				124			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
10	C		14	20						1826	90	228	171				116			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
11	C		14	20						2441	75	150	124				116			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
12	C		14	20						2955	77	123	116				103			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
13	C		14	20						2904	95	167	132	88			114			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
14	C		14	20						2630	72	148	138				129			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
15	C		14	20						1990	79	245	166				123			碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
16	C		14	20						3452	77	257	123				116			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
17	C		14	20						3173	77	188	114				106			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
18	C		14	20						3371	71	174	119				103			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
19	C		14	20						3330	80	186	129				116			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
20	C		14	20						3391	77	147	108	95			99			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
21	C		14	20						4907	70	877	106				92			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
22	C		14	20						2888	79	199	115				100			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
23	C		14	20						2667	80	217	133				111			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
24	C		14	20						3740	70	125	100				81			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
25	C		14	20						2917	76	144	131				127			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
26	C		14	20						4550	63	151	122				100			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原02
27	C		14	20						3838	64	126	132				107			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原02
28	C		14	20						3442	68	124	125				119			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原02
29	C		14	20						3344	68	125	123				106			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原02
30	C		14	20						3416	65	152	116				109			碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原02
31	C		14	20						3243	72	407	112				103			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
32	C		14	20						2743	74	425	118				96			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
33	C		14	20						3519	69	233	99				91			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
34	C		14	20						3595	80	284	110				88			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
35	C		14	20						3165	73	270	93				83			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
36	C		14	20						4610	77	257	107				86			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
37	C		14	20						3508	71	309	96				83			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
38	C		14	20						3614	78	300	110				92			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
39	C		14	20						1971	80	518	155				162			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
40	C		14	20						2776	76	440	96				86			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
41	C		14	20						3188	70	311	108				102			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原02
42	C		14	20						3699	61	268	100				83			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原02
43	C		14	20						3531	67	216	116				109			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原02
44	C		14	20						3565	78	299	126				125			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原02
45	C		14	20						3197	89	313	128				108			碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原02
46	C		14	20						1542	74	429	182				140			壺 (300)	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
47	C		14	20						2316	83	365	144				123			壺 (445)	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
48	C		14	20						2796	75	195	107				98			鉢 (297)	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
49	C		14	20						1326	87	715	162				143			鉢 (294)	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
50	C		14	20						1758	78	180	152				127			碗		神明古窯址群	2号窯内
51	C		14	20						2147	67	195	128				118			碗		神明古窯址群	2号窯内
52	C		14	20						2265	72	230	156				132			碗		神明古窯址群	2号窯内
53	C		14	20						1783	80	161	136				130			碗		神明古窯址群	2号窯内
54	C		14	20						1917	86	159	160				129			碗		神明古窯址群	2号窯内
55	C		14	20						2341	77	144	131				115			碗		神明古窯址群	2号窯内
56	C		14	20						1650	75	213	138				130			碗		神明古窯址群	2号窯内
57	C		14	20						1985	66	143	164				119			碗		神明古窯址群	2号窯内
58	C		14	20						1870	68	154	127				126			碗		神明古窯址群	2号窯内
59	C		14	20						1398	79	170	145				132			碗		神明古窯址群	2号窯内
60	C		14	20						1922	77	249	190				166			碗		神明古窯址群	2号窯内
61	C		14	20						2153	63	376	140				107			碗		神明古窯址群	3号窯内
62	C		14	20						2265	78	237	125				112			碗		神明古窯址群	3号窯内
63	C		14	20						2348	57	133	154				122			碗		神明古窯址群	3号窯内
64	C		14	20						2830	62	197	134				117			碗		神明古窯址群	3号窯内
65	C		14	20						2209	65	138	143				120			碗		神明古窯址群	3号窯内
66	C		14	20						2302	74	177	144				122			碗		神明古窯址群	3号窯内
67	C		14	20						2160	80	146	130				118			碗		神明古窯址群	3号窯内
68	C		14	20						2606	80	182	125				113			碗		神明古窯址群	3号窯内
69	C		14	20						2127	73	173	145				115			碗		神明古窯址群	3号窯内
70	C		14	20						1423	89	192	144				138			碗		神明古窯址群	3号窯内
71	C		14	20						1567	69	254	136				125			片口鉢		神明古窯址群	灰原
72	C		14	20						1977	81	277	149				123			片口鉢		神明古窯址群	灰原
73	C		14	20						2517	80	303	153				125			片口鉢		神明古窯址群	灰原
74	C		14	20						2338	65	148	136				122			片口鉢		神明古窯址群	灰原
75	C		14	20						2402	76	386	136				113			片口鉢		神明古窯址群	灰原
76	C		14	20						2364	79	307	133				122			片口鉢		神明古窯址群	灰原
77	C		14	20						1818	74	574	140				114			片口鉢		神明古窯址群	灰原
78	C		14	20						1575	82	261	152				133			片口鉢		神明古窯址群	灰原
79	C		14	20						1452	83	383	139				130			片口鉢		神明古窯址群	1号窯内
80	C		14	20						2476	82	408	118				122			片口鉢		神明古窯址群	灰原
81	C		14	20						2811	64	189	107				99			広口長頸瓶		神明古窯址群	灰原
82	C		14	20						2449	65	373	127				113			広口長頸瓶		神明古窯址群	表採
83	C		14	20						1158	89	652	135				141			広口長頸瓶		神明古窯址群	灰原
84	C		14	20						1937	71	497	135				113			広口長頸瓶		神明古窯址群	灰原
85	C		14	20						1889	67	521	132				107			広口長頸瓶		神明古窯址群	表採
86	C		14	20						1737	77	573	161				143			広口長頸瓶		神明古窯址群	灰原
87	C		14	20						1013	81	482	178				143			広口長頸瓶		神明古窯址群	灰原
88	C		14	20						2156	77	470	143				130			広口長頸瓶		神明古窯址群	灰原
89	C		14	20						1161	77	619	173				155			広口長頸瓶		神明古窯址群	灰原
90	C		14	20						986	77	531	171				140			広口長頸瓶		神明古窯址群	表採
91	C		14	20						2588	74	293	127				107			碗		海陵庵古窯址群	1号窯内
92	C		14	20						2827	69	258	133				128			碗		海陵庵古窯址群	1号窯内
93	C		14	20						3200	78	208	111				105			碗		海陵庵古窯址群	1号窯内
94	C		14	20						4116	62	161	104				81			碗		海陵庵古窯址群	1号窯内
95	C		14	20						3728	73	177	84				83			碗		海陵庵古窯址群	1号窯内
96	C		14	20						2256	71	231	112				91			碗		海陵庵古窯址群	1号窯内
97	C		14	20						1861	75	359	92				86			碗		海陵庵古窯址群	灰原
98	C		14	20						1751	76	345	113				115			碗		海陵庵古窯址群	灰原
99	C		14	20						4266	47	69	61	252			59			碗		海陵庵古窯址群	灰原
100	C		14	20						4200	49	78	80	121			66			碗		海陵庵古窯址群	灰原
101	C		14	20						4519	63	308	106				105			碗		海陵庵古窯址群	灰原
102	C		14	20						3608	87	102	97	100			92			碗		海陵庵古窯址群	1号窯内
103	C		14	20						3632	60	100	86				95			碗		海陵庵古窯址群	1号窯内
104	C		14	20						2768	83	367	137				109			碗		海陵庵古窯址群	2号窯内
105	B		10	18	225	117			89	2251	191									原土-1		森岡第1号窯跡群	基盤層
106	A		5	20		57				6074	102									原土-2		森岡第1号窯跡群	基盤層

※器種の（ ）内の数字は遺物番号を示す。

第14表　胎土性状表

②Mont-Ch、MiCa-Hb菱形ダイアグラム

第20図に示すように菱形ダイアグラムを1～19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は、20として別に検討した。

モンモリロナイト（Mont）、雲母類（MiCa）、角閃石（Hb）、緑泥石（Ch）の内、以下の三例がある。

三成分以上含まれない。

Mont、Chの二成分が含まれない。

MiCa、Hbの二成分が含まれない。

菱形ダイアグラムは、Mont-Ch、MiCa-Hbの組合せを表示するものである。Mont-Ch、MiCa-Hbのそれぞれの X 線回析試験のチャートの強度を各々の組合せごとにパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch × 100と計算し、MiCa、Hb、Chも各々同様に計算し、記載する。菱形ダイアグラム内にある1～7は、Mont、MiCa、Hb 、Chの四成分を含み、各辺はMont、MiCa、Hb、Chのうち三成分、各頂点は二成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は、第20図に示す通りである。

(2) 焼成ランク

焼成ランクの区分は、X線回析試験による鉱物組成と、電子顕微鏡観察によるガラス量によって行なった。ムライト（Mullite）は、磁器、陶器など高温で焼かれた状態で初めて生成する鉱物であり、クリストバライト（Cristobalite）は、ムライトより低い温度、ガラスは、クリストバライトより更に低い温度で生成する。

これらの事実に基づき、X線回析試験結果と電子顕微鏡観察結果から、胎土の焼成ランクをⅠ～Ⅴの5段階に区分した。

焼成ランクⅠ：ムライトが多く生成し、ガラスの単位面積が広く、ガラスは発泡している。

焼成ランクⅡ：ムライトとクリストバライトが共存し、ガラスは短冊状になり、面積は狭くなる。

焼成ランクⅢ：ガラスのなかにクリストバライトが生成し、ガラスの単位面積が狭く、葉状断面をし、ガラスのつながりに欠ける。

焼成ランクⅣ：ガラスのみが生成し、原土の組織をかなり残している。ガラスは微小な葉状を呈する。

焼成ランクⅤ：原土に近い組織を有し、ガラスはほとんどできていない。

以上のⅠ～Ⅴの分類は原則であるが、胎土の材質、すなわち、粘土の良悪によってガラスの生成量は異なるので、電子顕微鏡によるガラス量も分類に大きな比重を占める。このため、ムライト、クリストバライトなどの組合せといくぶん異なる焼成ランクが出現することになる。

4．化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法（10元素全体で100%になる）で計算し、化

試料番号	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	NiO	Total	器種	胎土分類	遺跡名	出土地点
1	0.22	0.00	17.29	75.65	3.60	0.17	0.82	0.00	2.23	0.02	100.00	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
2	0.15	0.00	18.14	73.81	2.70	0.05	0.95	0.28	3.93	0.00	100.01	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
3	0.34	0.00	16.65	76.38	3.51	0.12	0.85	0.05	1.93	0.18	100.01	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
4	0.22	0.00	18.63	73.39	3.45	0.29	1.19	0.00	2.83	0.00	100.00	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
5	0.17	0.00	17.22	76.63	2.86	0.10	0.77	0.00	2.25	0.00	100.00	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
6	0.27	0.00	17.38	75.82	3.27	0.11	0.96	0.00	2.19	0.00	100.00	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
7	0.12	0.00	17.17	75.60	3.36	0.12	0.99	0.47	2.14	0.03	100.00	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
8	0.19	0.00	17.19	76.66	2.79	0.10	0.89	0.06	2.05	0.06	99.99	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
9	0.14	0.00	16.74	75.05	3.25	0.13	0.97	0.34	3.20	0.18	100.00	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
10	0.43	0.00	17.07	76.06	3.34	0.11	0.66	0.00	2.34	0.00	100.01	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
11	0.32	0.00	19.06	73.78	3.09	0.14	0.70	0.00	2.80	0.13	100.02	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
12	0.51	0.00	19.40	71.45	3.42	0.24	1.39	0.00	3.45	0.14	100.00	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
13	0.60	0.00	18.28	74.46	3.74	0.00	0.83	0.00	2.09	0.00	100.00	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
14	0.49	0.00	19.19	74.31	3.08	0.26	0.85	0.00	1.82	0.00	100.00	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
15	0.32	0.00	16.75	76.53	3.53	0.11	0.65	0.00	2.11	0.00	100.00	碗	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
16	0.29	0.00	16.51	75.95	3.71	0.04	0.96	0.03	2.24	0.26	99.99	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
17	0.34	0.00	18.43	73.76	3.82	0.07	0.79	0.11	2.60	0.08	100.00	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
18	0.28	0.00	16.54	76.35	3.24	0.05	1.04	0.00	2.43	0.06	99.99	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
19	0.57	0.00	14.51	78.19	3.71	0.21	0.98	0.11	1.72	0.00	100.00	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
20	0.51	0.00	16.14	76.66	3.50	0.05	0.97	0.00	2.18	0.00	100.01	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
21	0.56	0.00	14.82	77.95	3.19	0.09	0.98	0.00	2.38	0.03	100.00	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
22	0.40	0.00	14.60	79.39	2.95	0.11	0.83	0.00	1.72	0.00	100.00	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
23	0.45	0.00	14.15	79.87	3.15	0.15	0.78	0.00	1.45	0.00	100.00	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
24	0.37	0.00	15.02	78.59	3.21	0.11	0.88	0.00	1.82	0.00	100.00	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
25	0.77	0.00	19.13	71.83	3.86	0.25	0.97	0.17	2.82	0.19	99.99	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
26	0.02	0.00	18.28	75.52	2.64	0.08	1.12	0.00	2.35	0.00	100.01	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原02
27	0.51	0.00	21.40	69.68	3.17	0.05	1.44	0.04	3.67	0.05	100.01	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原02
28	0.07	0.00	21.15	71.68	2.55	0.13	0.87	0.00	3.40	0.16	100.01	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原02
29	0.57	0.00	21.62	70.36	3.94	0.01	0.95	0.00	2.54	0.00	99.99	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原02
30	0.32	0.00	19.47	73.39	2.96	0.11	0.92	0.00	2.83	0.00	100.00	碗	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原02
31	0.19	0.00	13.81	79.09	3.66	0.00	1.03	0.00	1.98	0.25	100.01	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
32	0.07	0.00	14.07	80.33	2.79	0.11	1.12	0.00	1.50	0.00	99.99	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
33	0.00	0.00	11.03	82.97	2.67	0.00	1.22	0.20	1.65	0.27	100.01	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
34	0.04	0.00	12.65	81.28	3.64	0.07	0.64	0.00	1.57	0.11	100.00	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
35	0.09	0.00	11.27	82.52	2.85	0.16	1.14	0.00	1.98	0.00	100.01	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
36	0.29	0.00	14.50	78.85	3.87	0.01	0.93	0.00	1.36	0.19	100.00	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
37	0.16	0.00	10.80	84.43	2.15	0.13	0.90	0.00	1.41	0.03	100.01	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
38	0.00	0.00	14.20	79.45	3.08	0.03	1.27	0.13	1.66	0.18	100.00	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
39	0.05	0.00	22.71	71.46	2.73	0.10	0.87	0.09	1.82	0.17	100.00	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
40	0.09	0.00	14.52	78.72	3.44	0.24	0.98	0.00	1.69	0.31	99.99	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原03
41	0.02	0.00	15.34	79.28	2.81	0.02	0.97	0.08	1.47	0.00	99.99	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原02
42	0.00	0.00	11.40	83.06	2.54	0.03	0.90	0.04	2.02	0.00	99.99	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原02
43	0.00	0.00	18.89	74.49	3.40	0.00	0.90	0.03	2.28	0.00	99.99	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原02
44	0.13	0.00	17.49	75.96	3.82	0.09	0.76	0.00	1.75	0.00	100.00	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原02
45	0.17	0.00	16.52	75.54	3.32	0.11	1.52	0.00	2.69	0.12	99.99	碗	B類	森岡第1号窯跡群	灰原02
46	0.07	0.00	20.14	73.09	2.45	0.09	0.92	0.00	3.21	0.03	100.00	壺（300）	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
47	0.47	0.00	17.63	75.91	2.97	0.18	0.96	0.00	1.87	0.01	100.00	壺（445）	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原02
48	0.51	2.85	15.11	67.30	1.97	1.43	0.88	0.43	9.54	0.00	100.02	鉢（297）	Ab類	森岡第1号窯跡群	灰原03
49	0.00	0.56	13.68	78.21	1.82	0.24	1.12	0.09	4.29	0.00	100.01	鉢（294）	Aa類	森岡第1号窯跡群	灰原03
50	0.68	0.00	18.44	74.75	3.30	0.03	0.79	0.02	1.80	0.20	100.01	碗		神明古窯址群	2号窯内
51	0.33	0.00	20.61	71.18	4.27	0.02	0.85	0.00	2.35	0.38	99.99	碗		神明古窯址群	2号窯内
52	0.34	0.00	19.77	71.26	3.17	0.10	0.98	0.00	4.07	0.32	100.01	碗		神明古窯址群	2号窯内
53	0.44	0.00	18.20	74.03	3.68	0.11	1.38	0.19	1.77	0.19	99.99	碗		神明古窯址群	2号窯内
54	0.51	0.00	19.46	72.84	3.65	0.16	0.77	0.00	2.23	0.38	100.00	碗		神明古窯址群	2号窯内
55	0.33	0.00	17.64	75.56	3.53	0.10	0.68	0.31	1.84	0.00	99.99	碗		神明古窯址群	2号窯内
56	0.54	0.00	18.08	74.71	3.45	0.08	1.09	0.00	1.83	0.23	100.01	碗		神明古窯址群	2号窯内
57	0.38	0.00	18.18	74.34	4.24	0.00	0.49	0.00	1.99	0.37	99.99	碗		神明古窯址群	2号窯内
58	0.57	0.00	18.04	75.58	3.66	0.02	0.58	0.06	1.50	0.01	100.02	碗		神明古窯址群	2号窯内
59	0.32	0.00	18.51	74.39	3.85	0.05	0.48	0.00	2.37	0.03	100.00	碗		神明古窯址群	2号窯内
60	0.38	0.00	23.64	69.03	3.99	0.12	0.91	0.00	1.94	0.00	100.01	碗		神明古窯址群	2号窯内
61	0.22	0.00	16.95	76.59	3.74	0.09	0.71	0.00	1.69	0.00	99.99	碗		神明古窯址群	3号窯内
62	0.41	0.00	16.83	76.26	3.19	0.04	0.87	0.00	2.27	0.12	99.99	碗		神明古窯址群	3号窯内
63	0.27	0.00	20.07	73.50	3.13	0.13	0.48	0.00	2.42	0.00	100.00	碗		神明古窯址群	3号窯内
64	0.86	0.00	19.10	70.41	7.59	0.00	0.38	0.00	1.40	0.26	100.00	碗		神明古窯址群	3号窯内
65	0.38	0.00	18.08	75.30	3.16	0.00	0.74	0.03	1.96	0.35	100.00	碗		神明古窯址群	3号窯内
66	0.19	0.00	17.22	76.86	2.93	0.10	0.46	0.00	2.02	0.22	100.00	碗		神明古窯址群	3号窯内
67	0.53	0.00	18.45	74.26	3.77	0.09	0.84	0.00	2.06	0.00	100.00	碗		神明古窯址群	3号窯内
68	0.56	0.00	16.54	76.21	3.57	0.13	0.98	0.00	1.94	0.08	100.01	碗		神明古窯址群	3号窯内
69	0.73	0.00	18.43	74.36	4.11	0.15	0.62	0.01	1.58	0.02	100.01	碗		神明古窯址群	3号窯内
70	0.31	0.00	20.38	71.52	4.06	0.00	0.88	0.00	2.38	0.47	100.00	碗		神明古窯址群	3号窯内
71	0.32	0.00	18.13	74.84	3.27	0.19	0.66	0.06	2.35	0.18	100.00	片口鉢		神明古窯址群	灰原
72	0.49	0.00	18.37	73.90	3.54	0.10	0.90	0.00	2.48	0.22	100.00	片口鉢		神明古窯址群	灰原
73	0.34	0.00	16.94	76.48	2.95	0.19	0.80	0.00	2.29	0.00	99.99	片口鉢		神明古窯址群	灰原
74	0.43	0.00	19.19	72.36	3.68	0.06	0.75	0.00	3.49	0.04	100.00	片口鉢		神明古窯址群	灰原
75	0.18	0.00	19.09	73.94	3.07	0.15	1.09	0.00	2.47	0.00	99.99	片口鉢		神明古窯址群	灰原
76	0.06	0.00	17.11	76.29	2.93	0.05	0.97	0.05	2.36	0.19	100.01	片口鉢		神明古窯址群	灰原
77	0.30	0.00	17.44	74.12	2.81	0.09	1.06	0.00	4.05	0.12	99.99	片口鉢		神明古窯址群	灰原
78	0.33	0.00	18.57	74.62	3.32	0.09	0.90	0.00	2.18	0.00	100.01	片口鉢		神明古窯址群	灰原
79	0.21	0.00	19.85	73.35	3.51	0.04	0.83	0.00	2.00	0.22	100.01	片口鉢		神明古窯址群	1号窯内
80	0.22	0.00	16.72	76.28	3.20	0.06	1.07	0.00	2.45	0.00	100.00	片口鉢		神明古窯址群	灰原
81	0.28	0.00	22.28	70.03	3.32	0.14	0.87	0.00	3.08	0.00	100.00	広口長頸壺		神明古窯址群	灰原
82	0.34	0.00	20.18	72.03	3.50	0.04	1.23	0.00	2.68	0.00	100.00	広口長頸壺		神明古窯址群	表採
83	0.25	0.00	19.90	69.14	2.88	0.04	1.00	0.00	6.77	0.01	99.99	広口長頸壺		神明古窯址群	灰原
84	0.23	0.00	19.74	73.41	3.02	0.08	0.99	0.00	2.53	0.00	100.00	広口長頸壺		神明古窯址群	灰原
85	0.15	0.00	20.74	72.85	2.29	0.05	0.90	0.27	2.74	0.00	99.99	広口長頸壺		神明古窯址群	表採
86	0.08	0.00	18.86	75.60	2.67	0.09	1.05	0.00	1.65	0.00	100.00	広口長頸壺		神明古窯址群	灰原
87	0.31	0.00	18.73	74.60	2.83	0.10	1.01	0.00	2.02	0.40	100.00	広口長頸壺		神明古窯址群	灰原
88	0.00	0.00	18.83	75.66	2.70	0.10	0.74	0.17	1.79	0.00	99.99	広口長頸壺		神明古窯址群	灰原
89	0.27	0.00	18.99	74.79	3.00	0.09	0.66	0.02	2.02	0.15	99.99	広口長頸壺		神明古窯址群	灰原
90	0.13	0.00	19.91	74.14	2.81	0.00	0.82	0.21	1.88	0.09	99.99	広口長頸壺		神明古窯址群	表採
91	0.06	0.00	11.88	82.32	3.13	0.05	0.82	0.00	1.75	0.00	100.01	碗		海陸庵古窯址群	1号窯内
92	0.07	0.00	18.64	74.53	3.58	0.04	0.94	0.02	2.18	0.00	100.00	碗		海陸庵古窯址群	1号窯内
93	0.03	0.00	15.13	78.42	3.22	0.09	0.86	0.00	2.18	0.06	99.99	碗		海陸庵古窯址群	1号窯内
94	0.10	0.00	13.81	79.43	3.83	0.06	1.03	0.00	1.73	0.00	99.99	碗		海陸庵古窯址群	1号窯内
95	0.23	0.00	12.29	80.99	3.76	0.11	0.60	0.00	1.70	0.31	99.99	碗		海陸庵古窯址群	1号窯内
96	0.25	0.00	14.86	77.76	3.95	0.00	0.73	0.11	1.88	0.46	100.00	碗		海陸庵古窯址群	1号窯内
97	0.35	0.00	12.95	80.59	3.10	0.06	1.12	0.00	1.66	0.17	100.00	碗		海陸庵古窯址群	灰原
98	0.15	0.00	16.26	77.96	3.14	0.07	0.96	0.00	1.46	0.00	100.00	碗		海陸庵古窯址群	灰原
99	0.20	0.00	18.71	73.32	3.62	0.16	0.94	0.03	2.77	0.24	99.99	碗		海陸庵古窯址群	灰原
100	0.14	0.00	15.32	77.34	3.80	0.00	0.93	0.00	2.04	0.42	99.99	碗		海陸庵古窯址群	灰原
101	0.00	0.00	18.42	74.93	3.55	0.00	0.91	0.00	2.19	0.00	100.00	碗		海陸庵古窯址群	灰原
102	0.34	0.00	19.87	73.11	3.24	0.06	1.02	0.00	2.04	0.32	100.00	碗		海陸庵古窯址群	1号窯内
103	0.23	0.00	21.36	71.57	3.52	0.07	1.07	0.09	2.06	0.01	99.98	碗		海陸庵古窯址群	1号窯内
104	0.09	0.00	18.05	74.82	3.58	0.01	0.81	0.00	2.34	0.31	100.01	碗		海陸庵古窯址群	2号窯内
105	0.24	0.01	24.94	62.94	2.60	0.39	0.74	0.00	7.64	0.48	99.98	原土－1		森岡第1号窯跡群	
106	0.00	0.00	13.76	79.01	3.13	0.11	0.56	0.00	3.23	0.21	100.01	原土－2		森岡第1号窯跡群	

※器種の（ ）内の数字は遺物番号を示す。

第15表　化学分析表

学分析表を作成した。さらに、化学分析表に基づいてSiO_2-Al_2O_3、Fe_2O_3-Na_2O、K_2O-CaOの各図を作成した。これらの図をもとに、試料を元素の面から分類した。

5．分析結果

(1) X線回析試験結果

①タイプ分類

胎土性状表（第14表）に示すように、A～Cの三タイプに分類された。

Aタイプ：MiCa一成分を含み、Mont、Hb、Chの三成分に欠ける。原土－2

Bタイプ：Mont、MiCaの二成分を含み、Hb、Chの二成分に欠ける。

Cタイプ：Mont、MiCa、Hb、Chの四成分に欠ける。試料は、高温で焼成されているために、粘土鉱物や造岩鉱物は石英を除いてそのほとんどがガラスに変質し、本来の組成を反映していない。高温で生成されるムライト、クリストバライトが検出されている。

②石英（Qt）-斜長石（Pl）の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は、粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を製作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土をつくるということは、個々の集団が持つ土器製作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は、固有の石英と斜長石比を有している。この比は、後背地の地質条件によって各々異なってくるものである。

Qt-Pl図（第21図）には、神明古窯址群と海陸庵古窯址群の両窯跡から出土した遺物試料が森岡第1号窯跡群の遺物試料とともに記してある。試料は、ⅠとⅡの二グループに分類された。

Ⅰグループ：碗Aa類、壺類、鉢類が集中し、神明古窯址群の試料が共存する。

Ⅱグループ：碗Ab類と碗B類が集中し、海陸庵古窯址群の試料が共存する。

以上のように、神明古窯址群の遺物と海陸庵古窯址群の遺物は、明瞭に分かれ、森岡第1号窯跡群の遺物は、この両方のグループに属する。特に、森岡第1号窯跡群の碗Ab類と碗B類は、海陸庵古窯址群の遺物と共存し、関連性が窺われる。同様に、神明古窯址群の遺物は、森岡第1号窯跡群の碗Aa類、壺類、鉢類が共存し、関連性が窺われる。

(2) 化学分析結果

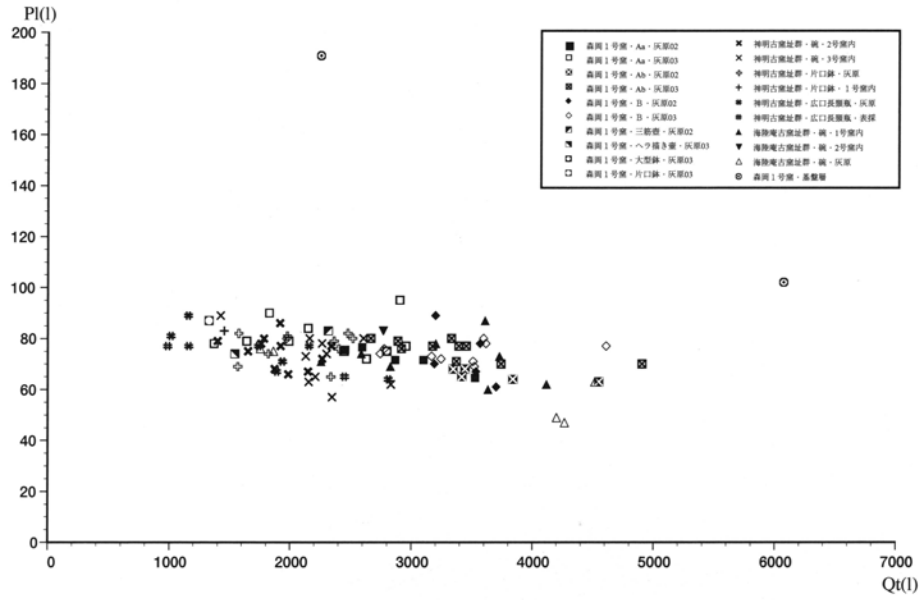
森岡第1号窯跡群の試料と神明古窯址群、海陸庵古窯址群の試料の分析結果は、化学分析表（第15表）に示す通りである。

分析結果に基づいて、SiO_2-Al_2O_3図（第22図）、Fe_2O_3-Na_2O図（第23図）、K_2O-CaO図（第24図）を作成した。

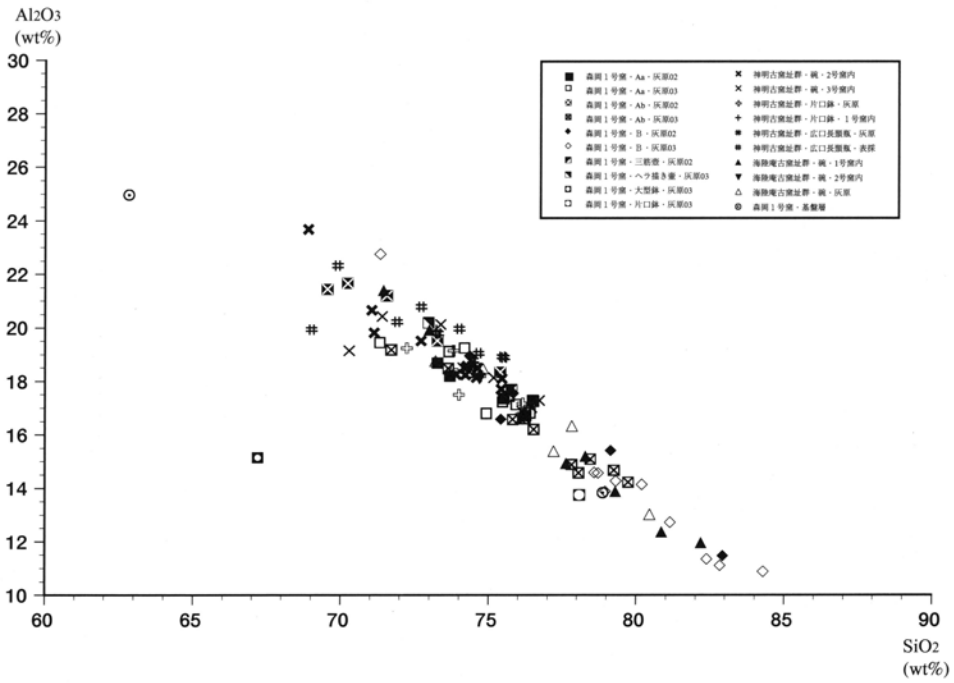
①SiO_2-Al_2O_3の相関について

SiO_2-Al_2O_3図（第22図）に示すように、各窯跡の試料は、ⅠとⅡの二グループに分類された。

Ⅰグループ：碗Aa類、壺類が集中し、碗Ab類、神明古窯址群の試料が共存する。



第21図　Qt-Pl図



第22図　SiO_2-Al_2O_3図

Ⅱグループ：碗Ｂ類が集中し、碗Ａｂ類、海陸庵古窯址群の試料が共存する。

以上のように、神明古窯址群の遺物と海陸庵古窯址群の遺物は、明瞭に分かれ、森岡第１号窯跡群の遺物は、この両方のグループに属する。特に、森岡第１号窯跡群の碗Ｂ類は、海陸庵古窯址群の遺物と共存し、関連性が窺われる。同様に、神明古窯址群の遺物は、森岡第１号窯跡群の碗Ａａ類、碗Ａｂ類、壺類が共存し、関連性が窺われる。森岡第１号窯跡群の碗Ａａ類と碗Ｂ類は明瞭に異なるグループを形成し、分別できるが、碗Ａｂ類は、碗Ａａ類と碗Ｂ類と共存し、あまりはっきりしない。

②Fe_2O_3-Na_2Oの相関について

Fe_2O_3-Na_2O図（第23図）に示すように、各窯跡の試料は、ⅠとⅡの二グループと“その他”に分類された。

Ⅰグループ：Fe_2O_3の値が高い領域に碗Ａａ類と碗Ａｂ類、壺類が集中し、神明古窯址群の試料が共存する。

Ⅱグループ：Fe_2O_3の値が低い領域に碗Ｂ類が集中し、海陸庵古窯址群の試料が共存する。

③K_2O-CaOの相関について

K_2O-CaO図（第24図）に示すように、各窯跡の試料は、ⅠとⅡの二グループに分類された。

Ⅰグループ：碗Ａａ類と碗Ａｂ類が集中し、神明古窯址群の試料が共存する。

Ⅱグループ：碗Ｂ類が集中し、海陸庵古窯址群の試料が共存する。

K_2O-CaOの相関では、CaOの値が高い領域の神明古窯址群と森岡第１号窯跡群の碗Ａａ類と碗Ａｂ類が集中し、低い領域には海陸庵古窯址群と森岡第１号窯跡群の碗Ｂ類の遺物が集中する傾向が認められるが、あまり明瞭ではない。

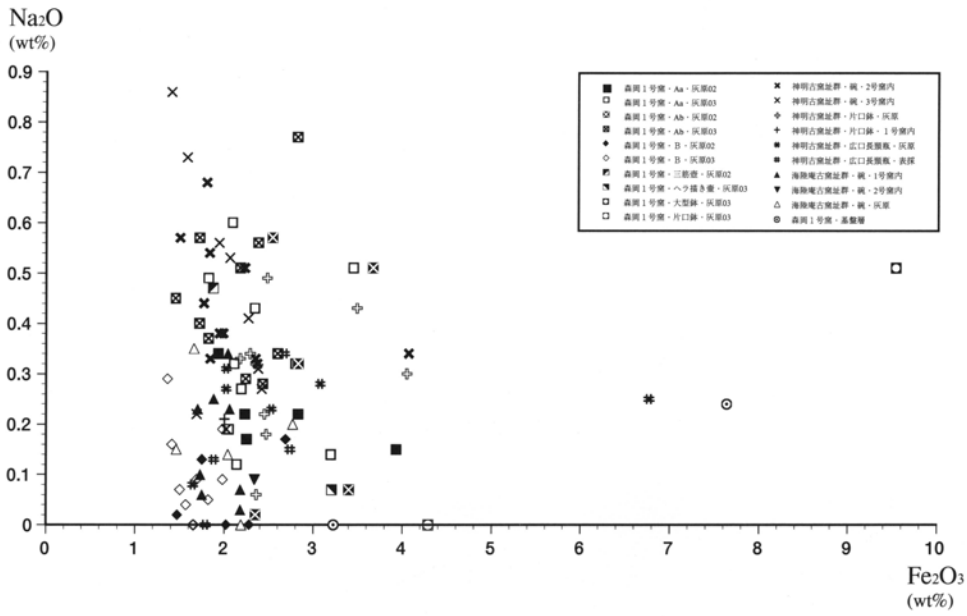
６．まとめ

今まで述べてきたＸ線回析試験および化学分析の結果は、以下の四点にまとめることができる。

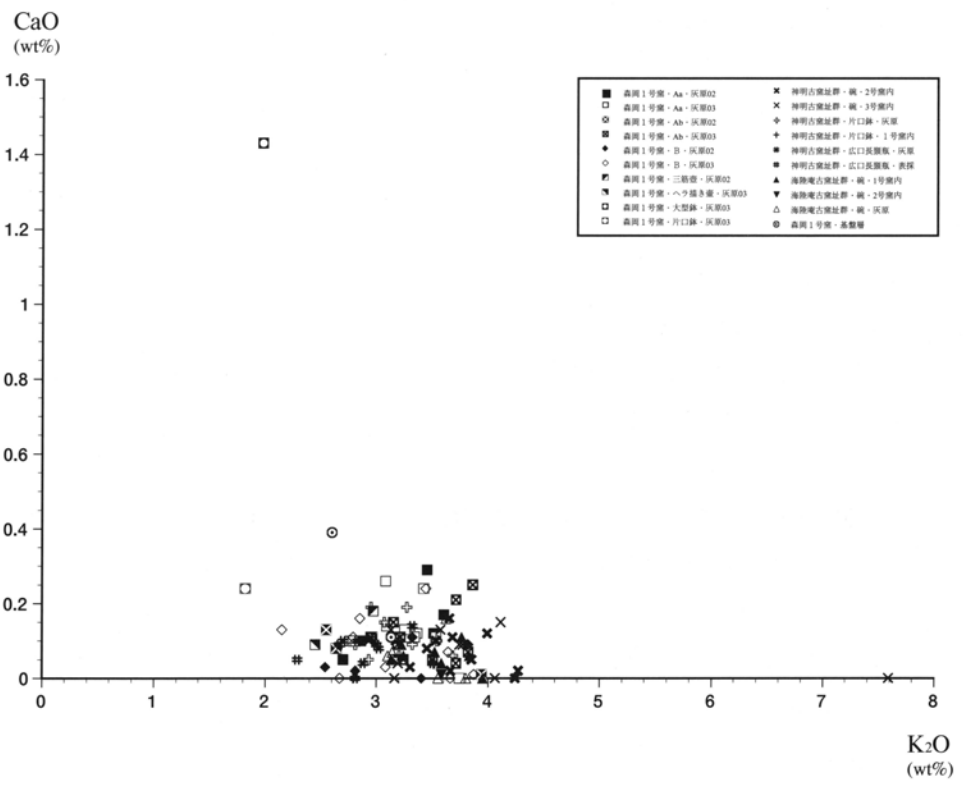
森岡第１号窯跡群出土の遺物胎土は、高温で焼成されたために粘土鉱物と造岩鉱物が石英を除いてガラスに変質している。そのため、胎土は、Mont、MiCa、Hb、Chの四成分に欠けるＣタイプだけとなる。

Ｘ線回析試験に基づくQt-Pl相関では、碗Ａａ類、壺類、鉢類と碗Ａｂ類、碗Ｂ類がそれぞれグループを形成し、明らかに異質である。また、Qtの強度が低い領域には森岡第１号窯跡群の碗Ａａ類と壺類、鉢類と神明古窯址群の遺物が共存する。森岡第１号窯跡群の碗Ａｂ類、碗Ｂ類と海陸庵古窯址群の遺物は、Qtの値が高い領域で共存する。神明古窯址群と海陸庵古窯址群の遺物は明瞭に分かれ、森岡第１号窯跡群の遺物は、両窯跡の遺物と関連性が認められた。

化学分析結果では、碗Ａａ類と碗Ｂ類は明らかに組成が異なり、明瞭に分別される。碗Ａａ類は、SiO_2とK_2Oの値が低く、Fe_2O_3の値が高い領域に分布し、碗Ｂ類は、SiO_2とK_2Oの



第23図　Fe_2O_3-Na_2O図



第24図　K_2O-CaO図

値が高く、Fe_2O_3の値が低い領域に分布し、明瞭に分かれる。しかし、碗Ａｂ類は、碗Ａａ類と碗Ｂ類に共存し、両グループとの関連性が認められる。また、森岡第１号窯跡群出土遺物は、鉢類を除いてMgOが０％と検出されないのが特徴であり、神明古窯址群と海陸庵古窯址群の遺物も同様に０％である。

森岡第１号窯跡群から採取された原土－２は、Ｂ類の遺物と類似する元素組成を示し、関連性が高いが、原土－１は、元素組成は明らかに異質で、どのタイプの遺物の胎土とも類似性はない。

註

１．近藤英正・古田功治編 1996『海陸庵古窯址群・神明古窯址群』大府市教育委員会

第２節　遺物胎土の重鉱物分析

１．はじめに

森岡第１号窯跡群出土遺物の胎土を、第１節ではＸ線回析試験および化学分析によって得られたデータを検討した。本節では、灰原より出土した各種遺物の胎土の特徴を把握し、出土した灰原や器種および肉眼観察による分類との対応関係を重鉱物組成の面から探る。また、パリノ・サーヴェイ株式会社により行なわれた東海地域における中世の灰釉系陶器の碗の胎土分析結果[註1]を参考とし、知多古窯跡群と猿投山西南麓古窯跡群の接点に位置する本窯跡の胎土の特徴を捉えたい。なお、分析に供した遺物は、整理途中に摘出したため、厳密に分類することができなかった。そのため、データの精度には問題も残るが、本窯跡出土遺物の特性を考えるうえでは有効とみなしてよいであろう。

２．試料

試料は、灰原02と03から出土した碗、鉢、壺の破片53点である。灰原02から出土した試料の内訳は、鉢１点、壺１点、碗15点（Ａａ類５点、Ａｂ類５点、Ｂ類５点）の合計17点である。一方、灰原03より出土した試料は、鉢４点、壺２点と碗30点（Ａａ類10点、Ａｂ類10点、Ｂ類10点）の合計36点である。なお、灰原02より出土した碗は、全てＸＥ５ｓグリッドのものであり、灰原03より出土した碗の各類は、ＸＥ５ｔグリッドのものとＸＦ４ｂグリッドのものとが半数ずつある。

本節では、これらの試料に便宜的に試料番号１～53を付した。各試料の試料番号と出土地点、分類などは、分析結果を示した第16表に記してある。

３．分析方法

本センターにより発掘調査が行なわれた遺跡の土器の胎土分析について、これまでパリノ・サーヴェイ株式会社では、土器中に含まれる細砂径の重鉱物の組成を胎土の特徴とする重鉱物分析を、分析手法として用いてきた。その理由は、重鉱物組成は胎土のパターンが認識しやすく、多数の試料の分類が比較的容易であること、重鉱物組成から土器に使用された粘土または砂が採取された地域の地質背景が推定できることなどがあるが、何よりも試料が比較的砂分を多く含む弥生土器や土師器であったことがその第一の選択理由となっている。

本窯跡の試料は、いわゆる陶器であり、上記の弥生土器や土師器などに比べると混和材としての砂の含量は少なく、かつ焼成温度も高いために鉱物の変質も著しい。また、高温焼成された材質により、胎土中から重鉱物を物理的に分離することも困難である。これらの理由により、今回は、試料の薄片を作製して、胎土中に含まれる鉱物片や岩石片の状況及び胎土の基質の状態などを把握する、薄片観察法を用いた。薄片観察では、陶器に使用された粘土や砂の採取地の地質背景の推定が可能であり、また、焼成温度などの製作技法にかかわる重要な情報を得ることができる。以下に処理手順を述べる。

試料をダイアモンドカッターで切断、正確に0.03㎜の厚さに研磨し、薄片を製作する。

薄片は、偏光顕微鏡下で観察を行なう。観察する項目は、胎土中に含まれる鉱物片と岩石片の種類とその量比、焼成により生成するムライトおよび溶化ガラスの量比、胎土の基質の特徴および焼成温度である。鉱物片、岩石片、焼成物の量比については、多量（◎）、中量（○）、少量（△）、微量（＋）、極微量（±）で示す。また、基質の特徴は、色調、配向性、粘土量、淘汰度という項目で表す。色調は、基質の色の濃淡であり、濃い（○）、中程度（△）、淡い（＋）で表す。配向性は、胎土における粘土や鉱物片、岩石片の方向性であり、強い（○）、中程度（△）、弱い（＋）で表す。粘土量は、焼成後も胎土に残存する粘土鉱物の量であり、上記の鉱物片などの量比の表記と同様にする。淘汰度は、素地の淘汰度であり、胎土中に含まれる鉱物片や岩石片の粒径とその量比から判断する。淘汰度は、良好（○）、中程度（△）、不良（＋）で表す。

焼成温度の推定は、観察される鉱物の高温による変化の程度を基準とする。ここでは、以下のような温度推定の基準を設定した。

1120 ～ 1150℃：曹長石から針状ムライトはまだ形成されず、曹長石の縁辺が褐色化する。

1150 ～ 1200℃：曹長石から針状ムライトが形成され始める。また、石英に高温クラックが形成または溶融が認められ、カリ長石にも溶融が認められる。

1200℃：0.03㎜の針状ムライトが粗く形成、明瞭に認められる。

1200 ～ 1250℃：0.03 ～ 0.05㎜の針状ムライトが中程度に生成される。

1250℃＜：0.03～0.05㎜の針状ムライトが密に形成され、カリ長石は溶化する。

以上述べた各項目の観察結果は、一覧表にして示す。

4．結果

各試料の観察結果を一覧表にして、第16表に示す。ほとんどの試料において、鉱物片では、石英、カリ長石、斜長石が中量～少量、黒雲母、ジルコン、不透明鉱物が微量～極微量含まれ、岩石片では、チャート、頁岩、花崗岩が中量～微量含まれる。また、ムライトが中量～少量生成している試料が多い。ただし、同じ分類の試料でも、これらの鉱物片、岩石片の産状は必ずしも同一ではなく、各分類ごとの胎土の特徴は、明瞭とはいえない。以下に、試料の分類ごとに胎土の状況を述べる。

なお、器種の後につけられている（　）内の数字は、遺物番号を示す。

灰原02出土鉢（444）

含まれる岩石片の種類とその量比が比較的多いのが特徴である。岩石片は、チャートが中量～少量、頁岩が少量、砂岩が少量～微量含まれている。

灰原02出土壺（445）

上記鉢と同様に、岩石片の種類とその量比が比較的多いのが特徴である。その内訳は、上記鉢とほぼ同様である。

灰原02出土碗Ａａ類

他の多くの試料に含まれている岩石片のチャートと花崗岩がほとんど含まれていない

ことが特徴である。また、ムライトが多量に生成しており、1250℃以上の焼成温度が推定される。

灰原02出土碗Ａｂ類

チャート、頁岩、花崗岩の三種類の岩石が含まれることが特徴といえるが、その量比には各試料で極微量～中量までの差がある。

灰原02出土碗Ｂ類

鉱物片、岩石片の特徴は捉えにくいが、ムライトの生成が５点とも中量以上であるこ

試料番号	鉱物片								岩石片						焼成物		基質				焼成温度（℃）	グリッド番号	出土地点	器種	胎土分類	注
	石英	カリ長石	斜長石	黒雲母	角閃石	単斜輝石	ジルコン	不透明鉱物	チャート	頁岩	砂岩	花崗岩	変成岩	珪化岩	ムライト	溶化ガラス	色調	配向性	粘土量	淘汰度						
1	○	△	△	±			±	△	○△	△	△+	△+			△	△	△	△	△	+	1150-1200	XE4t	灰原02	鉢（444）	Ab類	
2	○	±	△	+±			△	△	△	△	△	+±			△	○△	△	△	△	±	1200	XE5s	灰原02	壺（445）	Aa類	
3	○		○△	±			±	+		△		+±			○	△	△	△	△	±	1250+	XE5s	灰原02	碗	Aa類	
4	○△	+	○△	+			±	±		±	±				○	+	+	+	△	△	1200	XE5s	灰原02	碗	Aa類	
5	○△	+		±				±		±					△	+	△	△	△	+	1250	XE5s	灰原02	碗	Aa類	
6	△	+	○△	±			±	±							○	+	△	+	△	△	1250+	XE5s	灰原02	碗	Aa類	
7	○△	±	○△	±			±	+	+	+		+			○	+	△	+	+	△	1250+	XE5s	灰原02	碗	Aa類	
8	○	±	±	+			±	△	±	±	+	○			△	△	△	△	○	△	1200	XE5s	灰原02	碗	Ab類	
9	○△	+	+	±			±	±	+	+					○△	+	△	+	△	+	1250	XE5s	灰原02	碗	Ab類	
10	○△		△	+			±	+	+	+		±			△	+	△	+	+	+	1150-1200	XE5s	灰原02	碗	Ab類	
11	○△	○△	△	±			±	±	△	+		+			+	○△	△	+	+	+	1150-1200	XE5s	灰原02	碗	Ab類	
12	○△	+	△	±				±	±		±	±			+	+	△	△	+	△	1150-1200	XE5s	灰原02	碗	Ab類	
13	+	○△	△+	±			+	+	○△	+					○△	○△	○	+	△	△	1200-1250	XE5s	灰原02	碗	B類	
14	○△	+	+	±			±	+	+			+			△	+	△	+	+	+	1200-1250	XE5s	灰原02	碗	B類	
15	○△	○△	○△	±			±	+	+	+					○△	+	△	△	△	△	1200-1250	XE5s	灰原02	碗	B類	
16	○△	△	△	+			±	+	±	△		+			△	△	△	+	+	+	1200-1250	XE5s	灰原02	碗	B類	
17	○△	△	△	+			±	+	△	+		△			△	△	△	+	+	+	1150-1200	XE5s	灰原02	碗	B類	
18	○△	△	+	+			+	△	+	+	+				△	+	△	△	△	△	1200	XE5t	灰原03	碗	Ab類	
19	○	△	△	+		±	±	+	+	+		±		+	+	△+	+	+	△	+	1150-1200	XE5t	灰原03	碗	Ab類	
20	○△	+	○	+				+	+	△		△			+	+	+	△	△	△	1200	XE5t	灰原03	碗	Ab類	
21	○△	+	○△	±			±	+	△			△+			△	△	+	△	△	△	1200	XE5t	灰原03	碗	Ab類	
22	○△		○△	±	±		+	+	○△			+			○△	+	+	△	△	△	1200	XE5t	灰原03	碗	Ab類	
23	○△	△	+	±			±	+	±	+	±				△	+	+	+	△	+	1200	XE5t	灰原03	碗	Aa類	
24	○△	+	○△	±			±	+	+			△			△+	△+	△	△	○	△	1200	XE5t	灰原03	碗	Aa類	
25	△	○△	△	±			±	+	△+			+			△+	○△	+	△	+	△	1150-1200	XE5t	灰原03	碗	Aa類	
26	○△	△+	△	±		±	+	△+	+			△+			△+	△	△	+	△	△	1150-1200	XE5t	灰原03	碗	Aa類	
27	△	△+	○△	+		+	△	△				△+			△	△	△	△	△	△	1120-1150	XE5t	灰原03	碗	Aa類	
28	○△	±	+				±		±	△		+			△	△	+	+	△	+	1200	XE5t	灰原03	碗	B類	
29	○	+	○△						△+	△+		○△			○△	○	△	+	○	+	1200-1250	XE5t	灰原03	碗	B類	
30	○	○△	○△				±	+	○△	○△	+				+	○△	△	+	+	+	1150	XE5t	灰原03	碗	B類	
31	○△	○△	○△				±	+	○△	○△		△			△	△	△	△	+	+	1200	XE5t	灰原03	碗	B類	
32	○	+	△				±	±	○△	+		△+			○△	△	△	+	+	+	1200-1250	XE5t	灰原03	碗	B類	
33	+	±	+					+		+					△		○	+	○	+	1200	XF3c	灰原03	鉢（294）	Aa類	小破片
34	○△	△	+	±			±	+	±	+					+	△	△	+	△	+	1120-1150	XF3c	灰原03	鉢（298）	Aa類	
35	○△	+	+	+			±	+		+					△	△	+	+	△	+	1200	XF3c	灰原03	壺（300）	Aa類	小破片
36	○△	△	+	±			+	○△	+			+			+	△	△	+	△	+	1200	XF4a	灰原03	鉢（290）	Ab類	小破片
37	+	△	+				±	+	△	△					△	+	△	+	△	+	1150-1250	XF4b	灰原03	碗	B類	
38	○	○△	○△				±	±	○△	△					△	△	△	+	+	+	1150-1200	XF4b	灰原03	碗	B類	
39	○△	○	△+	±			±	±	○△	△		△			△+	○△	△	+	+	+	1200-1250	XF4b	灰原03	碗	B類	
40	○△	○△	△					+	+	±			△+		△	○△	△	+	+	+	1200	XF4b	灰原03	碗	B類	
41	○	+	○△	±			±	±	±	○△			△+		○△	○△	△	△	△	○	1150-1200	XF4b	灰原03	碗	B類	
42	○△	±	+	+				+	+	+		±			△	+	△	△	△	+	1200-1250	XF4b	灰原03	碗	Aa類	
43	○△	△		+			+	+	△	±					△+	△	△	+	+	○	1150-1200	XF4b	灰原03	碗	Aa類	
44	○△	△	○△	±			±	+	△			+			△	△	△	+	+	○	1120	XF4b	灰原03	碗	Aa類	
45	○△	△	○△	+			±	±				+			○△	△	△	+	+	△	1200-1250	XF4b	灰原03	碗	Aa類	
46	○△	○△	○△	+			±	△	○△	+		+	+		○△	△+	△	+	+	△	1150-1200	XF4b	灰原03	碗	Aa類	
47	△+	±	+	±			±	+	+	+		△			+	△	△	+	+	+	1150-1200	XF4b	灰原03	碗	Ab類	
48	○△	△	○△	+			±	+	△	+		△			△+	△	△	+	+	+	1200	XF4b	灰原03	碗	Ab類	
49	○	△	○△	+			±	+	△	+		△			○△	△+	△	+	+	+	1200	XF4b	灰原03	碗	Ab類	
50	○	○△	○△	△			±	+	△	±		+			△+	△	△	+	△	△	1150-1200	XF4b	灰原03	碗	Ab類	
51	○	△	○△	+±			±	+	○△	+		△			○△	△	△	+	+	△	1200	XF4b	灰原03	碗	Ab類	
52	○△	△	+	+			±	+	±	+					△	△	△	+	△	△	1150-1250	XF5a	灰原03	鉢（297）	Ab類	小破片
53	△+		+	±			±	+	+	○△					△	△	△	+	△	+	1250	XF5a	灰原03	壺（299）	Aa類	

※器種の（　　）内の数字は遺物番号を示す。

第16表　胎土薄片観察結果

とが特徴である。

灰原03（ＸＥ５t）出土碗Ａａ類

５点の試料は、チャートと花崗岩の岩石片を少量または微量含むことを特徴とする３点の試料と、チャート、頁岩、砂岩を含み、花崗岩を含まない試料および花崗岩しか含まない試料各１点ずつの三種類に分けられる。

灰原03（ＸＥ５t）出土碗Ａｂ類

鉱物片、岩石片の特徴は捉えにくいが、基質の粘土量が５点とも中量であることと、淘汰が４点で中程度であることが特徴である。

灰原03（ＸＥ５t）出土碗Ｂ類

鉱物片では黒雲母が含まれず、岩石片ではチャート、頁岩、花崗岩が比較的多く含まれることが特徴である。また、基質の淘汰が５点とも不良であることも特徴としてあげられる。

灰原03出土鉢（294）

他の多くの試料に含まれている鉱物片の黒雲母と岩石片のチャートおよび花崗岩が含まれず、岩石片の頁岩が微量含まれることが特徴である。また、色調が濃く、粘土量が多いことも他の試料には余り認められず、本分類の特徴になる。

灰原03出土鉢（298）

岩石片の花崗岩が含まれないことと、ムライトの生成が少量であることが特徴である。

灰原03出土壺（300）

岩石片のチャートおよび花崗岩が含まれず、頁岩のみが微量に含まれることが特徴である。

灰原03出土鉢（290）

鉱物片の不透明鉱物が少量～中量含まれることが特徴である。

灰原03（ＸＦ４ｂ）出土碗Ａａ類

５点の試料は、チャートを少量含み、淘汰が良好な２点と、チャート、頁岩、花崗岩を微量含み、淘汰が不良な試料、チャート、頁岩が含まれず、花崗岩が微量含まれ、淘汰が中程度の試料、チャート、頁岩、花崗岩、変成岩を微量含み、淘汰が中程度の試料各１点ずつの、四種類に分けられる。

灰原03（ＸＦ４ｂ）出土碗Ａｂ類

チャート、頁岩、花崗岩の三種類の岩石片が微量または中量含まれることが特徴である。

灰原03（ＸＦ４ｂ）出土碗Ｂ類

５点の試料は、チャート、頁岩を少量～中量含み、淘汰が不良な２点と、チャート、頁岩、花崗岩を少量～中量含み、淘汰が不良な試料、変成岩を含み、淘汰が不良な試料、変成岩を含み、淘汰が良好な試料各１点ずつの四種類に分けられる。

灰原03出土鉢（297）

岩石片が、極微量のチャートと微量の頁岩のみであることが特徴になる。

灰原03出土壺（299）

岩石片はチャートと頁岩のみであるが、特に頁岩が少量～中量含まれることが特徴である。

森岡第1号窯跡群出土遺物の重鉱物分析結果をまとめたものを次に記す。

全体として細砂粒を比較的多く含む。砂粒のほとんどは石英粒であり、それ以外の鉱物片および岩石片は非常に少ない。認められた鉱物片は、カリ長石や黒雲母、岩石片では、花崗岩やチャートなどである。ただし、これらは非常に微量なので、今回程度の小破片では、これらを含むか否かは偶然性によるところが大きい。また、試料によって淘汰度に違いが認められる。試料数の多い碗の分類ごとにみた概況は、以下の通りである。

碗Ａａ類：砂の量、淘汰度とも各出土地点間で異なっている。共通する胎土の特徴は、把握できない。

碗Ａｂ類：どの試料も砂を多く含むという共通性が認められる。しかし、淘汰度については、灰原02と灰原03のＸＥ5tの試料は良好で、灰原03のＸＦ4bの試料は不良という違いが認められる。灰原03のＸＦ4bの試料には、他の試料では認められなかった砂岩の岩片がある。

碗Ｂ類：どの試料も砂の量は比較的多く、淘汰度の不良なことが特徴といえる。前述のように今回の試料は、全体的に石英以外の砂が少ないのであるが、碗Ｂ類の試料のみは、石英以外の鉱物片（カリ長石）や岩石片（チャート、花崗岩、泥岩）がやや多い。

以上の概況をみると、各分類ごとに胎土の特徴のあるものもあるが、同じ分類でも胎土の特徴の異なるものもある。また、灰原02と灰原03との間で胎土が異なるということもない。

5．考察

愛知県、岐阜県を中心とする東海地域で窯業が盛んになった背景として、この地域一帯に分布する新第三紀鮮新世の東海層群中の良質な粘土層の存在がある。東濃地域の土岐口陶土層、名古屋東部丘陵地域の瀬戸陶土層、知多半島地域の常滑層群などがあげられる。森岡第1号窯跡群の位置する大府地域には、常滑層群の布土累層が分布する[註2]。布土累層は、布土累層下部層と布土累層上部層とに分けられる。この地層は、石英、カリ長石、斜長石、黒雲母、ジルコン、不透明鉱物の鉱物砕屑片と粘土で構成され、少量の美濃層群のチャート、頁岩、砂岩や領家花崗岩と少量の変成岩、変質岩を伴うとされている。したがって、森岡第1号窯跡群における陶器類の原料（素地土）は、布土累層が主として使用された可能性が高い。

一方で胎土を詳細にみれば、窯跡試料であるにもかかわらず、組成にばらつきがある。冒頭で述べたパリノ・サーヴェイ株式会社による東海地域の中世の灰釉系陶器の碗の胎土分

析では、本報告と同様の薄片観察による分析を行なったが、知多、猿投、瀬戸、渥美など各地の窯跡試料においていずれも胎土の特徴は一様ではなかった。また、他地域の窯跡試料との共通性を具有する試料の混在も認められた。これらの状況から、中世の東海地域の窯跡において胎土に多様性があることは、ごく一般的なことであったことが示唆される。

ところで、知多地域の中世灰釉系陶器碗の窯跡試料は、他の地域の窯跡試料に比べて、胎土の特徴が明瞭であった。その特徴は、粗粒の岩石片と鉱物片を含み、基質の淘汰が不良であることとされ、この特徴を有した試料は、知多地域の窯跡試料の7割を占めた。ちなみに瀬戸や猿投の窯跡の試料では、その地域特有の胎土の試料は2～4割程度である。今回の森岡第1号窯跡群の試料について、上記知多地域の中世灰釉系陶器碗の特徴とされている胎土の基質の淘汰が不良な試料をみると、その点数は53点中29点あり、今回の試料にも共通する特徴であるといえる。一方、中世灰釉系陶器碗の胎土における猿投地域特有の特徴は、基質の淘汰が良好なこと（最もこの特徴を有する試料は、猿投地域の試料中の2割程度しかない）であるが、今回の森岡第1号窯跡群の試料の中ではこの特徴を有する試料は3点しか認められない。すなわち、この結果だけからみれば、森岡第1号窯跡群は知多地域の窯の性格に近い。この比較は、器種の違いや年代の違いなどを無視した単純なものではあるが、知多と猿投両窯跡群の接点に位置する森岡第1号窯跡群の性格を考えるうえで示唆に富む結果といえる。

今回の報告は、試料の考古学的情報（例えば、時期差や器種分類の具体的内容、あるいは、窯跡や灰原の構造、試料の出土状況など）が充分に把握できない状態で、結果記載と解析を行なった。今後の研究の進展に伴い、より多くの考古学的情報が得られるものと期待されるのでこれらを含めた形でさらに解析を進めたい。このような検討作業と試料の蓄積を今後とも行なうことで、本地域の古代から中世にかけての窯業生産の実態が明らかにできるものと期待される。

註

1．五十嵐俊雄・辻本崇夫1994「顕微鏡観察による山茶碗等の産地推定」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要第3号』p 41～82

2．日本の地質「中部地方Ⅱ」編集委員会1988「日本の地質5」『中部地方Ⅱ』310 p 共立出版

第3節　森岡第1号窯跡群出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

1．はじめに

大府市森岡町に所在する森岡第1号窯跡群で使用されていた燃料材の樹種を明らかにする目的で、灰原から出土した炭化材の樹種同定が行われた。当古窯は標高11.4～14.3mの緩斜地に形成されており、12世紀中葉～後葉に山茶碗を生産していた窯跡であった。ここで報告する炭化材は、灰原02から採取された8試料と灰原03から採取された19試料である。

2．炭化材樹種同定の方法

試料は各地点ごとにビニール袋に複数の破片が入っていた。炭化材の形状は、全般に小さな破片が多かったが細い丸材も少数見られた。状況のよさそうな大きめな破片だけを同定の対照にすると同定結果に偏りがでる恐れがあるので、3方向断面が観察可能な破片は大小にかかわらず同定するようにした。

先ず、炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で分類群のおおよその目安をつける。アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節・クリは横断面の管孔配列が特徴的であり、実体顕微鏡下で同定可能であるが、それ以外の分類群については3方向の破断面（横断面・接線断面・放射断面）を走査電子顕微鏡で観察し同定を決定する。またコナラ節やクヌギ節などでも、年輪幅の狭いぬか目や逆に年輪幅の広い試料などは実体顕微鏡下では誤同定の恐れがあるので、このような試料については走査電子顕微鏡で確認した。なお当試料は、実体顕微鏡観察の段階で、樹脂道を持つ針葉樹材が圧倒的に多く、マツ属複維管束亜属である可能性が高いと予想された。そこでこれらの針葉樹材については各試料ごとに1～2点を無作為に選び、走査電子顕微鏡で確認し、その同定結果を提示した。

走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5㎜角以下の大きさに整え、直径1㎝の真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製JSM－T100型）で観察と写真撮影を行った。

残りの炭化材試料は、各試料ごとに同定された各分類群ごとにまとめてあり、愛知県埋蔵文化財センターに保管されている。

3．結果

各試料ごとの同定結果を第17表に示し、灰原02および灰原03から検出された分類群とその数量を第18表にまとめた。

灰原02から採取された炭化材は、すべて針葉樹のマツ属複維管束亜属であった。それらの破片の放射方向の幅は4㎝以下で材の中心部に近いものが多かった。計数された年輪数は15年輪数以下のものが多く、放射方向の径が1.7cmで24年輪数が数えられる破片もあった。

灰原03から採取された炭化材からは、針葉樹のマツ属複維管束亜属、常緑広葉樹のア

カガシ亜属、落葉広葉樹のクヌギ節・クリ・ミズキ属・エゴノキ属、細枝であり保存状況も悪く分類群を特定できなかった広葉樹Aと広葉樹Bの合計８分類群が検出された。マツ属複維管束亜属は、すべての試料採取地点から検出され、破片数と量も広葉樹材より圧倒的に多かった。マツ属複維管束亜属の炭化材は放射方向の幅が３cm以下で材の中心部に近い破片が多かった。計数された年輪数は最も多いもので放射方向の径が1.8cmで25年輪であったが、多くは放射方向の径が２cm前後で20年輪数以下のものが多かった。それに対し広葉樹の炭化材は、直径または放射方向の径が１cm前後の小さな丸木や破片がほとんどであった。また広葉樹材は、ＸＦ3c、ＸＦ4a、ＸＦ4b、ＸＦ5aの４地点から検出され、ＸＦ3cからはアカガシ亜属・クヌギ節・クリ・ミズキ属・エゴノキ属の５分類群、ＸＦ4aからはクヌギ節・クリ・広葉樹Ａの３分類群、ＸＦ4bからは広葉樹Ｂの１分類群、ＸＦ5aからはアカガシ亜属の１分類群が検出された。

以下に同定の根拠とした組織構造の観察結果を記載する。

(1) マツ属複維管束亜属Pinus subgen. Diploxylonマツ科

図版26　1a.－1c.（№12灰原03ＸＥ5t）2a.（№７灰原02ＸＥ5t）3a.（№10灰原03ＸＥ5t）

垂直・水平樹脂がある針葉樹材である。早材から晩材への移行はゆるやかで晩材部の量は多く、垂直樹脂道はおもに晩材部にある。分野壁孔は窓状である。放射組織の上下端には有縁壁孔を持つ放射仮道管があり、その内壁には鋸状の肥厚があることからマツ属複維管束亜属のアカマツまたはクロマツであることが判る。内壁の肥厚の形状により、アカマツは鋭利な鋸歯状を呈するのに対し、クロマツのそれは比較的ゆるやかである点で識別されることもあるが、炭化材では内腔に張り出た肥厚した部分は見られないか崩れていることが多いため、種まで同定することは難しい。しかし、顕著な肥厚の痕跡が認められた試料も多くありアカマツと予想される。

アカマツは花崗岩地帯や乾燥した痩せ地の陽地に生育し、二次林の代表樹種でもある。自然分布ではアカマツは内陸部に、クロマツは海岸部に多いといわれている。

(2) コナラ属アカガシ亜属Quercus subgen. Cyclobalanopsisブナ科

図版26　4a.－4c.（№13 － 2灰原03ＸＦ3c）

集合放射組織を挟み小型の単独管孔が放射方向に配列する放射孔材である。接線状の柔組織が顕著である。道管の壁孔は小さく交互状、穿孔は単一である。放射組織は同性、単列のものと広放射組織とがあり、道管との壁孔は孔口が大きく、柵状・交互状のものがある。中心部の髄は横断面で五角形をなしている。

アカガシ亜属は常緑性でドングリをつけるカシ類の仲間であり、おもに暖温帯に分布する。山野に普通なアラカシ・アカガシ・シラカシ、関東以南に多いイチイガシ・ツクバネガシ、海岸や乾燥地に多いウバメガシ、寒さに強くブナ帯の下部まで分布するウラジロガシなどがある。

(3) コナラ属コナラ亜属クヌギ節Q. subgen. Quercussect. Cerrisブナ科

図版27　5a.－5c.（№13－３灰原03ＸＦ3c）

r：横断面径　φ：直径

試料	遺構・地点	採取日	分類群	数量	形状・大きさなど
No1	灰原02XF3b	960521	マツ属複維管束亜属	多数	r:4.0cm以下破片
No2	灰原02XE4s	960520	マツ属複維管束亜属	6	r:3.2cm以下破片
No3	灰原02XE5s	960522	マツ属複維管束亜属	多数	r:2.5cm以下破片
No4	灰原02XE5s	960560	マツ属複維管束亜属	多数	r:4.0cm以下破片
No5	灰原02XE5s	960604	マツ属複維管束亜属	3	r:2.0cm以下破片
No6	灰原02XE5t	960521	マツ属複維管束亜属	多数	r:3.0cm以下破片
No7	灰原02XE5t	960522	マツ属複維管束亜属	多数	r:3.0cm以下破片
No8	灰原02XE6s	960520	マツ属複維管束亜属	多数	r:1.0cm以下破片
No9	灰原03XE5t	960529	マツ属複維管束亜属	多数	r:1.0cm以下破片
No10	灰原03XE5t	960530	マツ属複維管束亜属	2	r:1.8cm破片　r:0.8cm破片
No11	灰原03XE5t	960528	マツ属複維管束亜属	多数	r:1.0cm以下破片
No12	灰原03XE5t	960529	マツ属複維管束亜属	多数	r:3.0cm以下破片
No13-1	灰原03XF3c	960520	マツ属複維管束亜属	多数	φ:1.5cm丸木　r:2.0cm以下破片
No13-2	灰原03XF3c	960520	アカガシ束亜属	1	φ:0.8cm丸木
No13-3	灰原03XF3c	960520	クヌギ節	1	r:1.3cm以下破片
No13-4	灰原03XF3c	960520	クリ	1	r:0.7cm以下破片
No13-5	灰原03XF3c	960520	ミズキ属	2	r:1.3cm破片
No13-6	灰原03XF3c	960520	エゴノキ属	2	φ:1.3cm丸木　r:0.7cm破片
No14	灰原03XF3b	960522	マツ属複維管束亜属	多数	r:3.0cm以下破片
No15	灰原03XF3b	960527	マツ属複維管束亜属	多数	r:0.5mm以下破片
No16	灰原03XF4a	960521	マツ属複維管束亜属	4	r:1.0cm以下破片
No17	灰原03XF4a	960522	マツ属複維管束亜属	多数	r:1.0cm以下破片
No18	灰原03XF4a	960524	マツ属複維管束亜属	5	r:1.0cm以下破片
No19-1	灰原03XF4a	960523	マツ属複維管束亜属	多数	r:2.0cm以下破片
No19-2	灰原03XF4a	960523	クヌギ節	1	r:0.7cm破片
No19-3	灰原03XF4a	960523	広葉樹A	1	φ:0.5cm樹皮付き丸木
No20-1	灰原03XF4a	960523	マツ属複維管束亜属	多数	r:1.0cm以下破片
No20-2	灰原03XF4a	960523	クヌギ節	2	r:0.7cm以下破片
No20-3	灰原03XF4a	960523	クリ	1	r:0.3cm以下破片
No21	灰原03XF4b	960522	マツ属複維管束亜属	11	r:2.0cm以下破片
No22	灰原03XF4b	960531	マツ属複維管束亜属	多数	r:2.5cm以下破片
No23-1	灰原03XF4b	960521	マツ属複維管束亜属	多数	r:3.0cm以下破片
No23-2	灰原03XF4b	960523	広葉樹B	1	φ:0.5cm丸木
No24	灰原03XF5b	960523	マツ属複維管束亜属	7	r:2.0cm以下破片
No25	灰原03XF5b	960523	マツ属複維管束亜属	多数	r:1.0cm以下破片
No26-1	灰原03XF5a	960521	マツ属複維管束亜属	3	r:2.0cm破片　r:3.0cm破片
No27	灰原03XF5a	960523	マツ属複維管束亜属	多数	r:1.0cm以下破片

第 17 表　灰原出土炭化材樹種同定結果

検出された	灰原02	灰原03
マツ属複維管束亜属	多数	多数
アカガシ亜属		3
クヌギ節		3
クリ		2
ミズキ属		2
エゴノキ属		2
広葉樹A		1
広葉樹B		1

第 18 表　灰原出土炭化材樹種

年輪の始めに大型の管孔が１～３層配列し、晩材部は小型・厚壁の管孔が単独で放射方向に配列し広放射組織があり、接線状・網状の柔組織が顕著な環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、チロースがある。放射組織は同性、単列のものと集合状のものがあり、道管との壁孔は柵状である。

クヌギ節は落葉性のドングリの仲間でそのうちのクヌギとアベマキが属する。いずれの種も暖帯の山林に普通の高木で、二次林にも多く、関東ではクヌギ、瀬戸内海沿岸地方にはアベマキが多い。

(4) クリ*Castanea crenata Sieb.et Zucc.*ブナ科

図版27 6a.－6c.（№13－４灰原03ＸＦ3c）

年輪の始めに中型～大型の管孔が密に配列し除々に径を減じてゆき、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列し、柔組織が接線状に配列する環孔材である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きく交互状である。

北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。

(5) ミズキ属*Cornus*ミズキ科

図版27 7a.－7c.（№13－５灰原03ＸＦ3c）

小型で孔口の丸い管孔が主に単独であるが希に２－３個が放射方向に複合し均一に分布し、年輪界でやや径を減じる散孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は横棒の数が多い階段穿孔で、晩材部の管孔では横棒数はさらに多くなる。放射組織は異性、１－３細胞幅、多列部は平伏細胞からなりその上下端に方形・直立細胞が単列で伸びる。

ミズキ属は暖帯から温帯の丘陵地から山地に普通の落葉広葉樹で、ミズキ、クマノミズキ、ヤマボウシがある。

(6) エゴノキ属*Styrax*エゴノキ科

図版28 8a.－8c.（№13－６灰原03ＸＦ3c）

小型で厚壁の管孔が単独または２～４個が複合し放射方向に配列し、晩材部では径が減少し管孔の分布数も減少する散孔材である。道管の壁孔は小型で交互状に密在、穿孔は横棒が少ない階段穿孔である。放射組織は異性、１～３細胞幅、多列部の上下端は方形・直立細胞からなる単列部があり、道管との壁孔は小型で交互状である。

エゴノキ属は暖帯から温帯下部の丘陵地～山地に生育する落葉高木である。エゴノキ・ハクウンボク・コハクウンボクがある。

(7) 広葉樹A　broad-leavedtree A

図版28 9a.－9c.（№19－３灰原03ＸＦ4a）

中型から大型の管孔が多く散在している。被熱により変形しており、管孔配列や年輪界は不明瞭であり、放射組織の構成細胞と細胞幅も知ることはできなかった。また当試料は直径0.5cmの樹皮付きの丸木であるが、横断面の中心部に髄は認められなかったが状態が悪いのでつぶれている可能性もあり根材か枝材かの断定はできなかった。道管の

壁孔は交互状から階段状でその孔口は大きく開いており、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。

(8)広葉樹B　broad-leavedtreeB

図版28　10a.－10c.（№23－２灰原03ＸＦ4b）

直径0.5cmの丸木で中心部に円形の髄がある。当年部の管孔は小型で単独または２～３個が複合に疎らに分布し、２年輪目の始めは厚壁でやや大きな管孔が１～２層あり晩材部は単独または少数が複合して分布している。道管の壁孔は小型で交互状に配列し、穿孔は単一である。放射組織は異性、１～３細胞幅である。組織の状況があまり良くないうえ、細い枝材で種の形質発現が不充分なため同定にはいたらなかった。

4．まとめ

当窯跡の灰原02と03から採取された炭化材は圧倒的にマツ属複維管束亜属が多かったことから、マツ属複維管束亜属が主要な燃料材であったことが明らかになった。灰原02からはマツ属複維管束亜属のみが検出されたが、灰原03からは少数ではあるが複数の地点から複数種の広葉樹材が検出された。灰原02は灰原03より新しい時期の灰原である。灰原02と灰原03で検出された樹種構成の違いが時期の差と関連しているのか、単に採取量の違いを反映しているのかは、同様な事例の蓄積が必要であろう。また炭化材の横断面の観察からは、中心部に近い部位が多く、放射方向の径や横断面の幅から推定される材の直径は10㎝以下が多いと推定される。但し中心部が焼け残った炭化材を多く見ている可能性もあるのだが、推定される材の太さからは大径木の幹材部を分割して使用していたというよりは、比較的細い幹材または枝材を多く利用していたと予想される。検出されたマツ属複維管束亜属（アカマツまたはクロマツ）・クヌギ節・クリは現在では二次林の主要構成樹種であり、ミズキ属・エゴノキ属は丘陵の谷筋に生育し、アカガシ亜属も当地域では普通に生育している樹種である。従って灰原から出土した炭化材は、当時においても現在とほぼ同様な植生環境であったことを反映していると思われる。

当窯跡からほど近い神明古窯址群の２基の窯址から出土した炭化材の調査結果では、コナラ亜属とマツ属の２分類群が出土している。その比率は、クヌギ節とコナラ節を含むコナラ亜属が81.25％を占めマツ属より圧倒的に多い（小川、1996）。神明古窯址群は平安時代～鎌倉時代始めの窯であり12世紀中葉～後葉の当窯とほぼ同時期で、主な生産陶器も山茶碗であり類似点が多い。主要な炭化材樹種もマツ属とコナラ亜属であるが、優占種には明瞭な違いがある。当窯ではマツ属複維管束亜属が優占するのに対し、神明古窯址ではコナラ亜属が優占していた。山口・千野（1990）は、窯業で消費される燃料材は大量で窯周辺から採取したと考えられるためその樹種は周辺植生と密接な関係があり、燃料材の伐採が自然植生に及ぼした影響を知るため二次林化の指標となるマツ属複維管束亜属の窯業への利用状況に着目して、資料の集積・集成を行った。その中で、当窯跡とも近い瀬戸・美濃窯跡群の特徴として、マツ属複維管束亜属の利用例が多くその原因として古墳時代以来の大窯跡群であるために植生の二次林化が進んでいた可能性が高いこと、また時期が異な

ると生産陶器の種類も異なりそれに関連して燃料材の樹種構成にも違いが見られることが指摘されている。つまり、灰釉陶器を生産した窯ではコナラ亜属（クヌギ節とコナラ節を含む）に比べマツ属複維管束亜属は量的に少ないが、山茶碗を生産していた窯ではマツ属複維管束亜属の利用が目立つ傾向があることを指摘している。マツ属複維管束亜属が優占する当窯跡は、まさに山茶碗を生産していた窯であり、山口・千野（1990）の指摘と符号するが、神明古窯址群ではマツ属複維管束亜属よりコナラ亜属が優占していた。このような優占樹種の違いは何を意味しているのか、その要因はなんであるのか、今後も資料を増やし検討して行く必要がある。

引用文献

小川雅康、1996、「出土炭化材の樹種同定」P125-133、『海陸庵古窯址群・神明古窯址群』大府市教育委員会。

山口慶一・千野裕道、1990、「マツ林の形成および窯業へのマツ材の導入について」P85-114、図版１－10、『研究論集Ⅷ』東京都埋蔵文化財センター。

第Ⅴ章　まとめ

第１節　灰原出土碗・皿の比較

これまで各遺構・各遺物について述べてきた。この章では、特に灰原03・灰原02出土の焼成品の主体をなし、出土比率がほぼ同率である碗・皿を比較したうえで本窯跡についてまとめてみたい。

灰原03・灰原02出土の碗を形態分類別に比較すると（付表１）、口縁端部は、灰原03ではＡ類・Ｆ類合わせて93.4％（3,045点）と集中するのに対して、灰原02ではＡ類・Ｂ類・Ｅ類・Ｆ類に数量が分散し、Ｇ類・Ｈ類の比率も灰原03に比べて高い。このことから、灰原03は形態にまとまりがあるが、灰原02は多種類の形態に分かれる。口縁部は、灰原03ではｂ類・ｃ類合わせて76.4％（2,446点）と集中する。灰原02も類似した結果となったが、灰原03では一群をなすｆ類・ｇ類が比較的多くみられる特徴を示す。体部は、灰原03では曲線的に立ち上がるⅠ類がほとんどであるのに対し、灰原02では直線的に立ち上がるⅡ類の比率が高くなる。胎土は、灰原03・灰原02ともＡｂ類が最も多いが、特に灰原02はＡｂ類に集中する傾向を示す。また、灰原03ではＢ類の比率が灰原02の約３倍であり、灰原03の特徴のひとつになっている。コロシの比率は灰原03の方が若干高い。高台底面の付着痕は、灰原03・灰原02とも籾殻のみが最も多く、次いで籾殻と砂粒の両方であるが、灰原02では籾殻のみの比率が若干高くなっている。

法量を比較した場合（第19表）、灰原03の碗が器高が高く、高台径が小さい以外はほぼ同じ数値を示す。口径は、両灰原出土の碗とも16.5cmに近い数値を示し、大型である。胎土別にみると、Ａａ類・Ａｂ類は、灰原03の碗が口径・高台径が小さく、器高が高い。Ｂ類は、灰原03の碗が口径が大きい値を示す。体厚は、各類型とも灰原03の碗が薄く、底

全体

灰原03	部　位	灰原02
16.48	口　径	16.46
5.16	器　高	5.03
8.34	高台径	8.46
0.46	体　厚	0.47
1.00	底　厚	0.92
31.36	径高指数	30.59
5,317	点　数	1,683

単位はcm

胎土Aa類

灰原03	部　位	灰原02
16.16	口　径	16.24
5.08	器　高	4.81
8.09	高台径	8.28
0.38	体　厚	0.43
0.95	底　厚	0.93
31.45	径高指数	29.60
546	点　数	211

単位はcm

胎土Ab類

灰原03	部　位	灰原02
16.39	口　径	16.46
5.12	器　高	5.03
8.22	高台径	8.46
0.45	体　厚	0.47
1.00	底　厚	0.91
31.27	径高指数	30.61
3,007	点　数	1,223

単位はcm

胎土B類

灰原03	部　位	灰原02
16.72	口　径	16.62
5.23	器　高	5.24
8.61	高台径	8.60
0.49	体　厚	0.51
1.04	底　厚	0.96
31.39	径高指数	31.56
1,538	点　数	154

単位はcm

第19表　灰原出土碗法量平均値比較表

厚は厚めである。

灰原03・灰原02出土の皿を形態分類別に比較すると（付表２）、口縁端部は碗に類似した傾向を示し、灰原03ではＡ類・Ｆ類合わせて93.6％（1,177点）と集中するのに対して、灰原02ではＡ類・Ｂ類・Ｆ類に数量が分散し、Ｃ類・Ｄ類・Ｅ類・Ｇ類・Ｈ類の比率も灰原03に比べて高い。このことから、灰原03は形態にまとまりがあるが、灰原02は多種類の形態に分かれる。体部は、灰原03ではⅠ類・Ⅶ類合わせて86.1％（1,047点）と集中するのに対して、灰原02ではⅠ類のみに集中する。底部形態は、灰原03・灰原02とも高台をもつ底部形態１類が主体であるが、灰原03では２類の比率が灰原02よりも高い。コロシの比率は灰原03の方が若干高い。高台底面付着痕は、灰原03では籾殻と砂粒の両方が最も多く、籾殻のみが次ぐが、灰原02では籾殻のみが過半数を越える。

法量を比較した場合（第20表）、底部形態別にみると、１類・３類に顕著な違いを見いだすことができる。灰原03の皿が１類・３類とも全体に低い数値を示す。このことから、灰原03の皿１類・３類とも灰原02に比べて小振りであるといえる。さらに、各類型を胎土別にみると、１類・３類とも灰原03のＡａ類の皿が全体的に極端に低い値を示す。灰原03の皿Ａａ類が本窯跡の最も大きな特徴といえる。

成形技法は、両灰原出土の碗・皿とも、輪積み方式か巻き上げ方式かは不明であるが、粘土紐を積み上げる方法と考えられる。

以上記してきたことをまとめると、灰原03は器形に一定のまとまりを示すとともに、特徴的な器形をもつものを焼成している。それに対し、灰原02は器形に顕著なまとまりはなく、特徴的な器形も口縁端部Ｅ類以外はほとんどみられない。

1類全体

灰原03	部位	灰原02
8.78	口径	8.90
2.57	器高	2.63
4.88	高台径	4.98
0.36	体厚	0.41
0.69	底厚	0.66
29.16	径高指数	29.37
1,058	点数	397

単位はcm

1類胎土Aa類

灰原03	部位	灰原02
8.33	口径	8.85
2.23	器高	2.61
4.60	高台径	4.97
0.30	体厚	0.38
0.63	底厚	0.62
26.80	径高指数	28.76
299	点数	158

単位はcm

1類胎土Ab類

灰原03	部位	灰原02
8.86	口径	8.91
2.69	器高	2.62
4.95	高台径	4.94
0.39	体厚	0.41
0.70	底厚	0.67
30.34	径高指数	29.58
449	点数	176

単位はcm

1類胎土B類

灰原03	部位	灰原02
9.04	口径	8.92
2.65	器高	2.68
4.94	高台径	4.98
0.36	体厚	0.47
0.70	底厚	0.70
29.30	径高指数	30.10
212	点数	37

単位はcm

2類全体

灰原03	部位	灰原02
8.92	口径	8.96
2.55	器高	2.56
4.72	底径	4.46
0.40	体厚	0.46
0.76	底厚	0.74
28.61	径高指数	28.60
74	点数	5

単位はcm

3類全体

灰原03	部位	灰原02
8.75	口径	8.85
2.25	器高	2.33
4.48	底径	4.60
0.36	体厚	0.44
0.66	底厚	0.71
25.73	径高指数	26.32
266	点数	70

単位はcm

3類胎土Aa類

灰原03	部位	灰原02
8.38	口径	8.60
1.98	器高	2.31
4.09	底径	4.21
0.31	体厚	0.41
0.62	底厚	0.78
23.61	径高指数	26.88
90	点数	10

単位はcm

3類胎土Ab類

灰原03	部位	灰原02
8.90	口径	8.84
2.39	器高	2.31
4.71	底径	4.72
0.39	体厚	0.46
0.66	底厚	0.70
26.82	径高指数	26.19
110	点数	42

単位はcm

3類胎土B類

灰原03	部位	灰原02
9.04	口径	9.05
2.39	器高	2.40
4.56	底径	4.63
0.37	体厚	0.44
0.68	底厚	0.63
26.52	径高指数	26.47
47	点数	14

単位はcm

第20表　灰原出土皿法量平均値比較表

第2節　結語

本窯跡は、知多半島の基部に所在する。このため、知多古窯跡群に属するものの、猿投山西南麓古窯跡群に近接している。このような位置関係を踏まえて出土遺物の時期を求める場合、中野晴久氏によって提起された「赤羽・中野編年」[註1]を中心にしつつ、藤澤良祐氏による編年区分[註2]や斎藤孝正氏の編年区分[註3]も提示する必要がある。

第3章第2節および前節で述べた灰原03・灰原02の碗・皿の形態から、いずれも赤羽・中野編年の2型式、藤澤編年の4型式から5型式へ移行する過渡的段階、斎藤編年の第Ⅶ期第2型式新段階にあたるものと考えられる。これらの編年区分の実年代は、概ね12世紀後半の範疇に属す。碗・皿以外の出土遺物である鉢・壺・土師質鍋も同時期に比定することができる。

大府市では、発掘調査などによって市内に点在する窯跡の年代が次第に把握されつつある。本窯跡から約700m西に位置し、近年調査された広口長頸瓶や玉縁状口縁碗などが出土した神明古窯址群は、12世紀中期から後期にかけての時期に築窯された窯である[註4]。また、約800m北に位置する石ケ瀬古窯や約300m北東に位置する江端古窯が12世紀後半に比定されている窯跡である。また、西方約3kmには瓦などを産した吉田第1・第2号窯がある。つまり、森岡第1号窯跡群を含め、その周囲には中世初期の多様な器種を焼成する窯跡が散在する。森岡第1号窯跡群の存在は、大府市の中世窯業生産、ひいては知多古窯跡群北部の窯業生産の性格を究明するうえで一石を投ずるものとなりうるであろう。

調査地点およびその周辺は、発掘調査終了後道路建設などにより風景が一変してしまった。ここばかりではない。知多半島の各所でほ場整備や工業用地・住宅用地の造成が行なわれ、多くの自然、多数の遺跡が消滅してしまった。今後も、知多半島では大型プロジェクトである常滑市沖の中部新空港の建設やそれに伴う多くの開発事業が予定されている。このような状況の中で、自然保護、遺跡保存のあり方が問われている。今を生きる我々は、後世の人々に何を残すことができるであろうか。真剣に考えなければならない。

註

1．中野晴久1994「生産地における編年について」『全国シンポジウム「中世常滑焼をおって」資料集』

2．藤澤良祐1982「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館

3．斎藤孝正1988「中世猿投窯の研究」『名古屋大学文学部研究論集ＣⅠ史学34』名古屋大学文学部

4．近藤英正・古田功治編1996『海陸庵古窯址群・神明古窯址群』大府市教育委員会

参考文献一覧

愛知県教育委員会 1969『愛知県旭浄水場古窯址調査報告』

1995『愛知県遺跡地図（Ⅱ）』知多・西三河地区

青木修・中野晴久 1988『上白田古窯址群』常滑市教育委員会

磯部幸男・奥川弘成1990『中田池古窯址群その１』武豊町教育委員会

磯部幸男ほか1992『中田池古窯址群その２』愛知県企業庁・武豊町教育委員会

伊藤正人ほか1998『大高南地区遺跡発掘調査報告書』名古屋市教育委員会

大府市誌編さん刊行委員会編 1986『大府市誌』愛知県大府市

1988『大府市誌』資料編 自然 愛知県大府市

1991『大府市誌』資料編 考古 愛知県大府市

岡崎譲治監修1982『仏教大事典』鎌倉新書

小澤一弘・樋上昇ほか1994『黒笹40・89号古窯跡・黒笹Ｇ２号古窯跡・立楠古窯跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター

尾野善裕ほか1992『ＮＮ302号窯・ＮＮ304号窯発掘調査報告書』名古屋市教育委員会

近藤英正・古田功治編1996『海陸庵古窯址群・神明古窯址群』大府市教育委員会

斎藤孝正1988「中世猿投窯の研究」『名古屋大学文学部研究論集ＣⅠ史学34』名古屋大学文学部

柴垣勇夫1985「山茶椀と白磁椀について」『愛知県陶磁資料館研究紀要４』愛知県陶磁資料館

城ケ谷和弘ほか1992『小田妻古窯跡群』（財)愛知県埋蔵文化財センター

立松彰ほか1983『愛知県東海市法秀古窯発掘調査報告書』東海市教育委員会

中世土器研究会編1995『概説中世の土器・陶磁器』真陽社

中野晴久1984「知多古窯址群における中世陶器成形技法の再検討」『知多古文化研究１』杉崎章先生退官記念論集刊行委員会

1994「生産地における編年について」『全国シンポジウム「中世常滑焼をおって」資料集』

1995「知多半島古窯址群の篦描記号文について」『常滑市民俗資料館研究紀要Ⅶ』常滑市教育委員会

中野晴久・坂野俊哉編1985『鎗場・御林古窯址群』常滑市教育委員会

永原慶二編1995『常滑焼と中世社会』小学館

名古屋考古学会裏山１号窯調査団1986「八事裏山１号窯第四、五次発掘調査報告」『古代人47』名古屋考古学会

楯崎彰一1961「八事一堂址」『愛知県知多古窯址群』愛知県教育委員会

野口泰子1992『ＮＡ320号窯群調査報告書』名古屋市教育委員会

藤澤良祐1982「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市歴史民俗資料館

前川要1984「猿投窯における灰釉陶器生産最末期の諸様相」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅲ』瀬戸市歴史民俗資料館

松田訓ほか1998『円通寺古墓　ＮＡ335号窯Ⅰ・Ⅱ』（財)愛知県埋蔵文化財センター

山下峰司1992『穴田南古窯跡群Ⅳ』瀬戸市教育委員会

余合昭彦ほか1995『刀池古窯跡群』（財)愛知県埋蔵文化財センター

形態分類別集計表

口縁端部

遺　構	A類	B類	C類	D類	E類	F類	G類	H類	計
SY02排土（第4層）	2								2
灰原03	1,372	103		72	42	1,673	15		3,277
SY01排土（第3層）	14	1				1			16
灰原02	343	155		10	137	260	19	4	928
総　計	1,731	259		82	179	1,934	34	4	4,223

口縁部

遺　構	a類	b類	c類	d類	e類	f類	g類	計
SY02排土（第4層）		2						2
灰原03	252	1,381	1,065	1	9	137	357	3,202
SY01排土（第3層）		12	3				1	16
灰原02	56	254	586		3	4	2	905
総　計	308	1,649	1,654	1	12	141	360	4,125

体部

遺　構	Ⅰ類	Ⅱ類	計
SY02排土（第4層）	1	1	2
灰原03	2,833	333	3,166
SY01排土（第3層）	15		15
灰原02	322	406	728
総　計	3,171	740	3,911

胎土

遺　構	Aa類	Ab類	B類	焼成不良	計
SY02排土（第4層）		2			2
灰原03	555	3,004	1,538	225	5,322
SY01排土（第3層）		20	1		21
灰原02	221	1,223	154	85	1,683
総　計	776	4,249	1,693	310	7,028

コロシ

遺　構	あり（○）	なし（×）	不明	計
SY02排土（第4層）		2		2
灰原03	613	3,188	1,521	5,322
SY01排土（第3層）	1	7	13	21
灰原02	116	989	578	1,683
総　計	730	4,186	2,112	7,028

高台底面付着痕

遺　構	砂粒	籾殻	籾殻砂粒	不明	計
SY02排土（第4層）		2			2
灰原03	404	2,068	1,600	1,248	5,320
SY01排土（第3層）		6	14	1	21
灰原02	14	732	479	455	1,680
総　計	418	2,808	2,093	1,704	7,023

外面底部痕跡

糸切り痕あり＝○、なし＝×

遺　構	○鮮明	○鮮明板目	○不鮮明	○不鮮明板目	×	×板目	不明	計
SY02排土（第4層）			2					2
灰原03	283	10	3,071	601	125	23	1,209	5,322
SY01排土（第3層）			7	1			13	21
灰原02	120	22	904	181	40	7	409	1,683
総　計	403	32	3,984	783	165	30	1,631	7,028

付表１　形態分類別集計表　碗

口縁端部

遺　構	A類	B類	C類	D類	E類	F類	G類	H類	計
灰原03	629	18	1	16	42	548	4		1,258
SY01排土（第3層）	1	2		2					5
灰原02	148	86	18	22	24	98	12		408
総　計	778	106	19	40	66	646	16		1,671

体部

遺　構	Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	Ⅳ類	Ⅴ類	Ⅵ類	Ⅶ類	計
灰原03	569	43	32	1	79	13	478	1,215
SY01排土（第3層）	2	3						5
灰原02	255	5	22	2	23		72	379
総　計	826	51	54	3	102	13	550	1,599

底部

遺　構	1類	2類	3類	不明	計
灰原03	1,059	73	265	12	1,409
SY01排土（第3層）	4		1	1	6
灰原02	397	5	70	3	475
総　計	1,460	78	336	16	1,890

胎土

遺　構	Aa類	Ab類	B類	焼成不良	計
灰原03	402	610	276	121	1,409
SY01排土（第3層）		6			6
灰原02	175	214	54	32	475
総　計	577	830	330	153	1,890

コロシ

遺　構	あり（○）	なし（×）	不明	計
灰原03	427	582	400	1,409
SY01排土（第3層）	1	5		6
灰原02	104	214	157	475
総　計	532	801	557	1,890

高台底面付着痕

遺　構	砂粒	籾殻	籾殻砂粒	不明	計
灰原03	90	332	481	155	1,058
SY01排土（第3層）		3	1		4
灰原02	4	205	109	79	397
総　計	94	540	591	234	1,459

外面底部痕跡

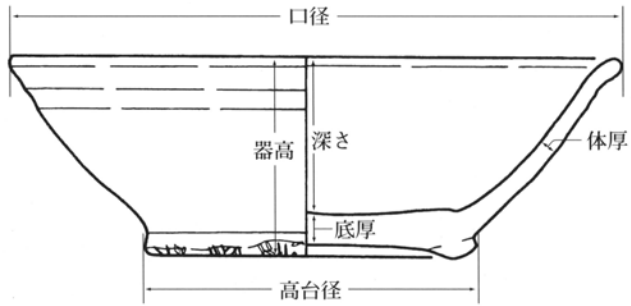
糸切り痕あり＝○、なし＝×

遺　構	○鮮明	○鮮明板目	○不鮮明	○不鮮明板目	×	×板目	不明	計
灰原03	121	3	391	24	690	20	160	1,409
SY01排土（第3層）	1		2		3			6
灰原02	15		135	5	234	3	83	475
総　計	137	3	528	29	927	23	243	1,890

付表２　形態分類別集計表　Ⅲ

出土遺物観察表

【法量計測方法】
口　径　最大値と最小値の平均値。
　　1/2 以下のものは推定値を記し、（）を付した。
器　高　最大値と最小値の平均値。
深　さ　最大値と最小値の平均値。
高台径　最大値と最小値の平均値。
底　径　最大値と最小値の平均値。
体　厚　体部中位付近の値。
底　厚　底部中央付近の値。
重　量　陶片、窯壁小塊などの付着物のない完形品のみ測定。
容　量　陶片、窯壁小塊などの付着物のない完形品のみ測定。
　　1/2 ㎜の粗粒砂を用い、メスシリンダーで計測した値。
径高指数　器高÷口径× 100
色　調　小山正忠、竹原秀雄編著 1997「新版標準土色帖」によった。



SY02 築窯時排出土（第 4 層）

遺物番号	器種	法量									口縁端部	口縁部	体部	胎土	成・整形			色調	焼成状況	備考	登録番号
		口径 (cm)	器高 (cm)	深さ (cm)	高台径 (cm)	体厚 (cm)	底厚 (cm)	重量 (g)	容量 (cc)	径高指数					コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕				
1	碗	16.60	5.20	3.50	8.00	0.45	1.10			31.3	A	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/2　灰白色	良好		E-001
2	碗	15.80	4.60	3.40	8.20	0.50	0.80			29.1	A	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5YR7/2　灰黄色	良好		E-002

灰原 03（1）

遺物番号	器種	法量										口縁端部	口縁部	体部	胎土	成・整形			色調	焼成状況	備考	登録番号
		口径 (cm)	器高 (cm)	深さ (cm)	高台径 (cm)	底径 (cm)	体厚 (cm)	底厚 (cm)	重量 (g)	容量 (cc)	径高指数					コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕				
3	碗	15.90	4.80	3.80	9.10		0.45	0.85			30.2	A	a	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y7/1　灰白色	良好	口縁端部に段差	E-003
4	碗	16.65	5.25	4.25	7.50		0.35	0.85			31.5	A	a	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/3　浅黄色	良好		E-004
5	碗	15.30	5.00	3.90	7.60		0.35	0.95			32.7	D	a	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1　灰白色	良好	断面に粘土の継ぎ目	E-005
6	碗	15.90	5.25	4.25	8.70		0.40	0.90			33.0	D	a	Ⅱ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1　灰白色	良好		E-006
7	碗	(15.8)	5.00	3.85	8.80		0.40	0.90			31.6	F	a	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-007
8	碗	16.55	5.40	4.40	9.00		0.50	0.85			32.6	A	b	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y6/2　灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-008
9	碗	15.80	5.05	4.05	7.50		0.30	0.90			32.0	D	b	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/1　灰白色	良好		E-009
10	碗	15.65	4.90	3.50	7.35		0.50	1.20			31.3	F	b	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1　灰白色	良好	口縁端部に段差	E-010
11	碗	16.45	5.15	4.20	8.68		0.35	0.85			31.3	F	b	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1　灰白色	良好		E-011
12	碗	16.40	5.00	3.85	8.90		0.45	0.90		490	30.5	F	b	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2　灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-012

灰原03（２）

遺物番号	器種	法量										口縁端部	口縁部	体部	胎土	成・整形			色調	焼成状況	備考	登録番号
		口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	底径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数					コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕				
13	碗	16.40	5.25	3.95	8.25		0.35	1.15			32.0	F	b	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/2 灰黄色	良好		E-013
14	碗	16.55	5.50	4.45	8.50		0.30	0.80	316.0	544	33.2	F	b	Ⅰ	Aa	○	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-014
15	碗	16.55	5.50	4.35	8.30		0.35	0.90			33.2	A	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	断面に粘土の継ぎ目	E-015
16	碗	16.70	5.23	4.18	7.63		0.40	0.85			31.3	A	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-016
17	碗	16.20	5.15	4.00	8.35		0.50	0.90			31.8	A	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明・板目	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-017
18	碗	16.50	5.30	3.80	8.20		0.50	1.15			32.1	A	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-018
19	碗	15.35	4.93	3.63	7.43		0.35	1.07			32.1	D	c	Ⅰ	Aa	×	○鮮明	砂粒	2.5Y7/3 浅黄色	良好	口縁端部に段差	E-019
20	碗	15.55	4.55	3.15	7.60		0.50	1.25			29.3	F	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-020
21	碗	15.50	4.85	3.90	7.80		0.50	0.75			31.3	F	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-021
22	碗	16.15	5.13	4.18	8.95		0.40	0.82			31.8	F	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/3 浅黄色	良好		E-022
23	碗	15.95	5.15	4.00	7.50		0.30	1.00			32.3	F	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/3 浅黄色	良好		E-023
24	碗	16.60	5.20	4.00	8.50		0.40	0.95			31.3	F	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-024
25	碗	16.50	5.25	4.00	8.15		0.35	1.15			31.8	F	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-025
26	碗	(14.8)	5.18	4.03	7.50		0.30	0.97			35.0	D	e	Ⅱ	Aa	○	○鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/3 浅黄色	良好		E-026
27	碗	(16.3)	5.00	4.20	8.55		0.40	0.70			30.7	E	b	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好		E-027
28	碗	15.20	4.70	3.25	7.95		0.45	1.35			30.9	E	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y7/2 灰白色	良好		E-028
29	碗	17.70	4.30	3.50	8.15		0.40	0.50			24.3	E	c	Ⅱ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-029
30	碗	(16.8)	4.95	3.65	9.10		0.50	1.05			29.5	E	c	Ⅱ		×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y7/2 灰白色	やや不良	体部に粘土紐の継ぎ目	E-030
31	碗	16.50	5.50	4.15	8.80		0.45	1.10			33.3	A	g	Ⅰ	Aa	○	○不鮮明・板目	籾痕	5Y7/2 灰白色	良好		E-031
32	碗	16.10	5.35	3.95	8.25		0.30	1.10			33.2	A	g	Ⅰ	Aa	○	○不鮮明	籾痕	5Y6/1 灰色	良好		E-032
33	碗	16.45	5.35	4.25	8.67		0.40	0.90			32.5	F	g	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-033
34	碗	(16.5)	5.05	4.10	6.90		0.50	0.70			30.6	A	g	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-034
35	碗	16.20	5.20	3.85	7.70		0.45	1.25			32.1	A	g	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	5Y8/1 灰白色	良好		E-035
36	碗	16.40	5.30	4.05	8.15		0.45	1.00			32.3	A	g	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	7.5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-036
37	碗	16.30	5.50	4.20	7.70		0.50	1.05			33.7	A	g	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-037
38	碗	16.50	5.40	3.75	8.10		0.40	1.40			32.7	A	g	Ⅰ	Ab	○	×	籾痕	5Y7/2 灰白色	良好		E-038
39	碗	16.65	5.50	4.50	7.85		0.35	0.80			33.0	A	g	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕	5Y8/1 灰白色	良好		E-039
40	碗	16.30	5.45	3.90	7.60		0.40	1.25			33.4	F	g	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好		E-040
41	碗	16.60	5.15	3.65	7.35		0.40	1.22			31.0	F	g	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/1 灰白色	良好		E-041
42	碗	17.35	5.45	3.95	8.73		0.50	1.35			31.4	F	g	Ⅰ		×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	やや不良	口縁端部に段差	E-042
43	碗	16.20	5.43	4.18	8.53		0.40	1.25			33.5	F	g	Ⅱ	Ab	○	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好		E-043
44	碗	15.90	4.80	3.60	8.20		0.40	1.10			30.2	A	a	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-044
45	碗	16.05	5.25	4.10	7.60		0.35	1.05			32.7	D	a	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好		E-045
46	碗	16.45	5.10	4.10	9.10		0.45	0.90			31.0	F	a	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-046
47	碗	16.00	4.95	3.70	7.78		0.40	1.05			30.9	A	b	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕	N7/1 灰白色	良好		E-047
48	碗	16.13	4.95	3.75	7.80		0.35	1.05			30.7	A	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-048
49	碗	16.10	5.15	4.15	8.00		0.50	0.90			32.0	A	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-049
50	碗	16.35	5.10	4.45	9.15		0.50	0.45			31.2	A	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-050
51	碗	16.65	5.05	3.90	9.20		0.40	1.15			30.3	A	b	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-051
52	碗	16.75	5.35	4.55	9.10		0.50	0.60			31.9	A	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	2.5Y8/2 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-052
53	碗	17.00	5.20	3.95	8.80		0.35	1.15	353.1	563	30.6	A	b	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-053
54	碗	16.90	5.35	4.05	8.50		0.50	1.15			31.7	A	b	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-054
55	碗	16.30	5.30	3.95	8.45		0.45	1.15			32.5	A	b	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好		E-055
56	碗	(16.2)	5.45	3.95	8.33		0.35	1.15			33.6	B	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-056
57	碗	15.55	5.03	3.78	7.65		0.35	1.05			32.3	D	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/1 灰白色	良好		E-057
58	碗	15.40	4.90	3.75	7.75		0.50	0.87		372	31.8	F	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-058
59	碗	15.95	5.20	4.15	8.25		0.35	0.90			32.6	F	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-059
60	碗	16.25	5.30	4.15	7.63		0.35	0.90			32.6	F	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-060
61	碗	16.20	4.95	3.75	8.10		0.50	1.10			30.6	F	b	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y8/1 灰白色	良好		E-061
62	碗	16.60	5.05	4.20	9.00		0.45	0.65			30.4	F	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-062
63	碗	16.35	5.30	4.15	8.75		0.40	0.95			32.4	F	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	10YR6/2 灰黄褐色	良好	口縁端部に段差	E-063
64	碗	16.10	4.80	3.60	9.10		0.45	1.00		434	29.8	A	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕	5Y8/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-064
65	碗	17.00	5.05	4.10	9.23		0.60	0.77			29.7	A	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-065
66	碗	16.40	5.40	4.00	8.05		0.75	1.20			32.9	A	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/1 灰白色	良好		E-066
67	碗	16.25	5.18	3.73	8.70		0.50	1.10			31.9	A	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/1 灰白色	良好		E-067
68	碗	15.90	5.15	3.85	8.45		0.50	1.20			32.4	A	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-068
69	碗	16.50	4.65	3.25	9.35		0.50	1.17			28.2	A	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-069
70	碗	15.95	5.15	3.85	8.20		0.55	1.05			32.3	B	c	Ⅰ	Ab		○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-070

遺物番号	器種	法量										口縁端部	口縁部	体部	胎土	成・整形			色調	焼成状況	備考	登録番号
		口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	底径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数					コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕				
71	碗	(15.8)	5.00	4.00	7.45		0.40	0.85			31.6	D	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-071
72	碗	14.80	4.90	3.75	7.50		0.40	1.07			33.1	F	c	Ⅰ	Ab	×	○鮮明	籾痕	5Y8/2 灰白色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-072
73	碗	(16.0)	4.30	3.15	8.10		0.35	0.92			26.9	F	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/3 淡黄色	良好		E-073
74	碗	15.30	4.85	3.60	8.00		0.65	1.00			31.7	F	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	10YR7/4 にぶい黄橙色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-074
75	碗	16.00	5.15	3.95	8.40		0.55	1.05			32.2	F	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/4 淡黄色	良好	口縁端部に段差	E-075
76	碗	16.25	5.00	3.55	7.20		0.55	1.30			30.8	F	c	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-076
77	碗	16.00	5.40	3.80	8.20		0.55	1.45			33.8	F	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/3 浅黄色	良好		E-077
78	碗	15.80	5.65	4.35	8.50		0.60	1.10			35.8	F	c	Ⅰ	Ab	×	×	籾痕	2.5Y7/3 浅黄色	良好	口縁端部に段差	E-078
79	碗	16.50	5.10	3.80	8.85		0.55	1.00			30.9	F	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好	糸切り痕二重	E-079
80	碗	16.50	5.45	4.30	8.30		0.60	0.70			33.0	F	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-080
81	碗	16.95	5.25	4.10	9.05		0.40	0.90			31.0	F	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-081
82	碗	16.75	5.15	4.20	8.53		0.35	0.87			30.7	F	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-082
83	碗	(16.0)	5.15	4.10	7.68		0.25	0.85			32.2	G	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-083
84	碗	(16.0)	4.95	4.05	7.90		0.50	0.70			30.9	G	b	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-084
85	碗	16.30	5.70	4.65	7.85		0.40	0.95			35.0	G	c	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-085
86	碗	17.00	5.00	3.65	8.80		0.40	1.15			29.4	G	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y6/2 灰黄色	良好		E-086
87	碗	15.80	5.00	3.70	7.90		0.30	1.10	320.1	414	31.6	A	a	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y6/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-087
88	碗	16.20	5.35	3.90	7.90		0.50	1.15			33.0	F	a	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-088
89	碗	(16.5)	5.25	4.05	8.08		0.35	0.97			31.8	A	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	内面底部に刻紋	E-089
90	碗	16.00	5.25	3.85	8.35		0.45	1.20			32.8	A	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-090
91	碗	(17.0)	5.55	4.05	8.40		0.60	1.30			32.6	A	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	7.5Y7/1 灰白色	良好		E-091
92	碗	16.80	5.35	4.25	8.95		0.45	0.90			31.8	A	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-092
93	碗	16.10	5.10	3.60	8.20		0.50	1.30	359.7	478	31.7	F	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好		E-093
94	碗	15.75	5.25	3.95	7.65		0.35	1.10			33.3	F	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-094
95	碗	16.60	5.45	4.05	8.95		0.35	1.15			32.8	F	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-095
96	碗	16.80	5.40	3.95	8.85		0.30	1.25			32.1	F	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕	10YR7/2 にぶい黄橙色	良好	口縁端部に段差	E-096
97	碗	(17.0)	3.90	2.60	8.45		0.55	1.00			22.9	F	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好		E-097
98	碗	15.80	5.55	4.10	7.80		0.65	1.20			35.1	A	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-098
99	碗	16.15	4.95	3.65	7.85		0.50	1.05			30.7	A	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-099
100	碗	16.45	4.80	3.65	8.60		0.40	0.92			29.2	A	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好		E-100
101	碗	(15.8)	4.95	3.75	7.50		0.35	1.00			31.3	B	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-101
102	碗	17.10	5.20	4.20	8.80		0.50	0.85			30.4	B	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-102
103	碗	16.00	5.15	3.60	7.70		0.50	1.25	331.2	392	32.2	F	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-103
104	碗	16.33	5.25	4.30	8.00		0.35	0.80			32.1	F	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-104
105	碗	16.70	5.20	3.80	8.60		0.40	1.15			31.1	F	c	Ⅱ	Ab	○	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y6/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-105
106	碗	16.85	5.20	3.95	8.93		0.40	1.07			30.9	F	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-106
107	碗	16.80	5.15	3.90	8.55		0.35	1.05			30.7	F	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-107
108	碗	17.10	5.00	3.70	7.95		0.45	1.10	313.0	460	29.2	F	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-108
109	碗	(16.6)	5.15	3.90	7.85		0.50	1.05			31.0	D	e	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-109
110	碗	16.70	5.15	4.10	8.50		0.50	0.90			30.8	A	f	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/2 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-110
111	碗	(16.8)	5.65	4.85	8.90		0.70	0.65			33.6	A	f	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-111
112	碗	(15.4)	5.10	3.95	7.60		0.35	0.95			33.1	D	f	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y6/1 灰色	良好		E-112
113	碗	(15.2)	5.60	4.25	8.20		0.55	1.10			36.8	F	f	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/2 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-113
114	碗	16.80	5.10	4.20	8.15		0.50	0.75			30.4	F	f	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-114
115	碗	16.15	4.95	3.60	8.15		0.50	1.10			30.7	A	f	Ⅱ	Ab		○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-115
116	碗	16.55	5.60	4.10	7.80		0.35	1.25			33.8	A	f	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-116
117	碗	16.25	5.25	3.80	8.40		0.50	1.20			32.3	F	f	Ⅱ	Ab	×	○鮮明	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-117
118	碗	15.10	5.50	3.90	8.38		0.40	1.37			36.4	F	f	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-118
119	碗	16.85	5.15	3.80	9.15		0.60	1.05			30.6	F	f	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-119
120	碗	17.10	5.55	4.30	9.10		0.45	1.00			32.5	F	f	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-120
121	碗	16.60	5.00	4.05	9.10		0.40	0.60			30.1	F	a	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/1 灰白色	良好		E-121
122	碗	16.55	5.30	3.65	8.30		0.40	1.40			32.0	F	a	Ⅰ	B	×	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-122
123	碗	16.75	5.25	4.00	7.98		0.65	0.95			31.3	F	a	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/1 灰白色	良好		E-123
124	碗	17.15	5.05	3.65	8.90		0.50	1.05			29.4	F	a	Ⅰ	B	○	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-124
125	碗	15.70	4.45	3.50	8.25		0.40	0.85			28.3	A	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/3 浅黄色	良好		E-125
126	碗	16.50	4.80	3.65	9.50		0.40	0.95			29.1	A	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-126
127	碗	15.65	5.43	4.13	9.00		0.45	1.30			34.7	B	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕	7.5Y8/1 灰白色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-127
128	碗	16.60	5.25	4.05	7.90		0.55	1.07			31.6	B	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-128

灰原03（4）

遺物番号	器種	法量 口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	底径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数	口縁端部	口縁部	体部	胎土	成・整形 コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕	色調		焼成状況	備考	登録番号
129	碗	16.85	5.03	3.78	8.60		0.40	1.10			29.9	B	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/1	灰白色	良好	内面底部に刻紋	E-129
130	碗	17.15	5.20	3.80	8.70		0.50	1.25			30.3	B	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2	灰黄色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-130
131	碗	16.50	5.00	3.85	8.78		0.45	1.07	380.5	502	30.3	F	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1	灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-131
132	碗	16.70	4.85	4.00	9.20		0.60	0.77			29.0	F	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/1	灰白色	良好	口縁端部に段差	E-132
133	碗	16.50	5.20	4.25	8.95		0.60	0.85			31.5	F	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1	灰白色	良好	口縁端部に段差	E-133
134	碗	16.60	5.10	3.95	7.75		0.50	1.05			30.7	F	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2	灰黄色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-134
135	碗	16.65	5.25	4.35	8.73		0.50	0.80			31.5	F	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1	灰白色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-135
136	碗	16.75	5.55	4.05	9.60		0.45	1.15			33.1	F	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2	灰黄色	良好		E-136
137	碗	16.90	5.40	4.10	8.35		0.50	1.05		492	32.0	F	b	Ⅰ	B	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y8/2	灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-137
138	碗	16.75	5.45	4.35	8.95		0.70	0.90			32.5	F	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	砂粒	2.5Y7/2	灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-138
139	碗	17.00	5.33	4.33	9.05		0.50	0.75			31.4	F	b	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1	灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-139
140	碗	16.70	5.10	4.05	8.78		0.45	0.75			30.5	G	b	Ⅰ	B		○不鮮明	籾痕	7.5Y8/1	灰白色	良好		E-140
141	碗	16.50	5.35	4.25	8.70		0.50	0.80	389.2	490	32.4	A	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1	灰白色	良好	口縁端部に段差	E-141
142	碗	16.90	5.20	3.90	8.20		0.50	1.17			30.8	B	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2	灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-142
143	碗	16.65	5.50	4.25	8.55		0.45	1.10			33.0	B	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/1	灰白色	良好		E-143
144	碗	16.70	5.25	3.95	9.00		0.55	1.15			31.4	B	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/1	灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-144
145	碗	16.70	5.00	3.80	8.90		0.80	1.10			29.9	B	c	Ⅰ	B	×	×	籾痕	2.5Y8/2	灰白色	良好		E-145
146	碗	16.75	5.35	4.40	8.58		0.55	0.70			31.9	B	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/2	灰白色	良好		E-146
147	碗	16.65	5.30	4.05	8.28		0.45	1.10			31.8	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	砂粒	5Y7/1	灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-147
148	碗	16.60	5.10	3.60	8.90		0.50	1.20			30.7	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/1	灰白色	良好		E-148
149	碗	16.70	5.08	3.93	9.00		0.35	1.00			30.4	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2	灰黄色	良好		E-149
150	碗	16.55	5.45	4.10	8.23		0.45	1.20			32.9	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	砂粒	5Y8/1	灰白色	良好		E-150
151	碗	17.15	5.15	3.60	8.55		0.45	1.30			30.0	F	c	Ⅰ	B	○	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1	灰白色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-151
152	碗	16.75	5.20	4.00	8.50		0.45	1.00		470	31.0	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2	灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-152
153	碗	16.50	5.30	4.00	8.70		0.50	1.15	383.6	502	32.1	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/1	灰白色	良好	口縁端部に段差	E-153
154	碗	16.50	5.38	4.18	9.10		0.40	0.95			32.6	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1	灰白色	良好		E-154
155	碗	16.90	5.20	3.80	9.00		0.45	1.20			30.8	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	砂粒	2.5Y6/2	灰黄色	良好		E-155
156	碗	16.80	5.30	3.80	8.60		0.50	1.05			31.5	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕	7.5Y8/1	灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-156
157	碗	16.80	5.33	3.88	8.90		0.50	1.32		462	31.7	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2	灰黄色	良好		E-157
158	碗	17.00	5.90	4.50	8.60		0.45	1.15			34.7	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	2.5Y8/2	灰白色	良好	口縁端部に段差	E-158
159	碗	16.90	4.95	4.35		7.70	0.50				29.3	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明		2.5Y7/1	灰白色	良好	高台なし	E-159
160	碗	16.10	5.43	4.13	8.78		0.40	0.95		494	33.7	F	b	Ⅰ		○	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	2.5Y7/2	灰黄色	やや不良		E-160
161	碗	17.25	5.58	4.58	8.60		0.40	0.70			32.3	F	b	Ⅰ		×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/4	淡黄色	やや不良		E-161
162	碗	16.90	5.35	4.30	9.00		0.40	0.85			31.7	A	b	Ⅱ		×	○不鮮明	籾痕	5Y8/2	灰白色	やや不良		E-162
163	碗	17.50	5.58	4.28	9.30		0.55	1.00			31.9	A	c	Ⅱ		×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/3	淡黄色	やや不良		E-163
164	碗	17.30	5.45	4.40	9.15		0.40	0.95			31.5	F	c	Ⅱ		×	○不鮮明	砂粒	2.5Y8/4	淡黄色	やや不良		E-164
165	碗	17.45	6.20	4.45	8.40		0.50	0.80			35.5	A	d	Ⅰ		×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/4	淡黄色	やや不良	玉縁口縁状碗	E-165
166	碗	15.70	5.20	4.10	7.30		0.45	0.60			33.1	F			Ab	×	×板目	籾痕	2.5Y7/3	浅黄色	良好	外面全面釉、歪みはげしい、蓋に使用	E-166
167	碗	15.55	6.00	4.70	7.60		0.40	0.65			38.6	F			Ab	×		籾痕	2.5Y7/3	浅黄色	良好	外面全面釉、歪みはげしい、蓋に使用	E-167

遺物番号	器種	法量 口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	底径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数	底部形態	口縁端部	体部	胎土	成・整形 コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕	色調		焼成状況	備考	登録番号
168	皿	7.90	1.95	1.15	3.85		0.25	0.60			24.7	1	A	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y6/3	にぶい黄色	良好		E-168
169	皿	8.05	2.20	1.20	3.95		0.25	0.65	61.0		27.3	1	A	Ⅰ	Aa	○	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y6/2	灰黄色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-169
170	皿	8.30	2.20	1.30	5.20		0.25	0.60	60.6		26.5	1	A	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕	5Y7/1	灰白色	良好		E-170
171	皿	8.20	2.05	1.15	4.50		0.25	0.70	62.1		25.0	1	A	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	10YR7/1	灰白色	良好		E-171
172	皿	8.30	2.10	1.10	4.20		0.25	0.75	60.9		25.3	1	A	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕	5Y6/1	灰色	良好		E-172
173	皿	8.25	2.10	1.00	4.80		0.30	0.90	61.3		25.5	1	A	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/1	灰白色	良好		E-173
174	皿	8.30	2.35	1.40	4.35		0.35	0.65	65.8		28.3	1	A	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	5Y7/1	灰白色	良好		E-174
175	皿	8.30	2.10	1.15	3.75		0.30	0.60			25.3	1	A	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/1	灰白色	良好	口縁端部に段差	E-175
176	皿	8.40	1.95	0.95	4.60		0.25	0.65	55.6		23.2	1	A	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/1	灰白色	良好		E-176
177	皿	8.60	1.90	1.00	4.60		0.30	0.50			22.1	1	D	Ⅰ	Aa	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/1	灰白色	良好		E-177
178	皿	8.50	2.10	1.15	4.50		0.25	0.70	59.1		24.7	1	E	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y6/1	黄灰色	良好	口縁端部に段差	E-178
179	皿	7.90	2.15	1.35	4.50		0.30	0.60	55.9		27.2	1	F	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y6/1	黄灰色	良好	口縁端部に段差	E-179
180	皿	8.15	1.80	0.95	4.40		0.25	0.50	55.1		22.1	1	F	Ⅰ	Aa	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y6/2	灰黄色	良好		E-180
181	皿	8.40	1.95	1.05	5.25		0.25	0.60			23.2	1	F	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y6/1	灰色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-181
182	皿	8.35	2.55	1.60	4.55		0.30	0.65			30.5	1	F	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	5Y7/1	灰白色	良好		E-182

灰原03（5）

遺物番号	器種	法量									径高指数	底部形態	口縁端部	体部	胎土	成・整形			色調	焼成状況	備考	登録番号
		口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	底径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)						コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕				
183	皿	8.45	2.00	1.00	3.55		0.25	0.70	58.4		23.7	1	F	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好		E-183
184	皿	8.60	2.30	1.35	4.45		0.30	0.80	60.9		26.7	1	F	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好		E-184
185	皿	8.05	2.10	1.15	4.95		0.25	0.55			26.1	1	A	Ⅶ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	10YR6/1 褐灰色	良好		E-185
186	皿	8.10	1.90	0.95	4.10		0.30	0.50	55.7		23.5	1	A	Ⅶ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y6/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-186
187	皿	(8.1)	2.10	1.25	4.00		0.25	0.60			25.9	1	E	Ⅶ	Aa	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-187
188	皿	8.15	2.10	1.20	4.60		0.35	0.45	59.9		25.8	1	F	Ⅶ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y6/1 黄灰色	良好		E-188
189	皿	8.05	2.15	1.30	3.95		0.35	0.50			26.7	1	F	Ⅶ	Aa		×	籾痕・砂粒	2.5Y6/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-189
190	皿	8.20	2.15	1.15	4.65		0.25	0.60			26.2	1	F	Ⅶ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y6/2 灰黄色	良好		E-190
191	皿	9.50	2.80	1.65	5.00		0.40	0.55			29.5	1	A	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-191
192	皿	8.55	2.35	1.60	4.65		0.30	0.50			27.5	1	F	Ⅰ	Aa	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/3 浅黄色	良好	底部の穴を粘土を詰めて塞ぐ	E-192
193	皿	(9.1)	2.50	1.40	4.95		0.30	0.85			27.5	1	E	Ⅶ	Aa	×	×	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-193
194	皿	(9.0)	2.50	1.50	4.85		0.35	0.65			27.8	1	F	Ⅶ	Aa	○	×	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好	外面底部に尖頭形の穴	E-194
195	皿	8.70	2.80	1.60	5.05		0.35	0.85			32.2	1	A	Ⅰ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	10YR7/3 にぶい黄橙色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-195
196	皿	(9.2)	2.50	1.20	4.85		0.35	0.85			27.2	1	A	Ⅰ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-196
197	皿	(8.6)	2.30	1.35	5.00		0.30	0.65			26.7	1	E	Ⅰ	Ab	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-197
198	皿	8.70	2.30	1.25	5.10		0.35	0.75	73.6		26.4	1	F	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y6/1 灰色	良好		E-198
199	皿	8.95	2.80	1.70	4.80		0.35	0.55			31.3	1	F	Ⅰ	Ab	○	×	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好		E-199
200	皿	9.50	2.95	1.80	4.65		0.40	0.90			31.1	1	F	Ⅰ	Ab	×	×	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-200
201	皿	9.00	3.10	2.00	4.70		0.45	0.75			34.4	1	F	Ⅱ	Ab	○	×	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-201
202	皿	9.65	2.85	1.95	5.55		0.55	0.60			29.5	1	F	Ⅱ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-202
203	皿	8.45	2.60	1.55	4.95		0.50	0.55			30.8	1	A	Ⅲ	Ab	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-203
204	皿	9.55	2.90	1.70	5.20		0.45	0.70			30.4	1	A	Ⅲ	Ab	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-204
205	皿	9.85	2.85	1.70	5.15		0.45	0.80			28.9	1	F	Ⅲ	Ab	○	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/2 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-205
206	皿	9.15	2.75	1.80	5.10		0.40	0.50			30.1	1	A	Ⅴ	Ab	○	×	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-206
207	皿	8.70	2.80	1.80	4.70		0.45	0.50			32.2	1	F	Ⅴ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y8/2 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-207
208	皿	9.05	2.65	1.80	5.10		0.35	0.50			29.3	1	A	Ⅵ	Ab	○	×	籾痕・砂粒	5Y7/2 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-208
209	皿	8.35	2.45	1.55	5.35		0.40	0.60			29.3	1	A	Ⅶ	Ab	○	×	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-209
210	皿	9.60	3.00	1.85	4.25		0.40	0.90			31.3	1	A	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕	2.5Y7/3 浅黄色	良好		E-210
211	皿	8.75	2.35	1.30	5.10		0.35	0.75			26.9	1	A	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	外面底部に山形の穴	E-211
212	皿	8.80	2.85	1.90	4.95		0.45	0.55			32.4	1	A	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好		E-212
213	皿	9.00	2.75	1.70	5.10		0.35	0.75	84.8		30.6	1	A	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-213
214	皿	9.15	2.70	1.45	4.70		0.40	0.95			29.5	1	A	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好		E-214
215	皿	9.95	3.10	1.90	5.25		0.35	0.90			31.2	1	A	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/3 浅黄色	良好	口縁端部に段差	E-215
216	皿	8.30	2.35	1.55	4.90		0.45	0.45			28.3	1	B	Ⅶ	Ab	○	×	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-216
217	皿	(9.8)	2.75	1.75	5.40		0.35	0.80			28.1	1	B	Ⅶ	Ab	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好	外面底部に尖頭形の穴	E-217
218	皿	8.55	2.50	1.35	4.90		0.35	0.70			29.2	1	D	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	5Y7/2 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-218
219	皿	8.45	2.30	1.40	4.45		0.45	0.60			27.2	1	E	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-219
220	皿	8.80	2.25	1.25	4.85		0.35	0.70	78.4		25.6	1	F	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好		E-220
221	皿	8.60	2.85	1.75	5.00		0.40	0.70			33.1	1	F	Ⅶ	Ab	○	×	籾痕	5Y8/1 灰白色	良好		E-221
222	皿	(8.3)	3.30	2.10	4.85		0.40	0.75			39.8	1	F	Ⅶ	Ab	○	×	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好		E-222
223	皿	8.80	3.00	1.85	5.00		0.35	0.70			34.1	1	F	Ⅶ	Ab	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/3 浅黄色	良好		E-223
224	皿	9.15	3.00	1.80	5.40		0.45	0.80			32.8	1	F	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-224
225	皿	9.30	2.65	1.25	4.15		0.35	1.00			28.5	1	A	Ⅰ	B	×	×	籾痕・砂粒	5Y7/2 灰白色	良好		E-225
226	皿	9.60	2.65	1.60	5.55		0.40	0.55			27.6	1	A	Ⅰ	B		×	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-226
227	皿	9.05	2.50	1.25	4.90		0.40	0.75	91.3		27.6	1	A	Ⅰ	B	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-227
228	皿	9.05	2.75	1.45	4.55		0.30	0.60			30.4	1	A	Ⅰ	B	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-228
229	皿	9.10	2.85	1.65	5.00		0.40	0.90			31.3	1	A	Ⅰ	B	○	×	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-229
230	皿	9.10	2.70	1.45	5.00		0.30	0.70	87.4		29.7	1	F	Ⅰ	B	×	×	籾痕	2.5Y8/3 淡黄色	良好	口縁端部に段差	E-230
231	皿	9.40	2.90	1.65	5.15		0.35	0.80			30.9	1	F	Ⅰ	B	○	×	砂粒	2.5Y8/1 灰白色	良好		E-231
232	皿	9.85	2.80	1.60	4.75		0.30	0.85			28.4	1	F	Ⅰ	B	×	×	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-232
233	皿	8.55	3.05	2.20	4.65		0.40	0.60	88.5		35.7	1	A	Ⅱ	B	○	×	砂粒	5Y8/2 灰白色	良好		E-233
234	皿	9.15	2.90	1.85	5.20		0.35	0.70			31.7	1	A	Ⅳ	B	×	×	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-234
235	皿	8.85	2.60	1.85	4.85		0.35	0.60			29.4	1	A	Ⅴ	B	○	×	籾痕・砂粒	5Y7/1 灰白色	良好		E-235
236	皿	8.80	2.75	1.80	5.05		0.40	0.65			31.3	1	F	Ⅴ	B	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-236
237	皿	8.95	2.85	1.85	4.90		0.45	0.60			31.8	1	A	Ⅵ	B	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y8/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-237
238	皿	8.95	2.60	1.85	4.80		0.45	0.55			29.1	1	B	Ⅶ	B	○	×	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-238
239	皿	9.65	2.60	1.85	4.95		0.35	0.50			26.9	1	E	Ⅶ	B	×	×	籾痕	5Y8/1 灰白色	良好		E-239
240	皿	9.40	2.70	1.50	4.95		0.35	0.65			28.7	1	F	Ⅶ	B	×	×	籾痕	2.5Y8/3 淡黄色	良好		E-240

灰原03（６）

遺物番号	器種	法量										底部形態	口縁端部	体部	胎土	成・整形			色調	焼成状況	備考	登録番号
		口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	底径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数					コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕				
241	Ⅲ	9.05	2.80	1.80	5.35		0.30	0.65	72.8		30.9	1	F	Ⅰ		×	×		刷痕・砂粒	5Y7/2 灰白色	やや不良	口縁端部に段差	E-241
242	Ⅲ	9.20	3.00	1.95	5.25		0.40	0.75			32.6	1	F	Ⅰ		×	×		刷痕・砂粒	2.5Y8/3 淡黄色	不良		E-242
243	Ⅲ	9.40	2.70	1.45	5.05		0.45	0.95			28.7	1	A	Ⅱ		×	○不鮮明		刷痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	やや不良		E-243
244	Ⅲ	8.80	3.00	1.70	4.75		0.45	1.00			34.1	1	F	Ⅱ		×	○不鮮明		刷痕	2.5Y7/3 浅黄色	やや不良	口縁端部に段差	E-244
245	Ⅲ	9.35	3.05	2.10	6.00		0.50	0.60			32.6	1	F	Ⅱ		×	○不鮮明、板目		刷痕	2.5Y7/3 浅黄色	やや不良		E-245
246	Ⅲ	9.75	3.30	2.05	5.25		0.50	0.85			33.8	1	F	Ⅱ		○	×		刷痕	2.5Y7/2 灰黄色	やや不良		E-246
247	Ⅲ	9.30	3.05	1.80	5.30		0.65	0.75			32.8	1	A	Ⅲ		×	×		刷痕	5Y7/2 灰白色	やや不良	体部に粘土紐の継ぎ目	E-247
248	Ⅲ	9.65	3.10	1.65	5.45		0.55	0.95			32.1	1	F	Ⅲ		×	×		刷痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	やや不良	体部に粘土紐の継ぎ目	E-248
249	Ⅲ	(9.3)	3.15	1.90	5.35		0.50	0.75			33.9	1	A	Ⅶ		×	×		刷痕	2.5Y8/3 浅黄色	やや不良	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-249
250	Ⅲ	9.20	2.95	1.75	5.30		0.35	0.65			32.1	1	D	Ⅶ		○	×		刷痕・砂粒	2.5Y7/4 浅黄色	やや不良		E-250
251	Ⅲ	8.70	3.05	1.85	5.40		0.45	0.90			35.1	1	F	Ⅶ		○	×		刷痕	10YR7/3 にぶい黄橙色	やや不良	口縁端部に段差	E-251
252	Ⅲ	9.00	2.50	1.65		4.95	0.35	0.75			27.8	2	A	Ⅴ	Aa	×	○鮮明			2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-252
253	Ⅲ	8.90	2.50	1.95		4.90	0.50	0.50			28.1	2	A	Ⅰ	Ab	×	○鮮明			5Y7/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-253
254	Ⅲ	9.25	2.60	1.60		4.70	0.35	0.90			28.1	2	A	Ⅰ	Ab	×	○鮮明			5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-254
255	Ⅲ	8.75	2.85	1.75		4.80	0.35	0.90			32.6	2	F	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明			5Y7/1 灰白色	良好		E-255
256	Ⅲ	9.10	2.50	1.80		4.65	0.40	0.60			27.5	2	A	Ⅲ	Ab	×	○不鮮明			2.5Y7/1 灰白色	良好		E-256
257	Ⅲ	8.75	2.50	1.85		4.90	0.45	0.50			28.6	2	A	Ⅶ	Ab	×	○鮮明			5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-257
258	Ⅲ	8.60	2.25	1.30		4.20	0.45	0.70			26.2	2	E	Ⅶ	Ab	×	○鮮明			5Y7/2 灰白色	良好		E-258
259	Ⅲ	8.40	2.55	1.60		4.05	0.50	0.85			30.4	2	F	Ⅶ	Ab	×	○不鮮明			2.5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-259
260	Ⅲ	9.00	2.40	1.50		4.40	0.40	0.85			26.7	2	A	Ⅴ	B	×	○不鮮明、板目			5Y7/1 灰白色	良好		E-260
261	Ⅲ	7.25	2.05	1.35		3.90	0.40	0.55			28.3	2	F	Ⅴ	B		×			2.5Y7/3 浅黄色	良好		E-261
262	Ⅲ	8.20	1.60	0.80		4.10	0.30	0.70	54.2		19.5	3	A	Ⅰ	Aa	○	○不鮮明			2.5Y5/2 暗灰黄色	良好		E-262
263	Ⅲ	8.20	1.85	1.10		4.20	0.25	0.55	55.3		22.6	3	A	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明			2.5Y5/2 暗灰黄色	良好		E-263
264	Ⅲ	8.15	1.90	1.10		3.60	0.25	0.65	53.5		23.3	3	A	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明			2.5Y5/2 暗灰黄色	良好		E-264
265	Ⅲ	8.35	2.10	1.20		3.90	0.35	0.75	54.4		25.1	3	A	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明			7.5Y7/1 灰白色	良好		E-265
266	Ⅲ	8.35	1.95	1.20		4.10	0.25	0.65	52.4		23.4	3	F	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明			5Y7/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-266
267	Ⅲ	8.30	1.90	1.10		4.00	0.30	0.65	55.4		22.9	3	F	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明			2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-267
268	Ⅲ	8.50	2.00	1.30		4.20	0.35	0.60	56.8		23.5	3	F	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明			7.5Y7/1 灰白色	良好		E-268
269	Ⅲ	8.15	1.75	1.10		4.25	0.30	0.45			21.5	3	A	Ⅶ	Aa	×	○不鮮明			5Y7/1 灰白色	良好		E-269
270	Ⅲ	8.35	2.15	1.30		3.95	0.30	0.75	58.8		25.7	3	F	Ⅶ	Aa	×	○不鮮明			5Y7/1 灰白色	良好		E-270
271	Ⅲ	8.85	2.15	1.20		4.95	0.40	0.55			24.3	3	A	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明			5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-271
272	Ⅲ	9.40	2.45	1.70		4.80	0.35	0.60			26.1	3	A	Ⅰ	Ab	×	○鮮明			5Y7/2 灰白色	良好	外面底部に尖頭形の穴、体部に粘土紐の継ぎ目	E-272
273	Ⅲ	9.20	2.30	1.75		5.25	0.45	0.45			25.0	3	A	Ⅰ	Ab	×	○鮮明			2.5Y8/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-273
274	Ⅲ	8.95	2.25	1.80		5.10	0.45	0.35			25.1	3	B	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明			2.5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-274
275	Ⅲ	8.45	2.35	1.55		4.50	0.50	0.65			27.8	3	E	Ⅰ	Ab	×	○鮮明			5Y7/1 灰白色	良好		E-275
276	Ⅲ	9.15	2.30	1.50		4.75	0.35	0.70			25.1	3	F	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明			2.5Y7/1 灰白色	良好		E-276
277	Ⅲ	9.30	2.25	1.55		4.90	0.50	0.55			24.2	3	A	Ⅱ		×	○不鮮明			2.5Y7/2 灰黄色	やや不良	底部に楕円形の孔	E-277
278	Ⅲ	(8.6)	2.30	1.75		4.80	0.50	0.45			26.7	3	A	Ⅴ	Ab	○	○不鮮明			2.5Y7/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-278
279	Ⅲ	(9.4)	2.55	1.90		5.15	0.35	0.65			27.1	3	A	Ⅴ	Ab	○	○鮮明			5Y7/1 灰白色	良好		E-279
280	Ⅲ	8.15	2.15	1.60		4.30	0.40	0.45			26.4	3	A	Ⅶ	Ab	○	○不鮮明、板目			2.5Y7/3 浅黄色	良好	底部に不整形の孔、口縁端部に段差	E-280
281	Ⅲ	8.85	2.20	1.30		4.45	0.40	0.80			24.9	3	F	Ⅶ	Ab	×	○鮮明			5Y7/1 灰白色	良好		E-281
282	Ⅲ	8.95	2.55	1.70		4.55	0.45	0.75			28.5	3	A	Ⅶ	Ab	○	○不鮮明			2.5Y7/1 灰白色	良好		E-282
283	Ⅲ	8.95	2.40	1.95		4.50	0.35	0.40			26.8	3	A	Ⅰ	B	×	○不鮮明			5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-283
284	Ⅲ	9.20	2.50	1.60		4.25	0.35	0.85			27.2	3	A	Ⅰ	B	×	○不鮮明			2.5Y7/3 浅黄色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-284
285	Ⅲ	9.10	2.45	1.50		4.55	0.35	0.75	79.2		26.9	3	F	Ⅰ	B	×	○不鮮明			2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-285
286	Ⅲ	9.30	2.55	1.60		4.40	0.35	0.85	89.9		27.4	3	F	Ⅰ	B	×	○不鮮明			2.5Y7/3 浅黄色	良好	口縁端部に段差	E-286
287	Ⅲ	9.10	2.30	1.50		4.75	0.45	0.70			25.3	3	F	Ⅱ		×	○不鮮明			2.5Y7/2 灰黄色	やや不良	口縁端部に段差	E-287
288	Ⅲ	8.85	2.65	1.80		4.80	0.40	0.80			29.9	3	F	Ⅶ		×	○不鮮明			10YR7/3 にぶい黄橙色	やや不良		E-288
289	Ⅲ											1			Aa	×				2.5Y7/2 灰黄色	良好	8重-1、内面に重ね焼痕	E-289
	Ⅲ											1			Aa					2.5Y7/2 灰黄色	良好	8重-2	
	Ⅲ											3			Aa					2.5Y7/2 灰黄色	良好	8重-3	
	Ⅲ											1			Aa					2.5Y7/2 灰黄色	良好	8重-4	
	Ⅲ											1			Aa					2.5Y7/2 灰黄色	良好	8重-5	
	Ⅲ											1	F		Aa					2.5Y7/2 灰黄色	良好	8重-6	
	Ⅲ											1	F	Ⅶ	Aa					2.5Y7/2 灰黄色	良好	8重-7	
	Ⅲ					4.20						3	F	Ⅶ	Aa		○不鮮明			2.5Y7/2 灰黄色	良好	8重-8	

灰原03（7）

遺物番号	器種	法量 口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数	体部	胎土	成・整形 コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕	色調	焼成状況	備考	登録番号
290	鉢	(17.0)				0.50					Ⅰ	Ab					良好	片口、口縁端部に段差	E-290
291	鉢	(22.2)	8.70		10.70	0.70				39.19	Ⅰ	Ab	○	×	×	5Y7/1　灰白色	良好		E-291
292	鉢	(25.5)		7.10		1.00	0.90				Ⅰ	Ab	×	×		5Y7/1　灰白色	良好	体部下方に縄痕	E-292
293	鉢	(26.4)				0.95					Ⅱ	Ab				5Y7/2　灰白色	良好	体部下方に縄痕	E-293
294	鉢	(27.6)	12.80	10.40	14.45	1.20	1.50			46.38	Ⅰ	Aa	×	×	×	5Y6/2　灰オリーブ色	良好	片口	E-294
295	鉢				9.85	0.45	1.30				Ⅱ	Ab	×	×	砂粒	5Y7/1　灰白色	良好		E-295
296	鉢				11.00	0.70	1.00				Ⅰ	B	×		籾殻	5Y7/1　灰白色	良好		E-296
297	鉢	32.50				1.40					Ⅰ	Ab		×		5Y6/2　灰オリーブ色	良好	内面底部に刻紋、体部下方に縄痕	E-297
298	鉢	(27.2)	8.50		19.60	1.00				31.25	Ⅱ	Aa			×	5Y7/2　灰白色	良好	体部に複線の沈線三段･下方に縄痕？、口縁部に縦位の沈線	E-298

遺物番号	器種	法量 口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	重量(g)	容量(cc)	胎土	色調	焼成状況	備考	登録番号
299	壺	11.60	22.20	19.80	10.80			Aa	5Y6/1　灰色	良好	複線の沈線が三段	E-299
300	壺	15.40		23.60				Aa	5Y5/1　灰色	良好	肩に刻紋あり	E-300

遺物番号	器種	法量 長さ(cm)	幅(cm)	製品掘付部径(cm)	正面高(cm)	背面高(cm)	傾斜角(度)	重量(g)	胎土	色調	焼成状況	備考	登録番号
301	焼台	16.20	15.80	7.20	10.65	6.90	23.00	1741.9	粗砂多、礫0.2～0.3cm多し	2.5Y6/1　黄灰色	良好	上面に籾殻痕、裏面に藁痕	E-301
302	焼台	14.40	15.65	7.90	5.30	2.75	15.00	895.5	粗砂多、礫0.2～0.5cm若干	5Y7/2　灰白色	良好	上面に籾殻痕、裏面に藁痕	E-302
303	焼台	17.50	15.70	9.00	7.35	2.20	13.00	1334.3	粗砂多、礫0.2～0.3cm	5Y7/2　灰白色	良好	上面に籾殻痕、裏面にワラ痕、前面に指圧痕	E-303
304	焼台	16.40	16.70	9.20	3.80	4.95	4.00	1199.9	粗砂多、礫0.2～0.3cm多し	2.5Y6/1　黄灰色	良好	上面に籾殻痕、指圧痕多し	E-304
305	焼台	19.90	19.10	12.00	8.20	8.60	0.00	2953.7	粗砂多、礫0.2～0.5cm多し	5Y7/2　灰白色	良好	上面に籾殻痕、裏面に藁痕	E-305

遺物番号	器種	口径(cm)	焼成状況	色調	備考	登録番号
306	土師質鍋	(28.5)	土師質	7.5YR8/4　浅黄橙色		E-306

SY01 築窯時排出土（第3層）

遺物番号	器種	法量 口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数	口縁端部	口縁部	体部	胎土	成・整形 コロシ	糸切り痕	高台底面　付着痕	色調	焼成状況	備考	登録番号
307	碗	(16.3)	5.30	4.40	9.00	0.60	0.60			32.52	A	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒・陶片	5Y8/1　灰白色	良好		E-307
308	碗	(15.9)	5.50	4.20	8.50	0.60	0.70			34.59	B	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/1　灰白色	良好		E-308
309	碗	16.40	5.10	3.90	8.40	0.40	0.70			31.10	A	g	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明、板目	籾痕	10Y7/1　灰白色	良好		E-309
310	碗	(16.9)	5.50	4.10	8.20	0.50	0.90			32.54	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	10Y8/1　灰白色	良好		E-310

遺物番号	器種	法量 口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	底径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数	底部形態	口縁端部	体部	胎土	成・整形 コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕	色調	焼成状況	備考	登録番号
311	Ⅲ	8.60	2.90	1.90	5.20		0.45	0.65			33.72	1	D	Ⅰ	Ab	○	×	籾痕	5Y8/2　灰白色	良好		E-311
312	Ⅲ	9.30	2.90	1.90	5.40		0.50	0.80			31.18	1	A	Ⅶ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/2　灰白色	良好		E-312
313	Ⅲ	8.60	2.90	1.70	5.50		0.50	1.10			33.72	1	B	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕	5Y8/2　灰白色	良好		E-313
314	Ⅲ	8.90	3.10	1.90	4.70		0.50	0.85			34.83	1	B	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕	5Y8/1　灰白色	良好		E-314
315	Ⅲ	9.00	2.35	1.40		4.50	0.40	0.85			26.11	3	A	Ⅰ	Ab	×	○鮮明		5Y8/2　灰白色	良好		E-315

灰原02（1）

遺物番号	器種	法量										口縁端部	口縁部	体部	胎土	成・整形			色調	焼成状況	備考	登録番号
		口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	底径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数					コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕				
316	碗	(16.6)	4.85	3.65	8.10		0.45	1.05			29.2	F	b	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/1　灰白色	良好	口縁端部に段差	E-316
317	碗	16.80	4.45	2.95	8.60		0.45	1.15			26.5	A	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/2　灰白色	良好		E-317
318	碗	15.35	5.10	3.95	7.70		0.45	1.00			33.2	D	c	Ⅰ	Aa	×	○鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2　灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-318
319	碗	(16.1)	5.00	4.20	8.40		0.30	0.55			31.1	F	c	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-319
320	碗	16.00	5.30	4.30	8.55		0.40	0.80			33.1	B	b	Ⅱ	Aa	×	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	5Y7/1　灰白色	良好		E-320
321	碗	16.40	4.85	3.55	8.80		0.45	0.95			29.6	A	c	Ⅱ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1　灰白色	良好		E-321
322	碗	16.40	5.35	4.35	8.60		0.50	0.80			32.6	B	c	Ⅱ	Aa		○鮮明・板目	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好	底部補修痕	E-322
323	碗	15.60	5.00	3.85	7.55		0.40	0.95			32.1	F	c	Ⅱ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-323
324	碗	(17.2)	5.20	3.90	8.50		0.50	1.05			30.2	E	c	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-324
325	碗	(16.1)	4.70	3.00	7.60		0.40	1.45			29.3	E	a	Ⅱ	Ab	○	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/1　灰白色	良好		E-325
326	碗	(16.6)	4.50	3.10	8.60		0.50	1.10			27.2	E	a	Ⅱ	Aa		○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y7/1　灰白色	良好		E-326
327	碗	15.95	5.00	3.58	7.85		0.35	1.17			31.3	E	c	Ⅱ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/1　灰白色	良好		E-327
328	碗	16.65	4.65	3.45	8.80		0.45	1.00			27.9	E	c	Ⅱ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	7.5Y8/1　灰白色	良好		E-328
329	碗	(16.5)	4.90	3.45	8.10		0.55	1.10			29.8	E	c	Ⅱ	Aa	○	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/1　灰白色	良好		E-329
330	碗	(16.9)	4.20	3.15	8.70		0.45	0.85			24.9	E	c	Ⅱ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/1　灰白色	良好		E-330
331	碗	(16.4)	4.60	3.40	8.70		0.50	0.85			28.1	E	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	5Y7/1　灰白色	良好		E-331
332	碗	(16.4)	4.40	3.40	8.40		0.50	0.40			26.8	E	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/1　灰白色	良好		E-332
333	碗	(16.0)	5.35	3.80	7.95		0.45	1.35			33.4	A	g	Ⅰ	Ab	○	○鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1　灰白色	良好		E-333
334	碗	(16.0)	4.90	3.50	7.80		0.50	1.15			30.6	F	g	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕	5Y8/2　灰白色	良好		E-334
335	碗	16.05	4.85	4.05	8.45		0.50	0.75			30.2	B	a	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/3　浅黄色	良好		E-335
336	碗	16.10	5.05	3.75	8.20		0.55	0.90			31.4	B	a	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/1　灰白色	良好		E-336
337	碗	17.15	5.40	4.35	9.15		0.50	0.70			31.5	B	a	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2　灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-337
338	碗	(16.1)	5.05	4.10	8.30		0.45	0.85			31.5	F	a	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	5Y7/1　灰白色	良好		E-338
339	碗	16.35	5.00	3.90	8.95		0.45	1.00			30.6	A	b	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-339
340	碗	16.85	5.40	4.40	9.15		0.50	0.95			32.0	A	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2　灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-340
341	碗	16.80	5.50	4.30	8.65		0.45	0.95			32.7	B	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕・砂粒	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-341
342	碗	(16.4)	5.50	4.50	8.80		0.50	0.60			33.5	D	b	Ⅰ	Ab	×	×板目	籾痕	2.5Y8/2　灰白色	良好		E-342
343	碗	16.65	5.30	3.85	7.90		0.60	1.15			31.8	D	b	Ⅰ	Ab	×		籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-343
344	碗	16.55	5.25	4.05	8.70		0.45	1.05			31.7	B	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/3　淡黄色	良好		E-344
345	碗	16.65	5.35	4.45	9.50		0.45	0.70			32.1	F	b	Ⅰ	Ab	×		籾痕・砂粒	2.5Y7/2　灰黄色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-345
346	碗	(16.2)	5.05	4.10	7.00		0.50	0.85			31.2	F	b	Ⅰ	Ab	×		籾痕	5Y7/1　灰白色	良好		E-346
347	碗	16.35	5.20	3.90	8.40		0.50	0.95			31.8	F	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/3　浅黄色	良好	口縁端部に段差	E-347
348	碗	(16.0)	4.75	3.70	9.00		0.50	0.80			29.8	A	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y7/1　灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-348
349	碗	15.75	5.00	4.10	8.85		0.65	0.55			31.7	A	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-349
350	碗	16.50	4.95	3.90	8.00		0.65	0.80			30.0	A	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-350
351	碗	(15.7)	5.40	3.80	8.95		0.50	1.20			34.4	A	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5YR8/2　灰白色	良好		E-351
352	碗	16.20	5.30	4.10	8.90		0.50	1.15			32.7	A	c	Ⅰ	Ab	×	○鮮明・板目	籾痕・砂粒	5Y8/1　灰白色	良好		E-352
353	碗	15.40	5.15	4.05	8.30		0.60	0.90			33.4	B	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y8/3　淡黄色	良好		E-353
354	碗	17.00	5.10	4.05	9.60		0.50	0.95			30.0	B	c	Ⅰ	Ab	×	○鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/1　灰白色	良好		E-354
355	碗	16.45	5.30	4.35	9.00		0.50	0.95			32.2	B	c	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-355
356	碗	16.00	5.25	3.80	7.65		0.40	1.30			32.8	F	c	Ⅰ	Ab	×	○鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y6/1　黄灰色	良好		E-356
357	碗	17.90	5.65	4.50	9.00		0.55	0.95			31.6	F	c	Ⅰ	Ab	×	○鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/1　灰白色	良好		E-357
358	碗	(15.7)	5.20	4.10	8.30		0.40	0.95			33.1	G	b	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/1　灰白色	良好		E-358
359	碗	(16.8)	5.35	3.90	9.40		0.45	1.05			31.8	A	a	Ⅱ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	10YR7/2　にぶい黄橙色	良好		E-359
360	碗	16.45	5.20	3.95	8.15		0.35	0.90			31.6	F	a	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-360
361	碗	16.40	5.25	3.95	8.20		0.50	1.15			32.0	A	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/2　灰白色	良好		E-361
362	碗	16.05	5.55	4.40	8.30		0.45	1.05			34.6	B	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-362
363	碗	16.75	5.25	4.00	8.95		0.45	1.00			31.3	B	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-363
364	碗	16.25	5.45	4.40	9.00		0.40	0.90			33.5	F	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/3　浅黄色	良好		E-364
365	碗	16.90	5.05	4.10	8.00		0.45	0.80			29.9	F	b	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y6/2　灰黄色	良好		E-365
366	碗	(15.7)	4.80	3.80	7.20		0.50	0.85			30.6	A	c	Ⅱ	Ab	×		籾痕	5Y7/1　灰白色	良好		E-366
367	碗	15.70	4.70	3.20	8.20		0.55	0.90			29.9	A	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2　灰黄色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-367
368	碗	15.90	5.30	4.10	8.45		0.50	0.85			33.3	A	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-368
369	碗	16.15	4.80	3.50	8.35		0.45	0.90	290.6	432	29.7	A	c	Ⅱ	Ab	○	○不鮮明	籾痕・砂粒	5Y8/1　灰白色	良好		E-369
370	碗	(16.9)	4.90	3.60	8.75		0.50	1.00			29.1	A	c	Ⅱ	Ab	○	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y7/1　灰白色	良好		E-370
371	碗	16.60	5.05	4.05	8.50		0.45	0.95			30.4	A	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-371
372	碗	16.65	5.35	4.55	9.15		0.30	0.70		522	32.1	A	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕	2.5Y7/2　灰黄色	良好		E-372
373	碗	16.80	4.80	3.20	8.40		0.55	1.30			28.6	A	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/1　灰白色	良好		E-373

灰原 02（2）

遺物番号	器種	法量 口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	底径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数	口縁端部	口縁部	体部	胎土	成・整形 コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕	色調	焼成状況	備考	登録番号
374	碗	15.90	4.75	3.95	8.30		0.40	0.60			29.9	B	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-374
375	碗	16.60	5.20	4.25	9.20		0.40	0.70			31.3	B	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-375
376	碗	17.00	5.35	4.55	9.15		0.50	0.60			31.5	B	c	Ⅱ	Ab	×	○鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/1 灰白色	良好		E-376
377	碗	17.15	4.85	3.75	9.65		0.50	0.85			28.3	B	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-377
378	碗	16.25	4.50	3.25	9.10		0.45	1.10	328.0	423	27.7	D	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	10Y8/1 灰白色	良好		E-378
379	碗	15.95	5.05	3.75	8.00		0.50	1.10	313.4	444	31.7	F	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y5/2 暗灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-379
380	碗	16.30	5.60	4.35	8.60		0.50	1.05			34.4	F	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-380
381	碗	16.60	4.65	3.55	9.35		0.45	0.85			28.0	F	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明・板目	籾痕	7.5Y8/1 灰白色	良好		E-381
382	碗	(16.8)	5.40	4.20	9.20		0.55	0.90			32.2	F	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-382
383	碗	16.20	5.00	4.10	9.05		0.40	0.80			30.9	A	e	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/3 浅黄色	良好		E-383
384	碗	(17.5)	5.30	3.80	8.55		0.50	1.25			30.3	H	a	Ⅰ	Ab	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-384
385	碗	(16.1)	4.95	3.95	8.35		0.40	0.85			30.7	H	c	Ⅱ	Ab	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-385
386	碗	(17.1)	4.90	3.10	8.55		0.70	1.40			28.7	A	f	Ⅱ	Ab	×	○鮮明	籾痕	2.5YR7/1 灰白色	良好		E-386
387	碗	16.30	5.25	4.05	9.05		0.50	1.00			32.2	B	f	Ⅱ	Ab	○	○鮮明・板目	籾痕	2.5YR8/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-387
388	碗	(15.9)	5.30	4.00	9.10		0.70	1.00			33.3	F	f	Ⅱ	Ab	○	○鮮明	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-388
389	碗	16.60	5.45	4.15	8.50		0.55	1.05			32.8	F	f	Ⅱ	Ab	×	○鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-389
390	碗														Ab	×			5Y8/1 灰白色	良好	2重-1、高台なし	E-390
	碗	(16.1)	4.60			7.30					28.7				Ab		○鮮明・板目		5Y8/1 灰白色	良好	2重-2、高台なし	
391	碗	(17.0)	5.35	4.20	8.75		0.60	0.90			31.5	F	c	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-391
392	碗	(16.7)	5.30	3.85	8.45		0.55	1.05			31.8	F	a	Ⅰ		×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y8/3 淡黄色	やや不良		E-392
393	碗	16.90	5.40	4.20	8.75		0.55	0.70			32.0	A	c	Ⅰ		○	○不鮮明	籾痕	5Y8/2 灰白色	やや不良		E-393
394	碗	16.45	5.40	4.30	9.30		0.45	0.90			32.8	A	c	Ⅱ		×	○不鮮明	籾痕	5Y8/2 灰白色	やや不良		E-394
395	碗				8.20			0.70							Ab	×	○不鮮明	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好	破面の一部摩耗、転用品	E-395

遺物番号	器種	法量 口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	底径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数	底部形態	口縁端部	体部	胎土	成・整形 コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕	色調	焼成状況	備考	登録番号
396	Ⅲ	8.15	2.00	1.05	4.00		0.30	0.60	62.0		24.54	1	A	Ⅶ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y6/2 灰黄色	良好		E-396
397	Ⅲ	8.80	2.60	1.45	4.50		0.45	0.85			29.55	1	B	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/3 浅黄色	良好		E-397
398	Ⅲ	8.40	2.40	1.45	4.90		0.25	0.95			28.57	1	C	Ⅰ	Aa	○	×	籾痕・砂粒	5Y7/2 灰白色	良好		E-398
399	Ⅲ	(8.8)	2.70	1.70	5.05		0.40	0.65			30.68	1	F	Ⅰ	Aa	×	×	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好		E-399
400	Ⅲ	8.60	2.35	1.45	4.80		0.35	0.50			27.33	1	G	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好		E-400
401	Ⅲ	9.10	2.80	1.90	5.50		0.40	0.70			30.77	1	D	Ⅳ	Aa	×	×	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-401
402	Ⅲ	8.90	2.65	1.70	5.15		0.40	0.50			29.78	1	A	Ⅶ	Aa	×	×	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-402
403	Ⅲ	8.90	2.60	1.60	5.70		0.40	0.75			29.21	1	A	Ⅶ	Aa	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-403
404	Ⅲ	(8.8)	2.40	1.30	5.00		0.35	0.75			27.27	1	B	Ⅶ	Aa	×	×	籾痕・砂粒	7.5Y7/1 灰白色	良好		E-404
405	Ⅲ	8.55	2.50	1.40	4.60		0.35	0.85			29.24	1	F	Ⅶ	Aa	○	○不鮮明	籾痕	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-405
406	Ⅲ	9.15	2.70	1.70	4.25		0.45	0.75	76.8	55	29.51	1	A	Ⅰ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	10Y7/3 にぶい黄橙色	良好		E-406
407	Ⅲ	9.40	2.60	1.65	5.40		0.40	0.50			27.66	1	A	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明	籾痕	7.5Y7/1 灰白色	良好		E-407
408	Ⅲ	9.80	2.50	1.60	5.20		0.40	0.85			25.51	1	A	Ⅰ	Ab	×	×	籾痕	7.5Y7/1 灰白色	良好		E-408
409	Ⅲ	8.90	2.60	1.50	4.70		0.60	0.75			29.21	1	B	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明	籾痕	5Y8/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-409
410	Ⅲ	9.10	2.60	1.80	5.05		0.65	0.50			28.57	1	B	Ⅰ	Ab		○不鮮明	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好		E-410
411	Ⅲ	8.95	2.65	1.60	5.00		0.35	0.75			29.61	1	F	Ⅰ	Ab	○	×	籾痕	2.5Y7/3 浅黄色	良好	口縁端部に段差	E-411
412	Ⅲ	8.90	2.75	1.60	4.40		0.45	0.65			30.90	1	F	Ⅰ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-412
413	Ⅲ	8.95	2.80	1.70	4.95		0.50	0.70			31.28	1	F	Ⅰ	Ab	×	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/3 浅黄色	良好	口縁端部に段差	E-413
414	Ⅲ	8.85	2.70	1.80	4.80		0.65	0.70			30.51	1	B	Ⅲ	Ab			籾痕	7.5Y8/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-414
415	Ⅲ	9.15	2.90	1.65	4.95		0.40	0.85			31.69	1	F	Ⅲ	Ab	○	×	籾痕	5Y8/1 灰白色	良好		E-415
416	Ⅲ	(8.7)	2.90	1.80	4.80		0.30	0.55			33.33	1	A	Ⅴ	Ab	○	×	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-416
417	Ⅲ	8.90	2.65	1.75	4.60		0.50	0.60			29.78	1	F	Ⅴ	Ab	○	×	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好		E-417
418	Ⅲ	(9.0)	2.35	1.50	5.20		0.35	0.80			26.11	1	B	Ⅶ	Ab		○不鮮明	籾痕	5Y7/2 灰白色	良好		E-418
419	Ⅲ	9.30	3.10	1.75	5.55		0.50	1.00			33.33	1	C	Ⅶ	Ab	×	×	籾痕	5Y7/2 灰白色	良好	外面底部に台形の穴、体部に粘土紐の継ぎ目	E-419
420	Ⅲ	8.85	3.15	2.00	5.30		0.50	0.85			35.59	1	D	Ⅶ	Ab	○	×	籾痕	5Y8/2 灰白色	良好		E-420
421	Ⅲ	8.30	2.60	1.55	4.70		0.40	0.70			31.33	1	E	Ⅶ	Ab	○	×	籾痕・砂粒	2.5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-421
422	Ⅲ	9.00	3.00	1.85	5.65		0.50	0.65			33.33	1	A	Ⅰ	B	×	○不鮮明	籾痕	2.5Y8/2 灰白色	良好		E-422
423	Ⅲ	8.40	2.90	1.85	5.05		0.75	0.95			34.52	1	A	Ⅱ	B	×	×	籾痕	2.5Y8/3 淡黄色	良好		E-423
424	Ⅲ	9.20	2.95	1.80	5.35		0.50	0.75			32.07	1	A	Ⅶ	B	×	×	籾痕	2.5Y7/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-424
425	Ⅲ	8.35	2.30	1.50	4.60		0.40	0.40			27.54	1	B	Ⅶ	B	○	×	籾痕	5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-425
426	Ⅲ	9.00	2.60	1.90	5.40		0.45	0.80			28.89	1	B	Ⅰ		○	×	籾痕・砂粒	10Y7/4 にぶい黄橙色	やや不良	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-426

灰原 02（3）

遺物番号	器種	法量 口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	底径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数	底部形態	口縁端部	体部	胎土	成・整形 コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕	色調	焼成状況	備考	登録番号
427	皿	9.05	2.85	1.80	5.15		0.45	0.80			31.49	1	F	Ⅰ		○	×	籾痕・砂粒	2.5Y8/4 淡黄色	やや不良		E-427
428	皿	8.80	2.80	1.80	5.25		0.50	0.70	82.4		31.82	1	B	Ⅶ		×	×	籾痕・砂粒	10Y7/4 にぶい黄橙色	やや不良	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-428
429	皿	(8.8)	2.60	1.95		4.60	0.45	0.75			29.55	2	A	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明		10Y8/1 灰白色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-429
430	皿	8.55	2.30	1.45		4.15	0.45	0.90			26.90	3	C	Ⅰ	Aa	○	○不鮮明		2.5Y7/2 灰黄色	良好		E-430
431	皿	8.80	2.45	1.40		3.90	0.45	1.05			27.84	2	B	Ⅶ	Ab	×	○不鮮明、板目		2.5Y7/2 灰黄色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-431
432	皿	8.85	2.40	1.50		4.00	0.40	0.95			27.12	3	B	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明		2.5Y8/3 淡黄色	良好		E-432
433	皿	8.45	2.30	1.50		4.50	0.55	0.70			27.22	3	G	Ⅰ	Aa	×	○不鮮明、板目		5Y8/2 灰白色	良好		E-433
434	皿	9.20	2.40	1.60		4.25	0.45	0.75	75.5		26.09	3	A	Ⅰ	Ab	×	○不鮮明		2.5Y7/3 浅黄色	良好	体部に粘土紐の継ぎ目	E-434
435	皿	8.80	2.40	1.75		5.10	0.35	0.50			27.27	3	B	Ⅰ	Ab	○	○不鮮明、板目		5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差	E-435
436	皿	(8.6)	2.00	1.25		4.40	0.35	0.70			23.26	3	F	Ⅰ	Ab		○不鮮明		2.5Y7/3 浅黄色	良好		E-436
437	皿	9.00	2.50	1.70		4.65	0.60	0.80			27.78	3	A	Ⅲ	Ab	×	○不鮮明		2.5Y7/2 灰黄色	良好	口縁端部に段差	E-437
438	皿	9.20	2.35	1.60		5.50	0.55	0.65			25.54	3	A	Ⅴ	Ab	○	○不鮮明		5Y7/1 灰白色	良好	口縁端部に段差、体部に粘土紐の継ぎ目	E-438
439	皿	8.55	2.20	1.50		5.65	0.60	0.70			25.73	3	E	Ⅴ	Ab	○	○不鮮明		5Y7/1 灰白色	良好		E-439
440	皿	8.85	2.40	1.70		5.30	0.60	0.55			27.12	3	A	Ⅶ	Ab	○	○不鮮明		5Y7/1 灰白色	良好		E-440
441	皿	9.30	2.30	1.50		4.15	0.35	0.75			24.73	3	B	Ⅶ	Ab	×	○不鮮明		5Y7/2 灰白色	良好		E-441
442	皿	9.10	2.60	1.50		4.60	0.45	0.80			28.57	3	F	Ⅰ	B	×	○不鮮明		2.5Y7/3 浅黄色	良好		E-442
443	皿	9.45	2.70	1.65		4.10	0.35	1.05	79.2		28.57	3	F	Ⅰ		×	○不鮮明		2.5Y8/3 淡黄色	やや不良		E-443

遺物番号	器種	法量 口径(cm)	器高(cm)	深さ(cm)	高台径(cm)	体厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	容量(cc)	径高指数	体部	胎土	成・整形 コロシ	糸切り痕	高台底面付着痕	色調	焼成状況	備考	登録番号
444	鉢	(26.3)	9.80		13.30	0.90				37.26	Ⅰ	Ab		×	×	2.5Y7/2 灰黄色	良好	片口	E-444

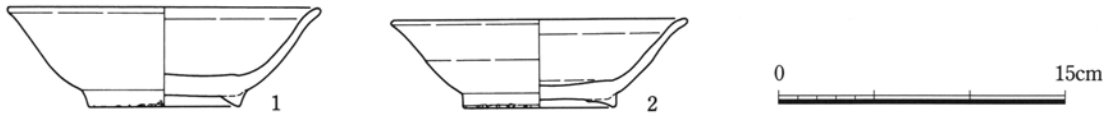
遺物番号	器種	法量 口径(cm)	器高(cm)	胴径(cm)	底径(cm)	重量(g)	容量(cc)	胎土	色調	焼成状況	備考	登録番号
445	壺				(11.0)			Aa	5Y7/2 灰白色	良好	複線の沈線が残存部分で二段	E-445

遺物番号	器種	法量 長さ(cm)	幅(cm)	製品据付部径(cm)	正面高(cm)	背面高(cm)	傾斜角(度)	重量(g)	胎土	色調	焼成状況	備考	登録番号
446	焼台	15.85	14.25	8.10	6.45	3.80	7.30	1152.2	粗砂多、礫0.2～0.3cm、裏面に碗片	5Y7/2 灰白色	良好	上面に籾殻痕	E-446

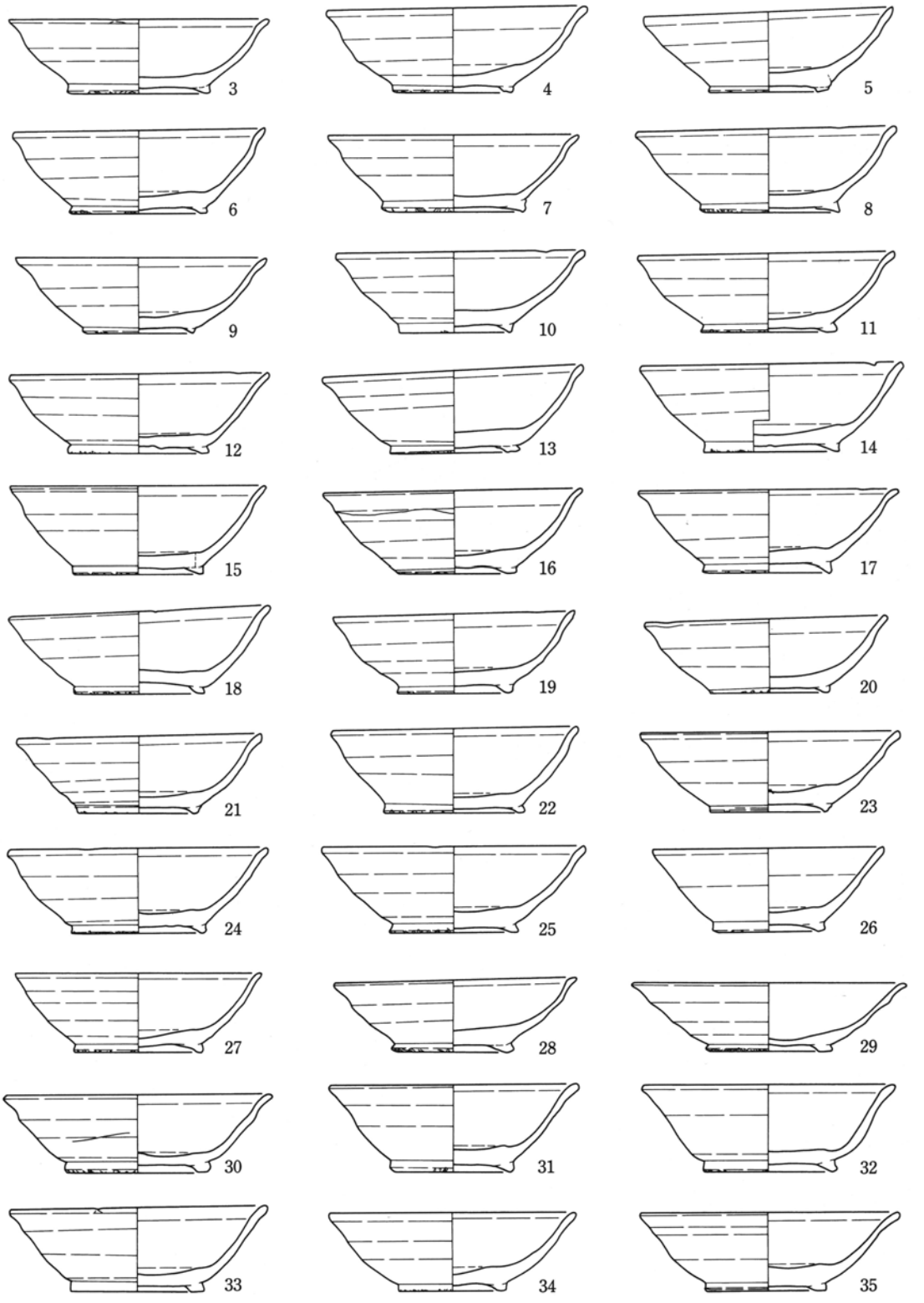
SK01

遺物番号	器種	法量 端部幅(cm)	長さ(cm)	中央幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)	胎土	色調	焼成状況	備考	登録番号
447	陶錘	0.70	4.40	1.25	0.50		Aa	5Y7/1 灰白色	良好		E-447

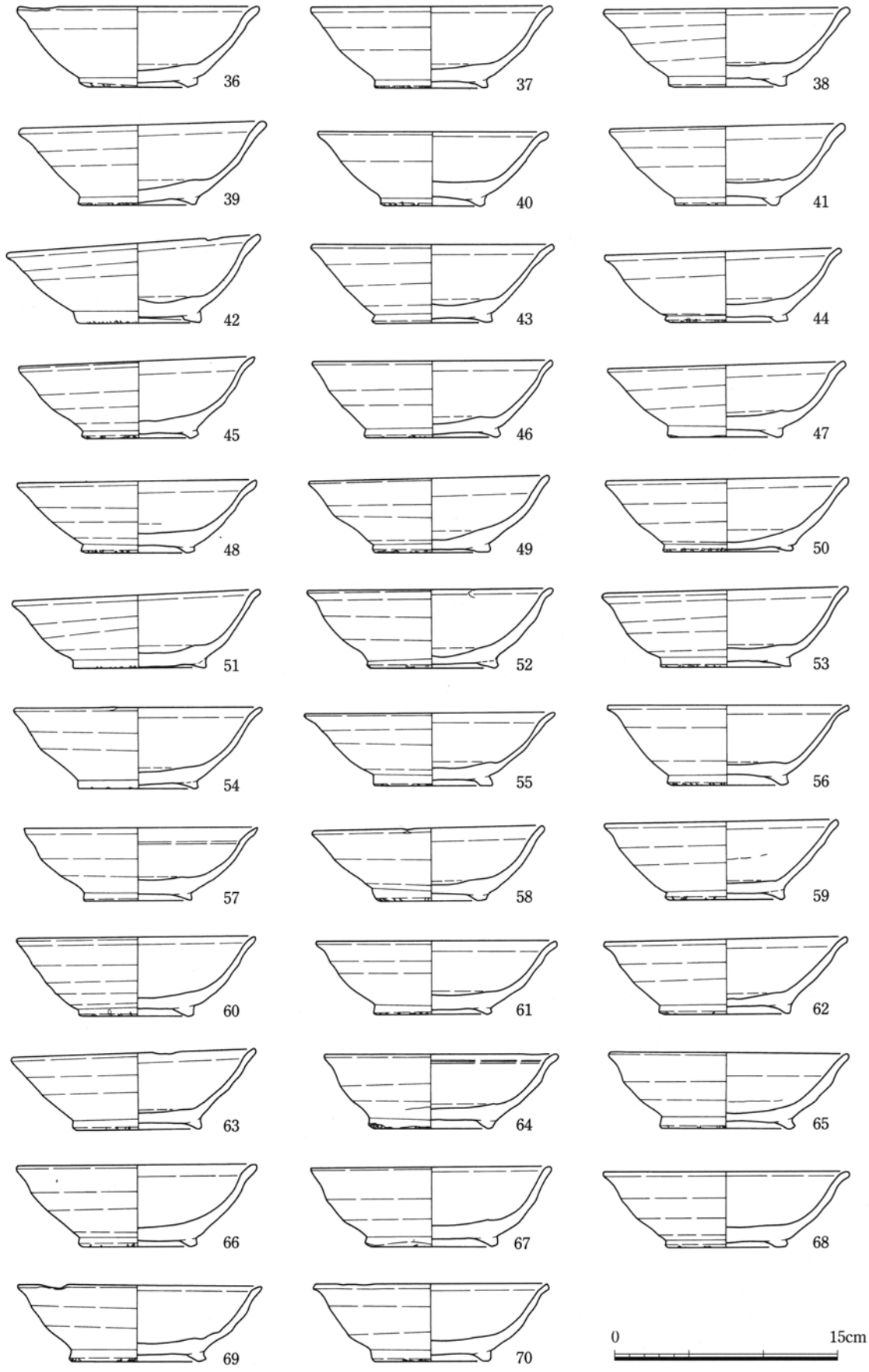
図版1　遺物実測図（1）（1：4）



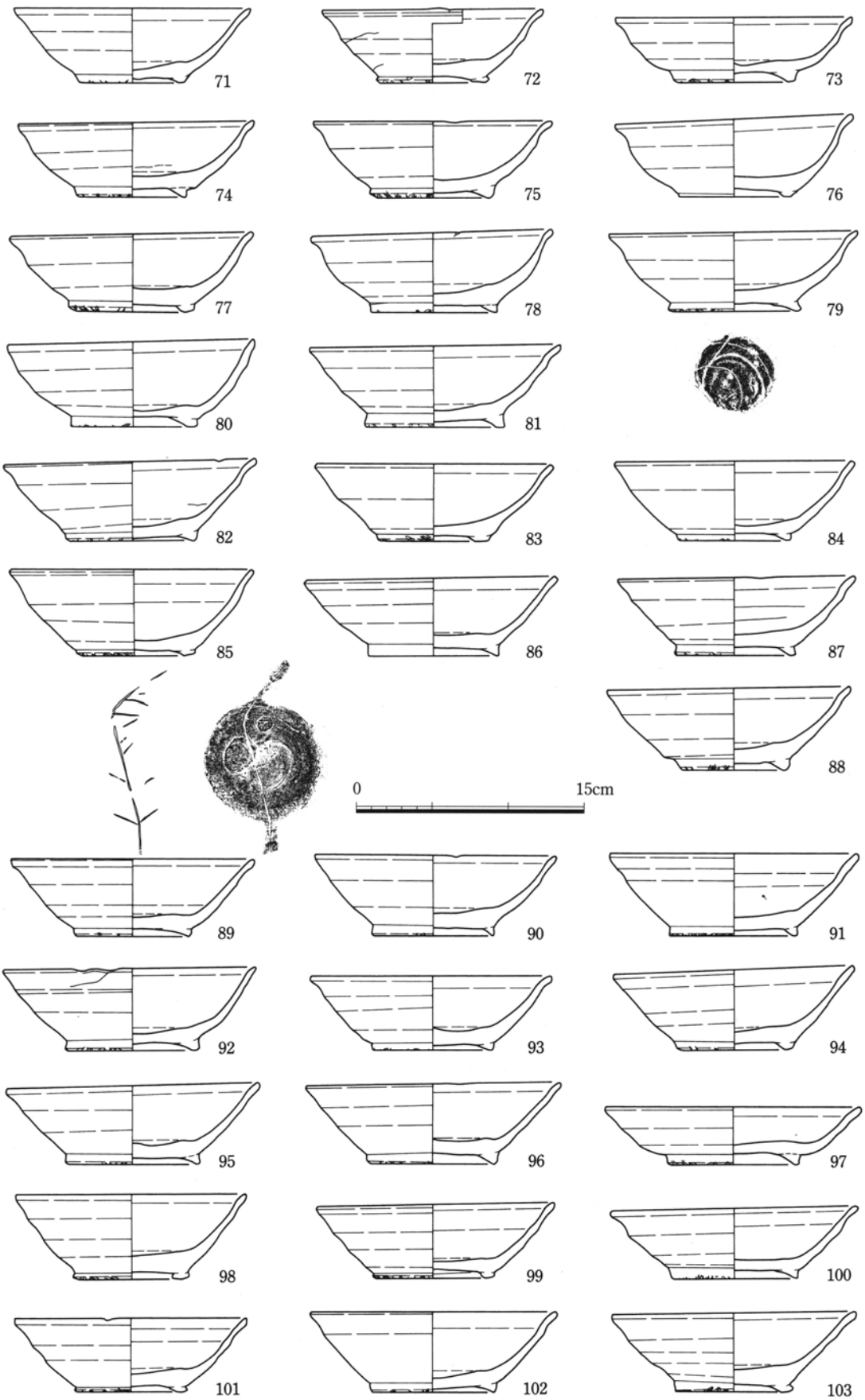
SY02 築窯時排出土（第 4 層）



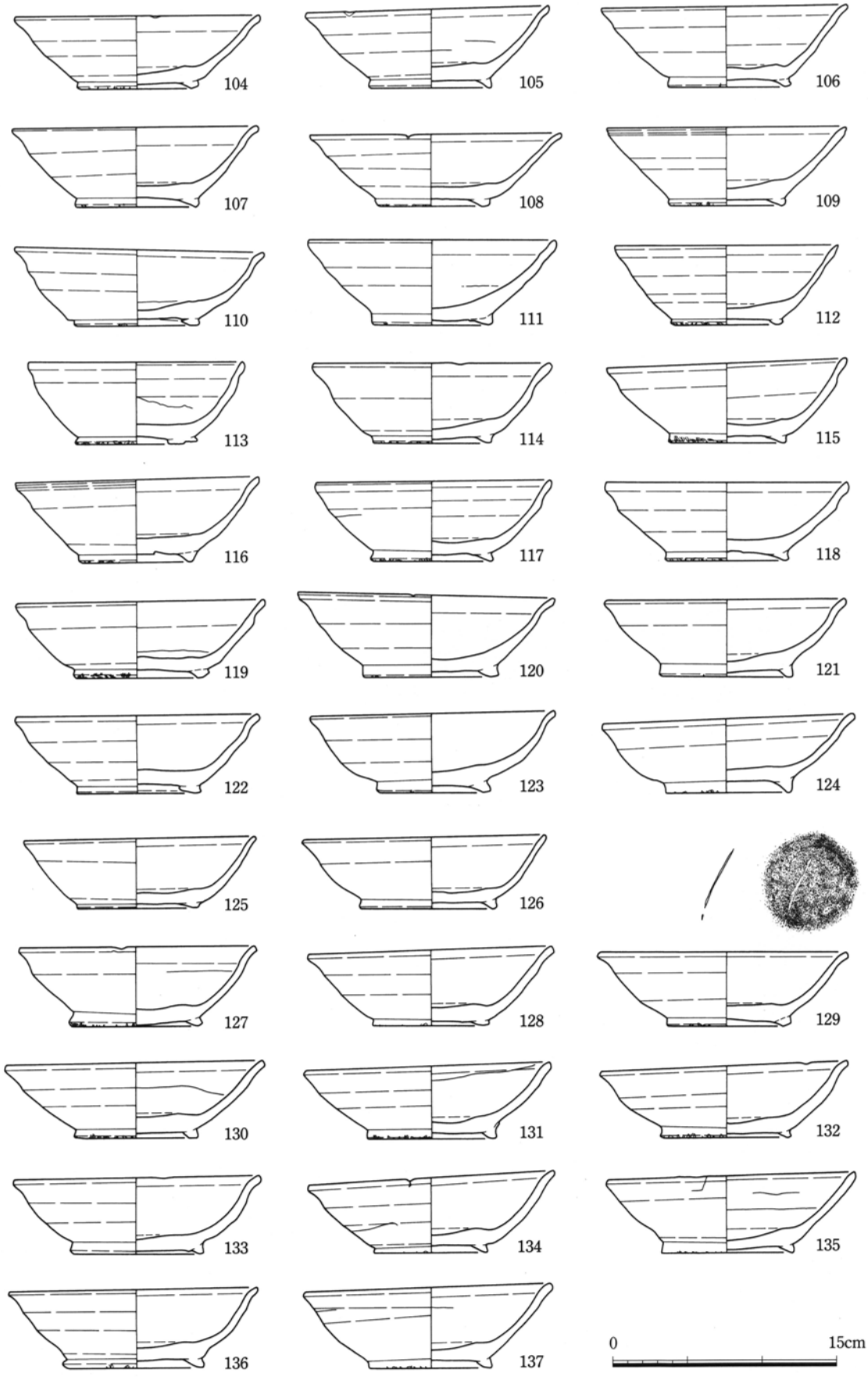
図版２　遺物実測図（２）（１：４）



図版３　遺物実測図（３）（１：４）

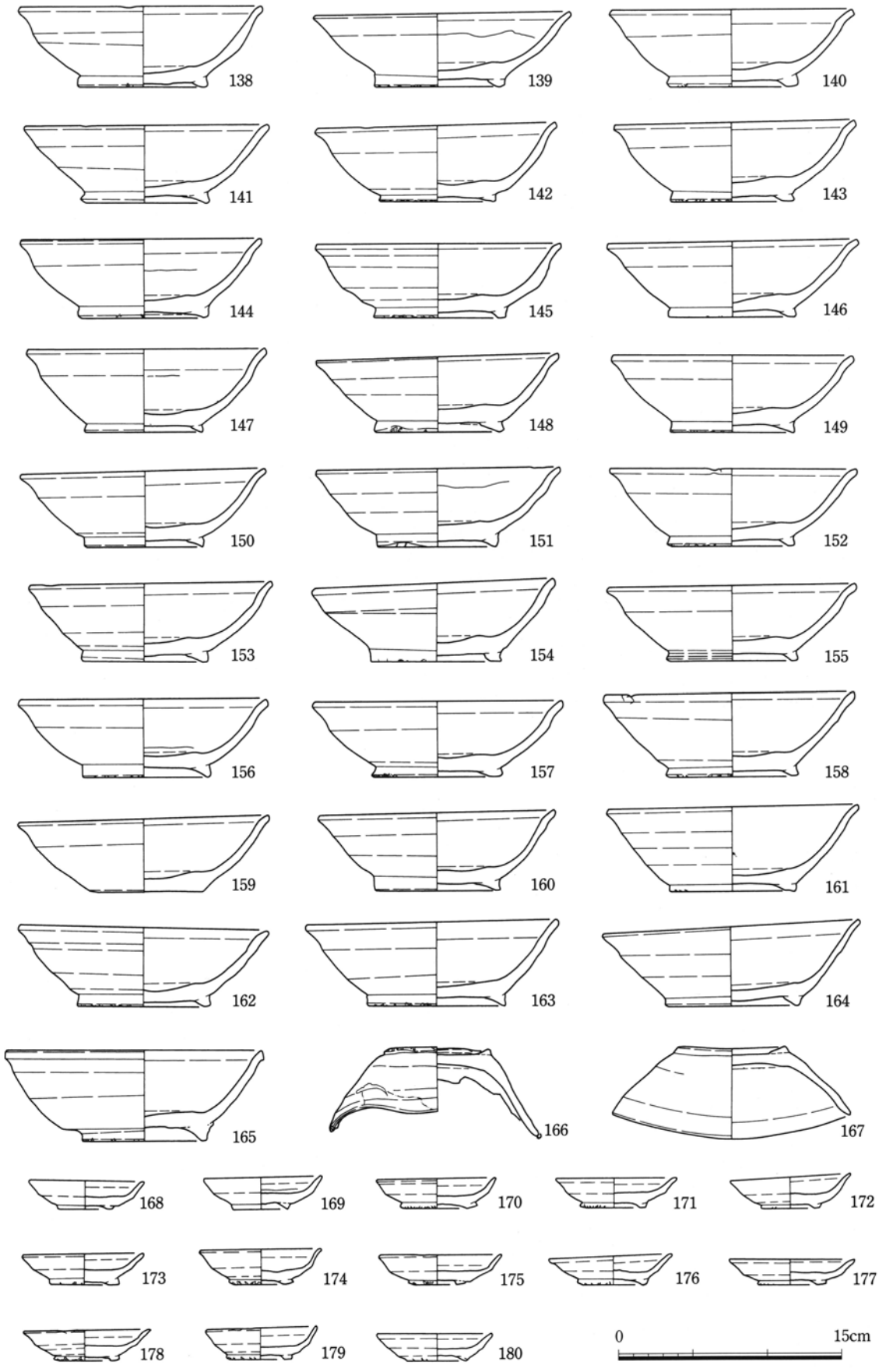


図版4　遺物実測図（4）（1：4）



灰原03（4）

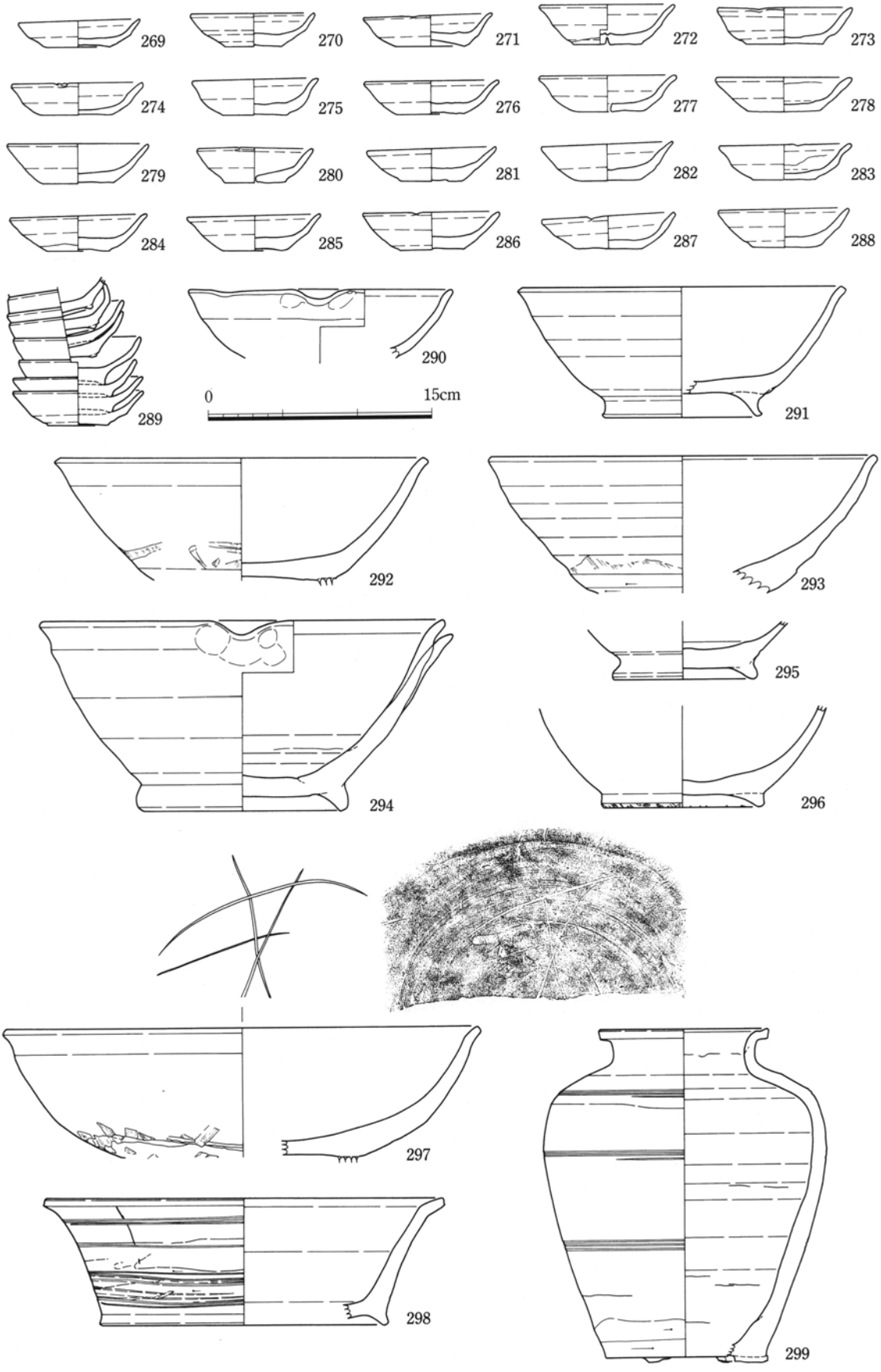
図版5　遺物実測図（5）（1：4）



灰原03（5）

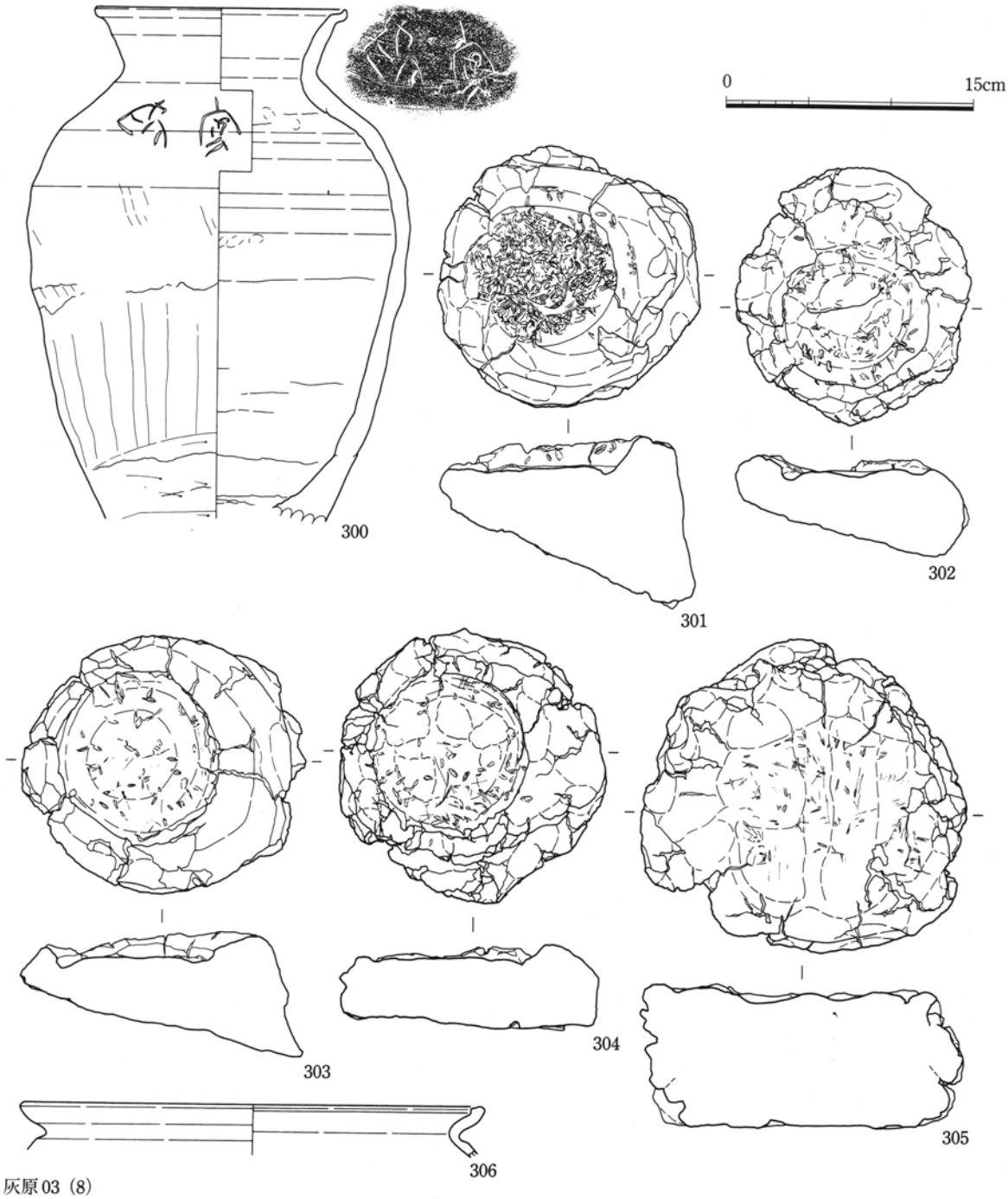
図版6　遺物実測図（6）（1：4）

図版７　遺物実測図（７）（１：４）

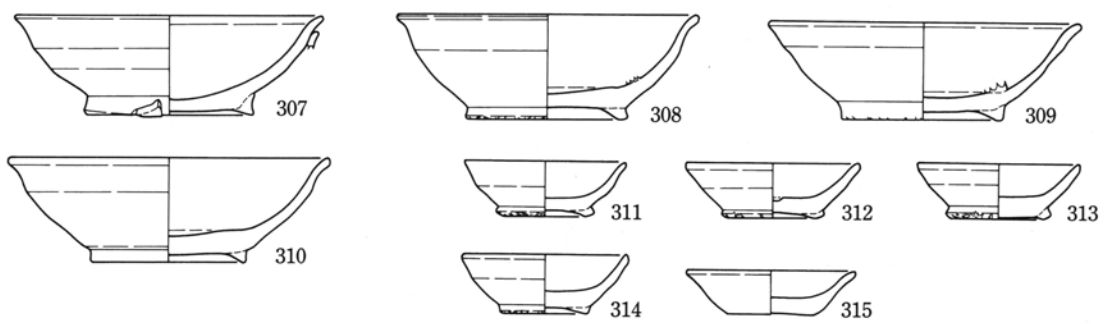


灰原03（7）

図版8　遺物実測図（8）（1：4）

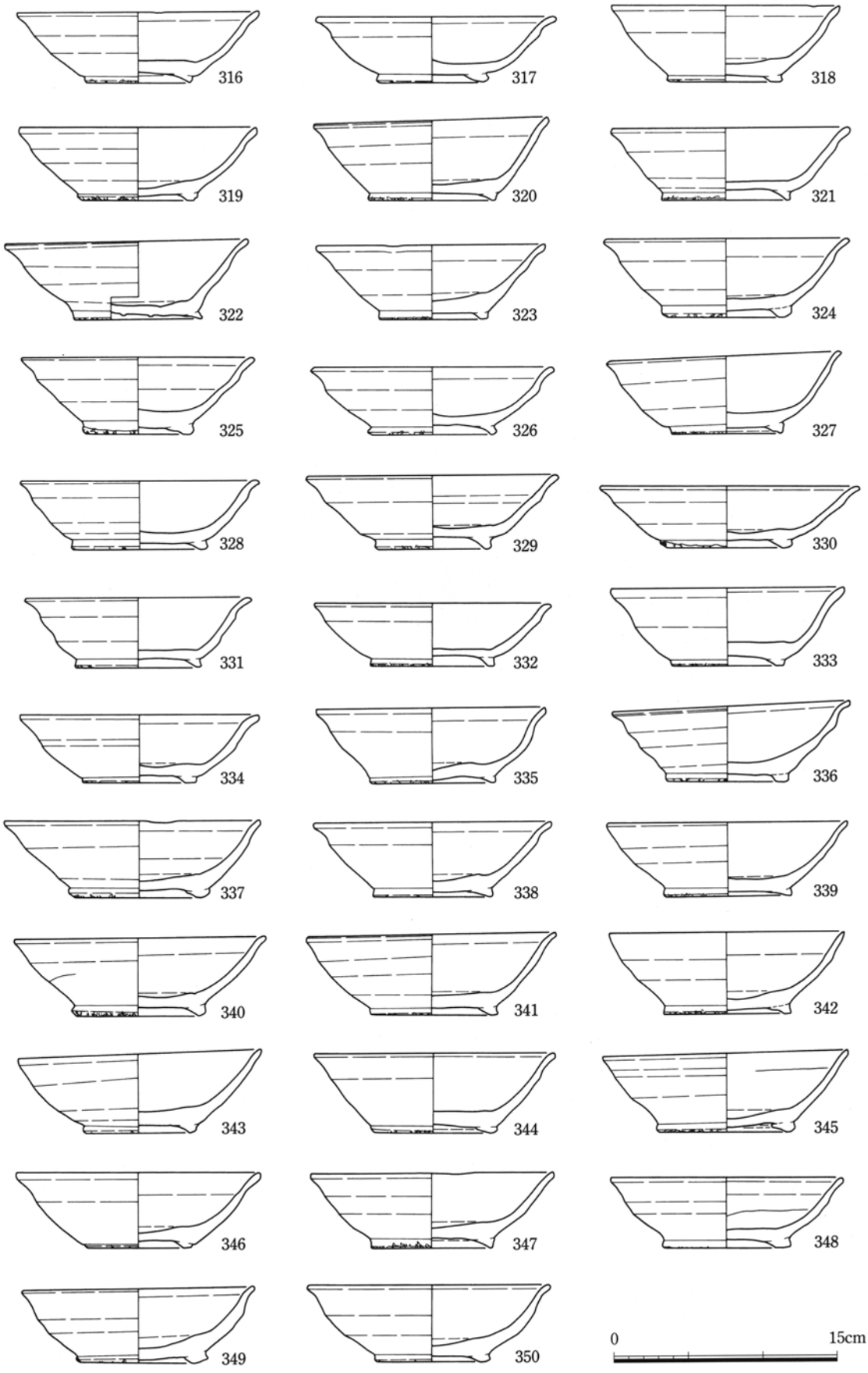


灰原03（8）



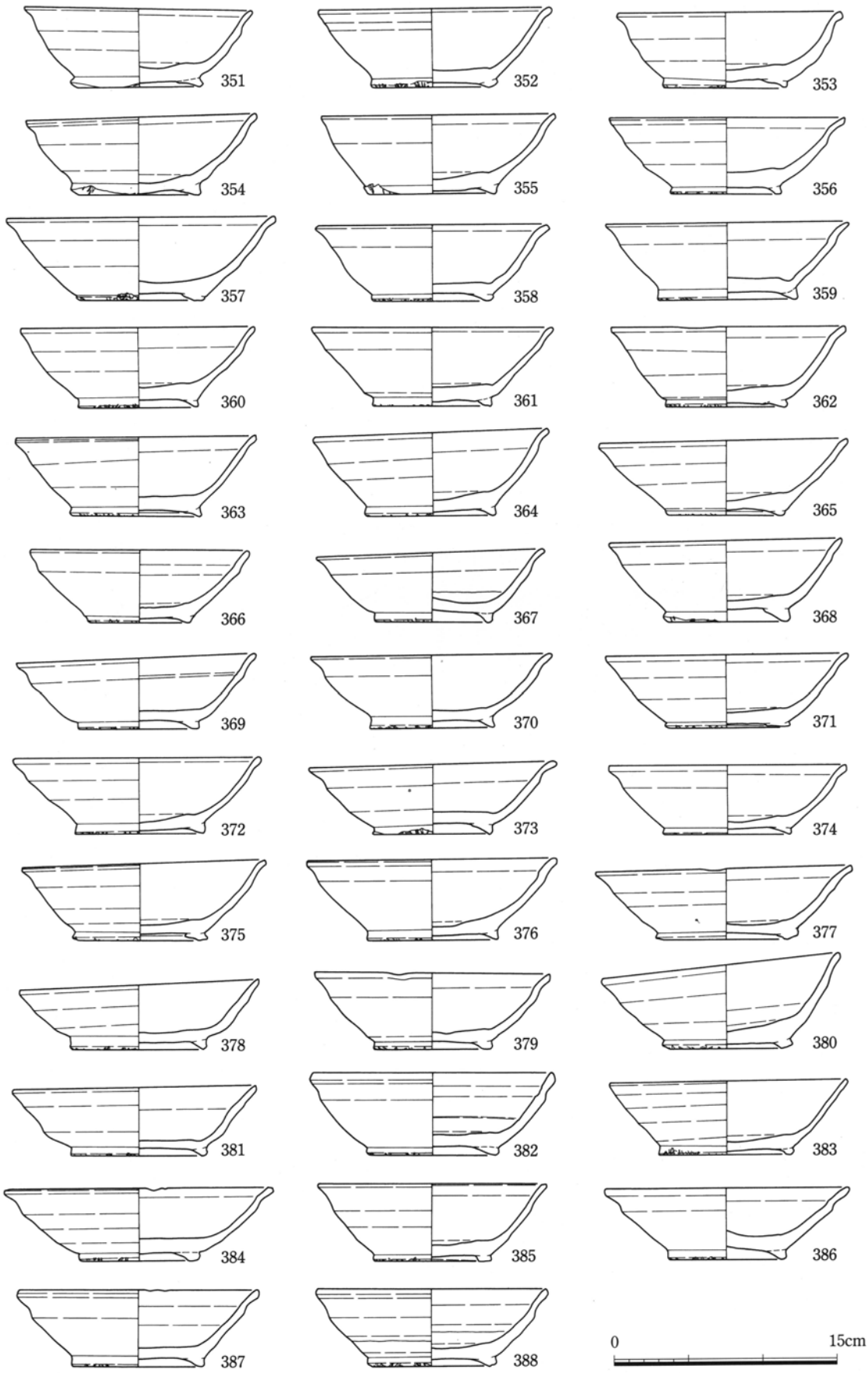
SY01築窯時排出土（第3層）

図版９　遺物実測図（９）（１：４）

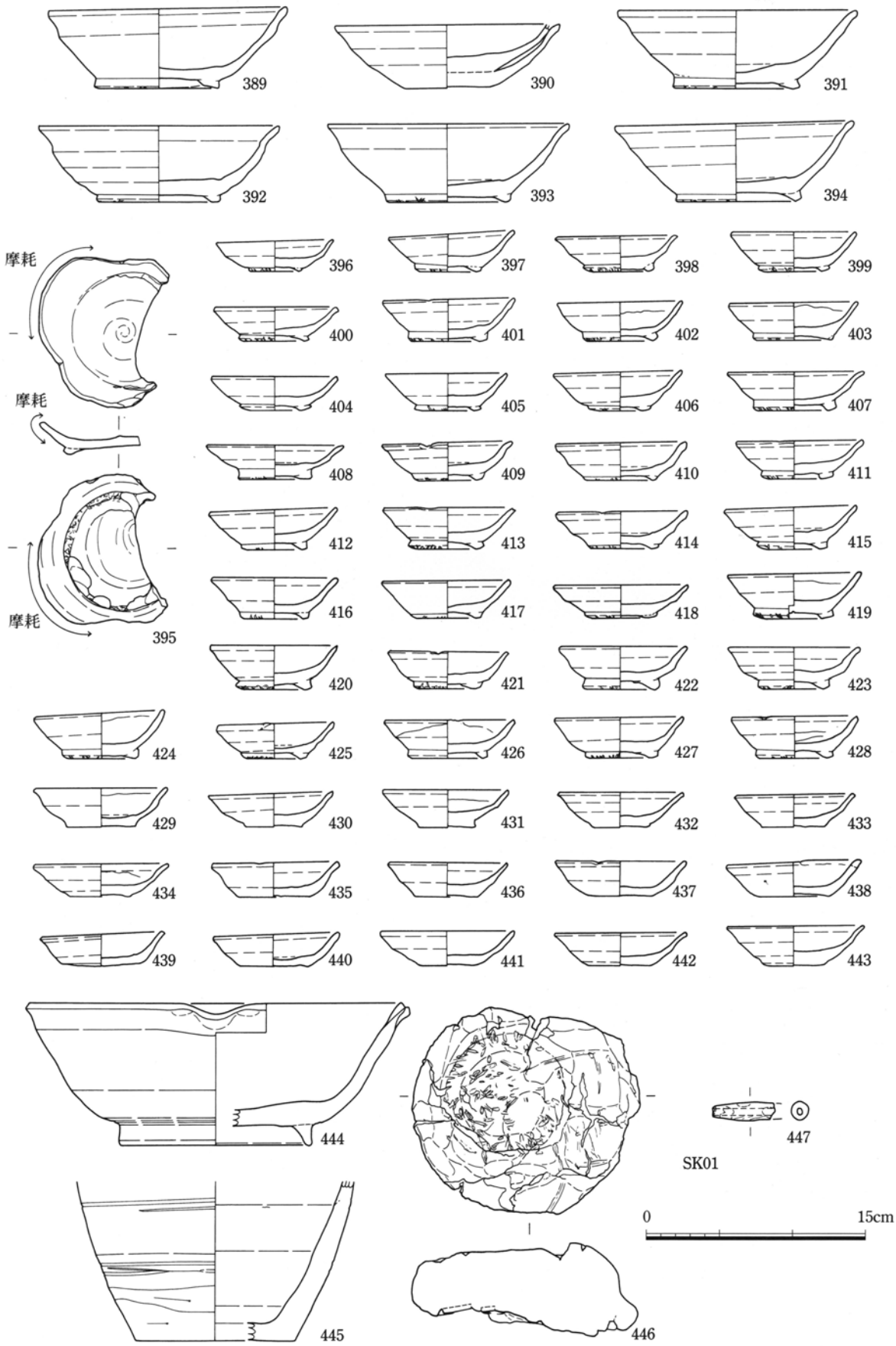


灰原02（1）

図版10　遺物実測図（10）（1：4）



図版 11　遺物実測図（11）（1 ： 4）



灰原 02（3）

図版12　遺跡写真（1）

調査前風景　南から

灰原検出状況　南から

図版 13　遺跡写真（２）

ＳＹ 01 築窯時排出土（第 3 層）　検出状況　南から

遺物出土状況　南から

灰原 03 検出状況（ＳＹ 01 築窯時排出土直下）　西から

ＳＹ 02 築窯時排出土（第 4 層）　検出状況　南から

航空測量風景　西から

完掘状況　南から

遺跡周辺　南東から

図版 14　遺跡写真（3）

Aライン土層断面（Eライン以南）　東から

Aライン土層断面（Eライン以北）　東から

Bライン土層断面（Eライン以南）　東から

Bライン土層断面（Eライン以北）　東から

Cライン土層断面（Eライン以南）　東から

Cライン土層断面（Eライン以北）　東から

図版 15　遺跡写真（4）

Dライン土層断面（Eライン以南）　東から

Dライン土層断面（Eライン以北）　東から

Eライン土層断面（Aライン～Bライン）　北から

Eライン土層断面（Bライン～Cライン）　北から

Eライン土層断面（Cライン～Dライン）　北から

Eライン土層断面（Dライン以西）　北から

図版 16　遺物写真（1）

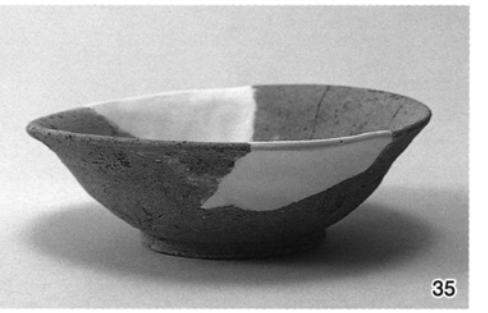
1

2

14

15

19


35

51

58

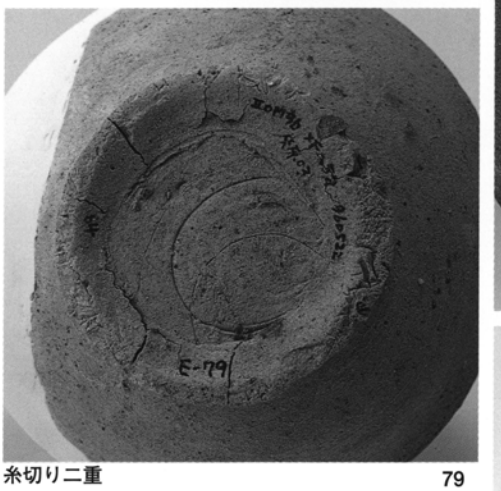
64

74

79

篦記号　89

76



糸切り二重　79

87

※ 79 の「糸切り二重」写真・89 の「篦記号」写真は約 1/2、その他は約 1/3

89

図版 17　遺物写真（2）

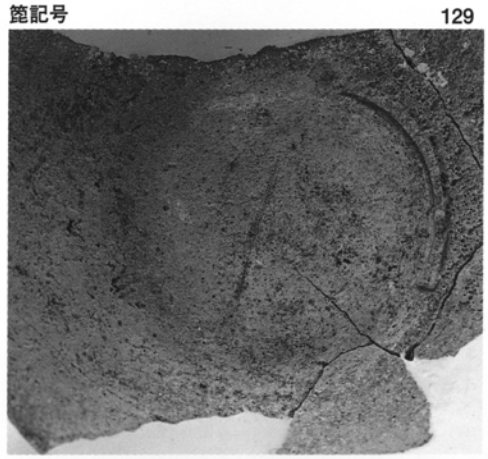
93

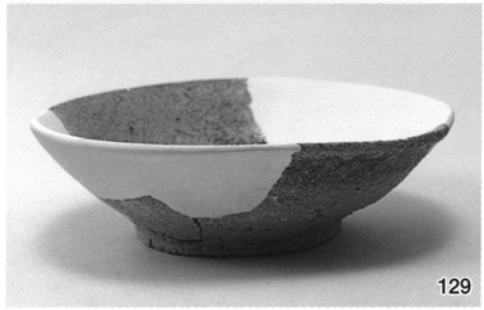
103

108

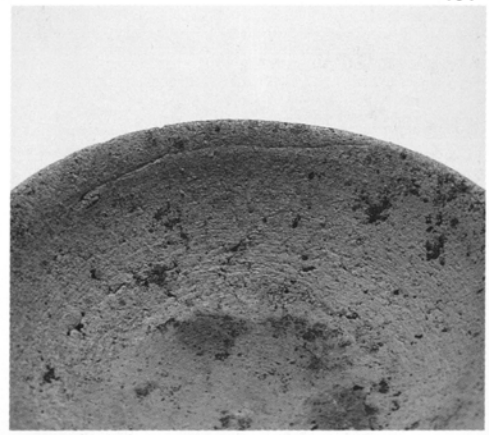
115

籠記号　129




129

粘土紐の継目痕　131



131

141

153

※ 129 の「籠記号」写真・131 の「粘土紐の継目痕」写真は約 1/2、その他は約 1/3

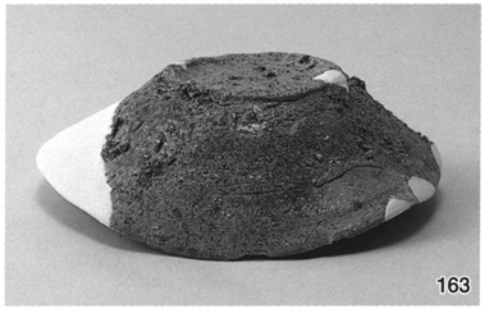
158

159

163

165

159


163

図版 18　遺物写真（3）

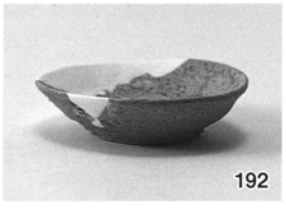
170

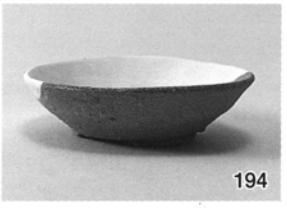
178

180

185

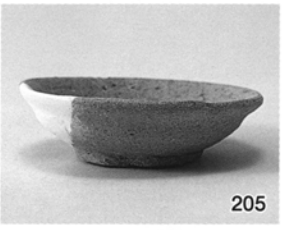
188


192


194

195

198


205

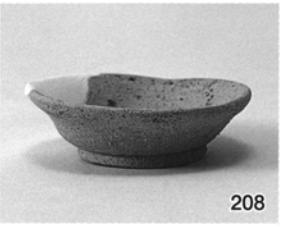
192

粘土充填痕

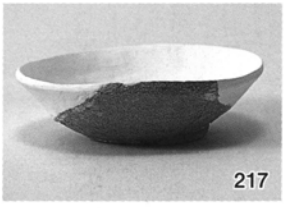
194

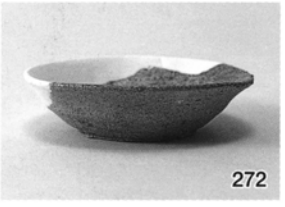
穴

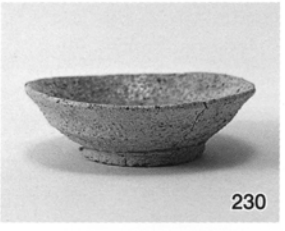
206


208

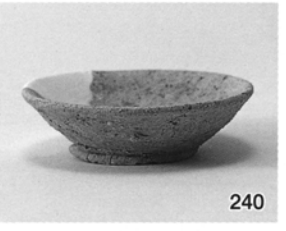
227


217


272


230

234


240

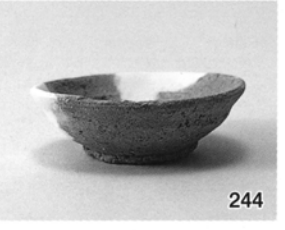
217

穴

272

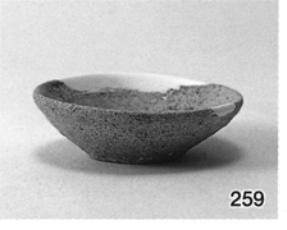
穴

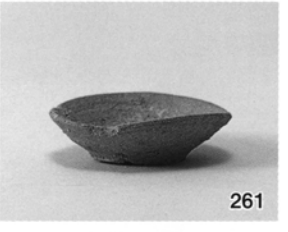
241

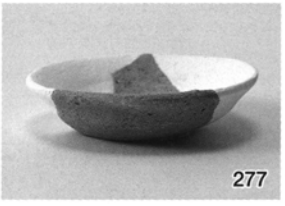

244

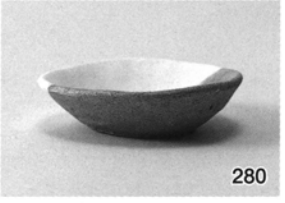
250

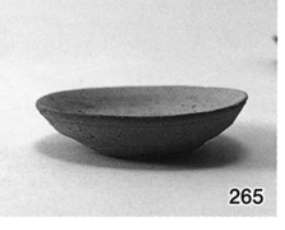
257


259

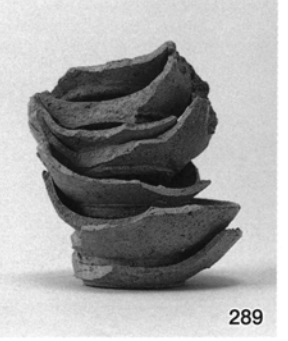

261

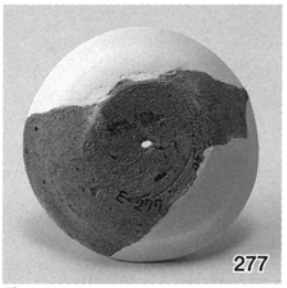

277


280

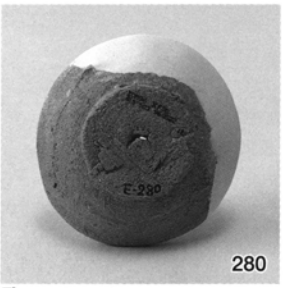

265

267

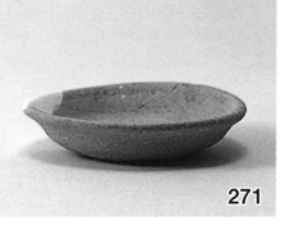

289

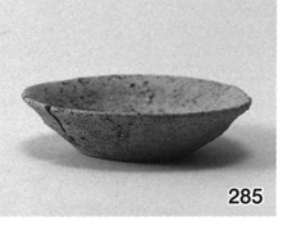

277

孔


280

孔


271

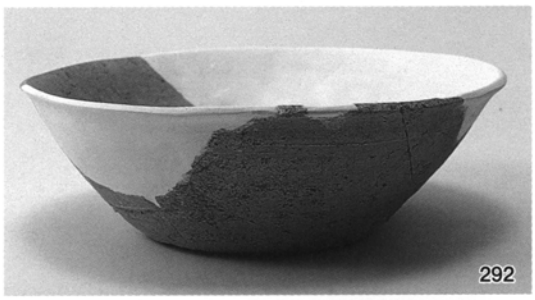

285

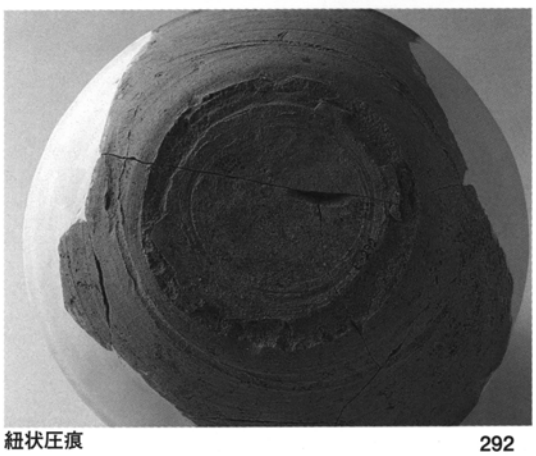
※全て約 1/3

図版 19　遺物写真（４）

290

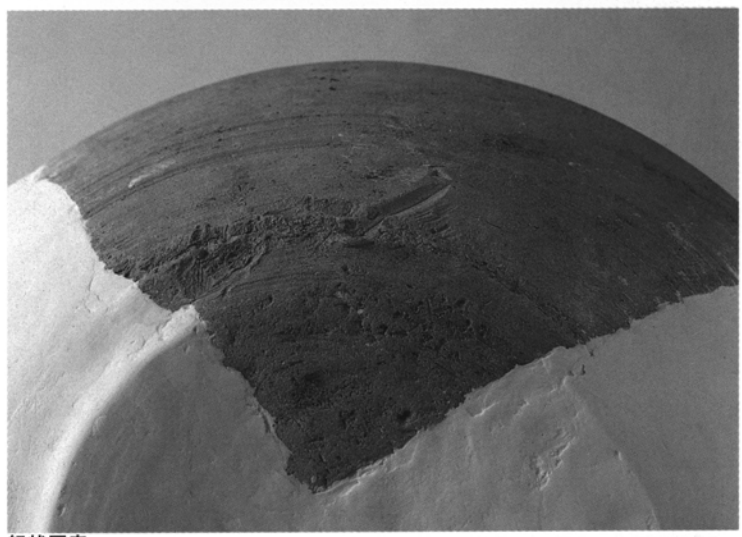
291

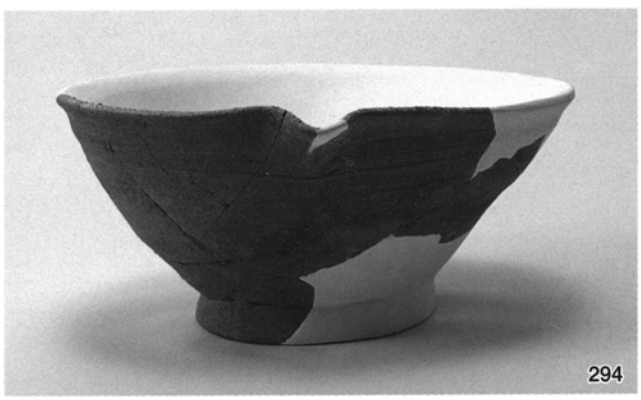

292

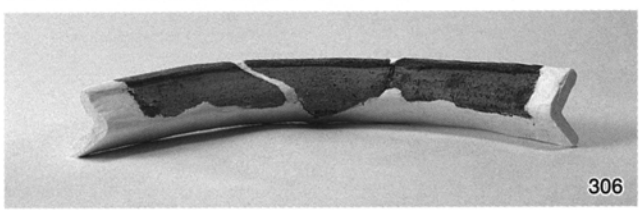

紐状圧痕　292

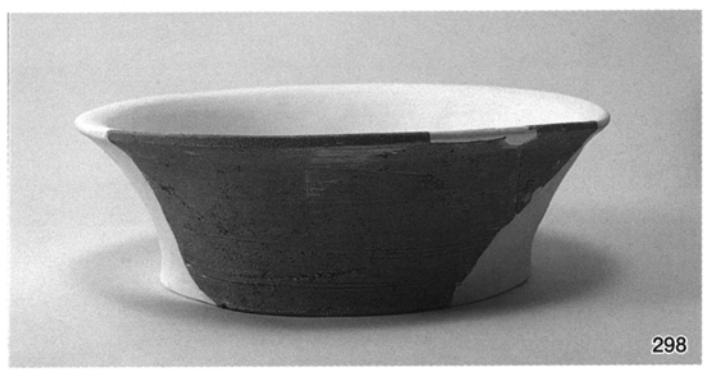
篦記号　297

297


紐状圧痕　297

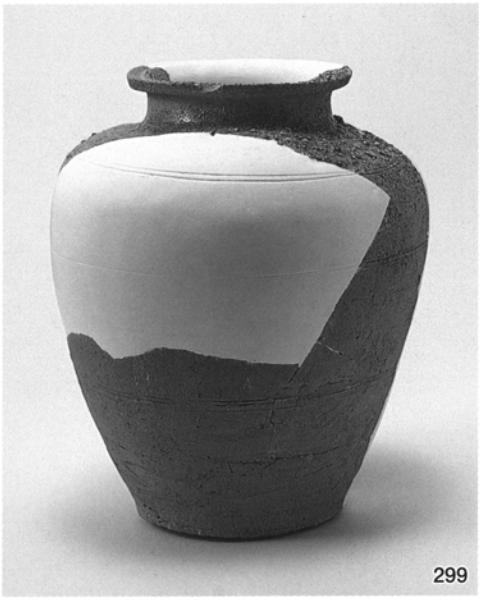

294

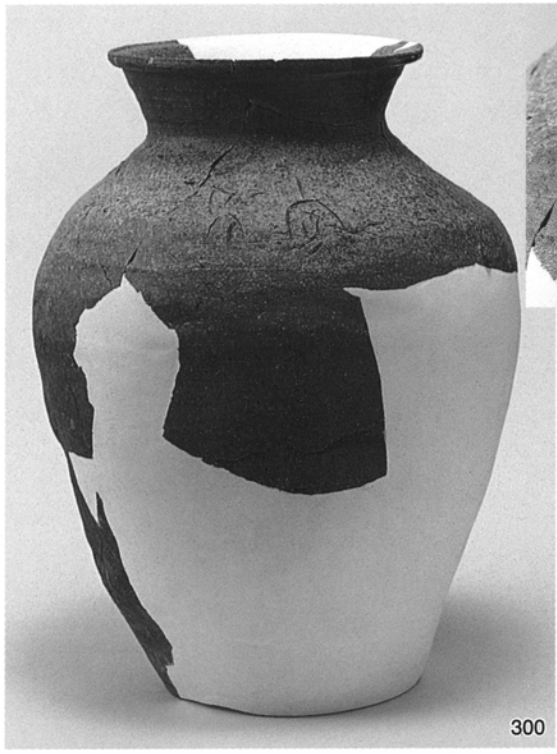

306


298

※ 297 の「篦記号」写真・「紐状圧痕」写真は約 1/2、その他は約 1/4

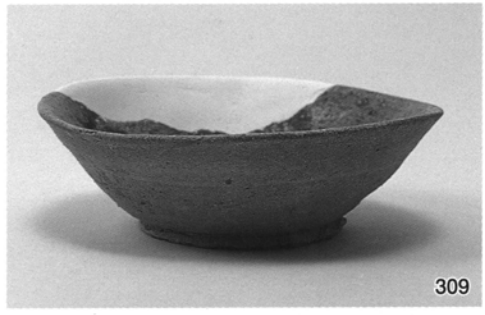
図版20　遺物写真（5）

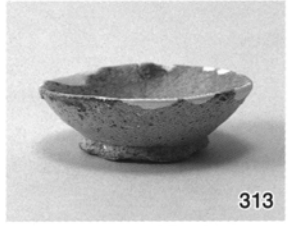

299


300

300

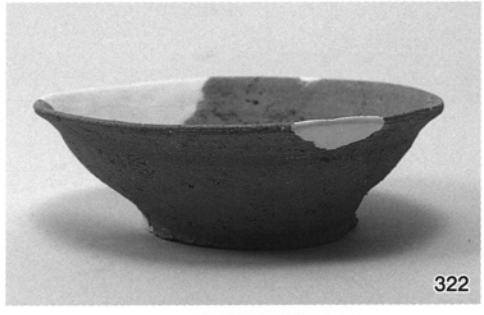
308


309


313

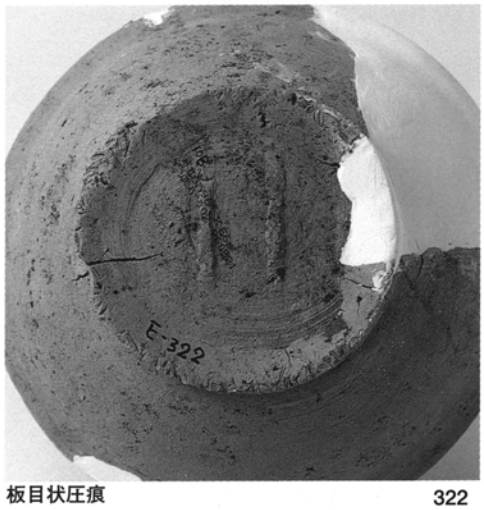
321

329


322

349

358



板目状圧痕

322

※299・300は約1/4、300の「篦記号」写真・322の「板目状圧痕」写真は約1/2、その他は約1/3

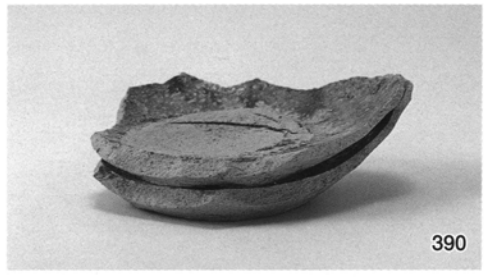
図版21　遺物写真（6）

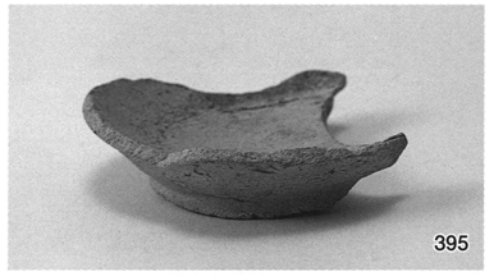
369

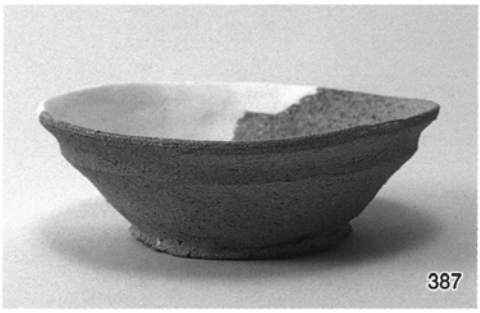
378

379

384

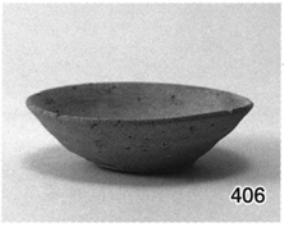

390

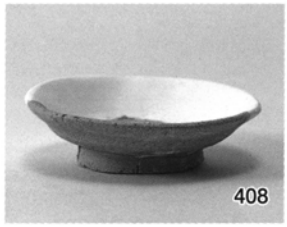

395

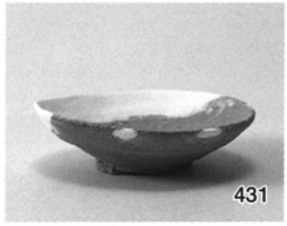

387

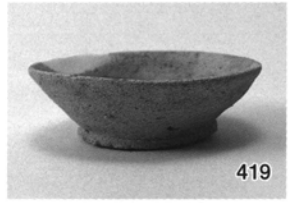
390

395

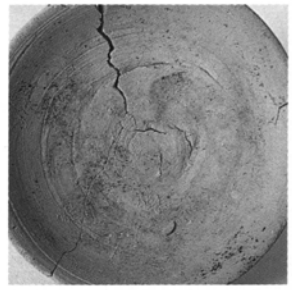

406

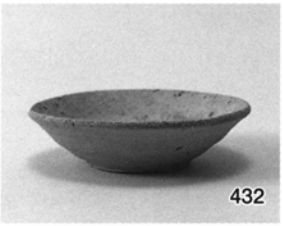

408

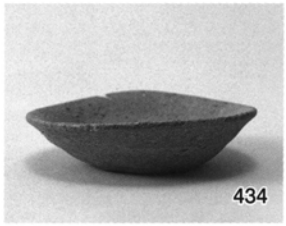

431

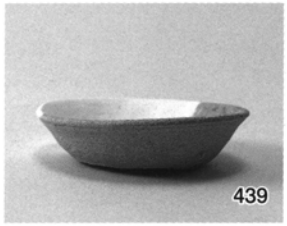

419

粘土紐の継目痕　428




432


434


439

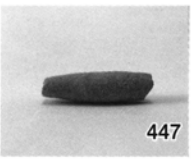
419

穴

428

443

※428の「粘土紐の継目痕」写真は約1/2、
その他は約1/3

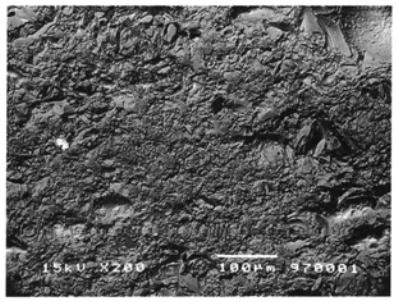

447

447

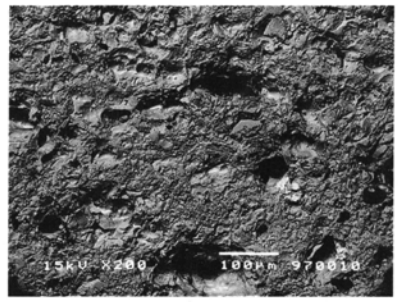
444

445

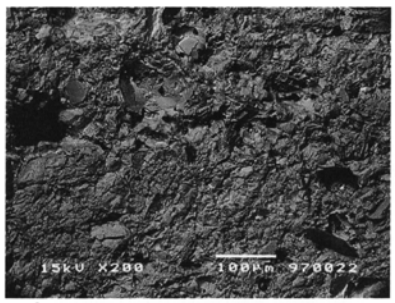
図版22　BEI（反射電子）写真（1）



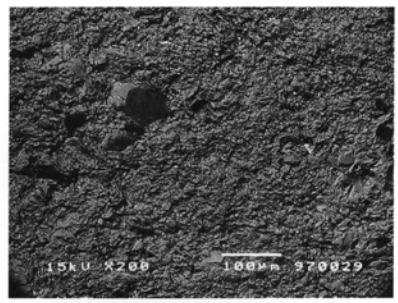
試料番号1.　碗Aa類　灰原02



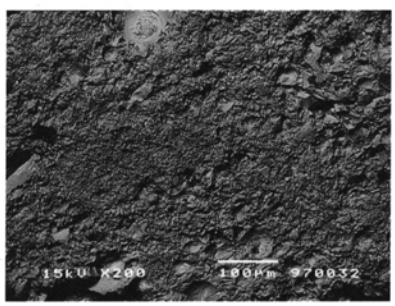
試料番号10.　碗Aa類　灰原03



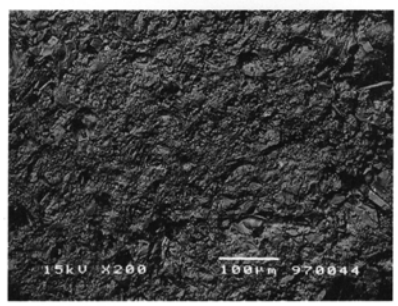
試料番号22.　碗Ab類　灰原03



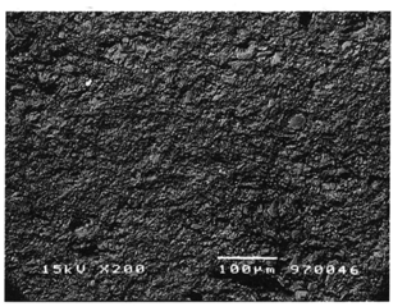
試料番号29.　碗Ab類　灰原02



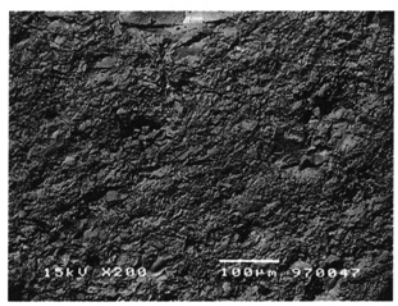
試料番号32.　碗B類　灰原03



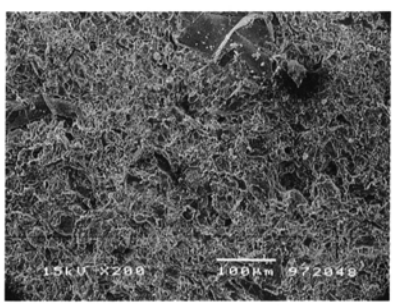
試料番号44.　碗B類　灰原02



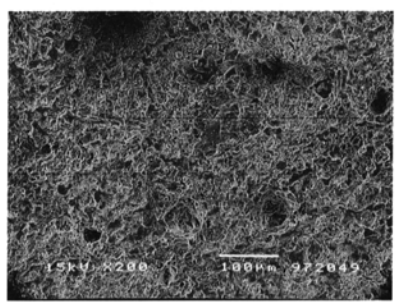
試料番号46.　壺（300）　灰原03



試料番号47.　壺（445）　灰原02

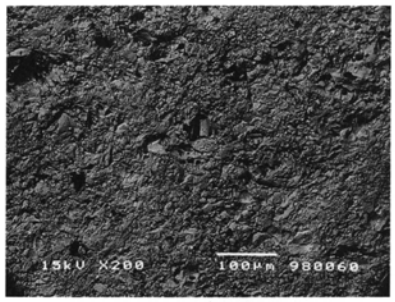


試料番号48.　鉢（297）　灰原03

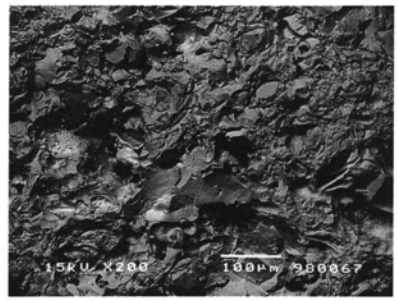


試料番号49.　鉢（294）　灰原03

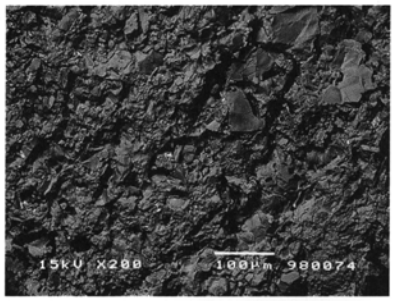
図版23　BEI（反射電子）写真（2）



試料番号60.　碗　神明古窯址群

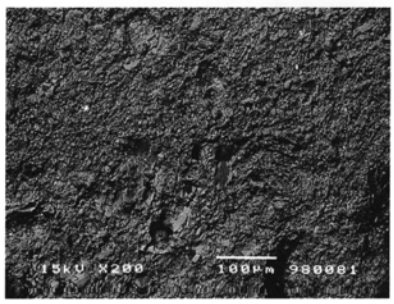


試料番号67.　碗　神明古窯址群

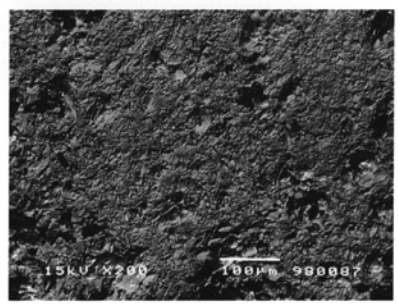


試料番号74.　片口鉢　神明古窯址群

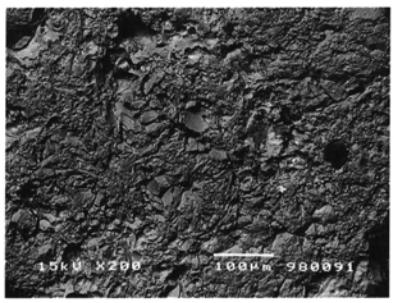
試料番号79.　片口鉢　神明古窯址群



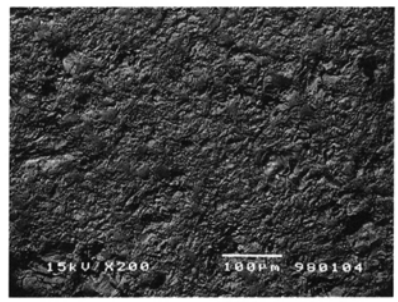
試料番号81.　広口長頸壺　神明古窯址群



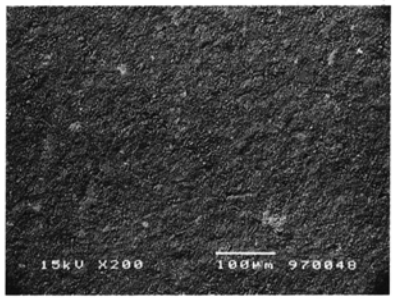
試料番号87.　広口長頸壺　神明古窯址群



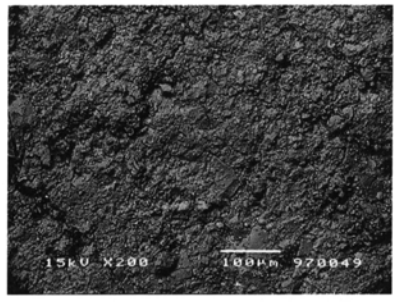
試料番号91.　碗　海陸庵古窯址群



試料番号104.　碗　海陸庵古窯址群

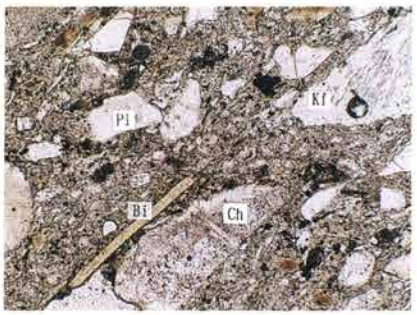


試料番号105.　原土-1

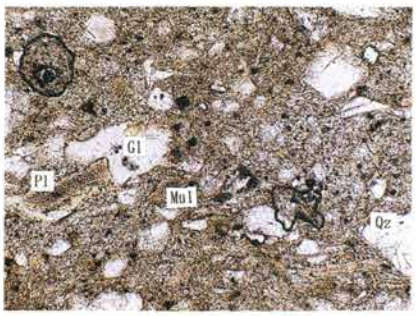


試料番号106.　原土-2

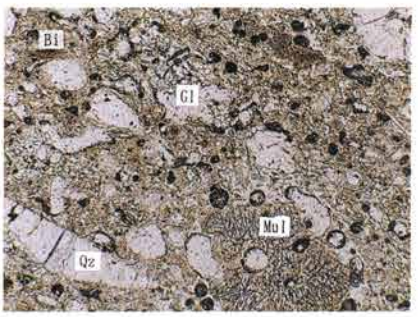
図版 24　顕微鏡下の胎土の状況（1）



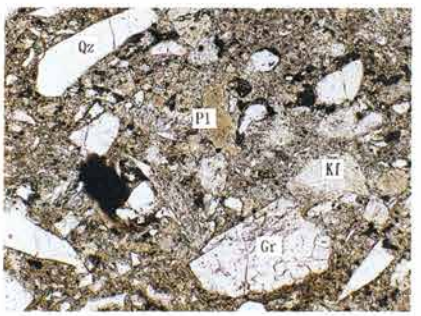
試料番号 1.　XE4t　灰原 02　鉢（444）



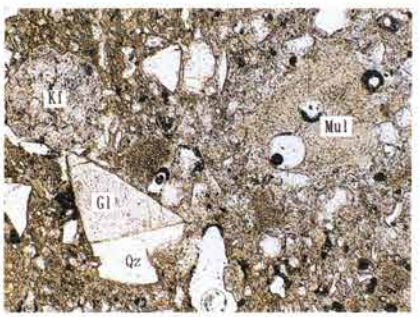
試料番号 2.　XE5s　灰原 02　壺（445）



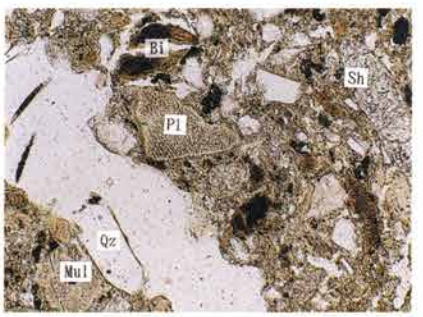
試料番号 6.　XE5s　灰原 02　碗 Aa 類



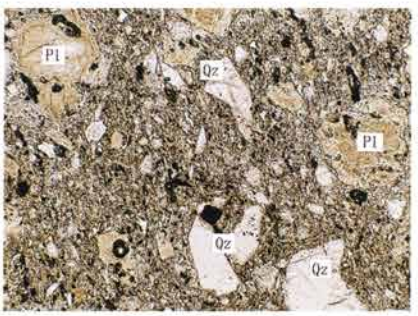
試料番号 10.　XE5s　灰原 02　碗 Ab 類



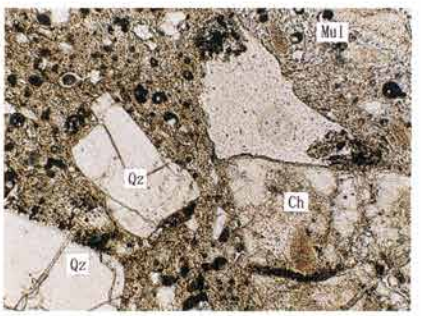
試料番号 16.　XE5s　灰原 02　碗 B 類



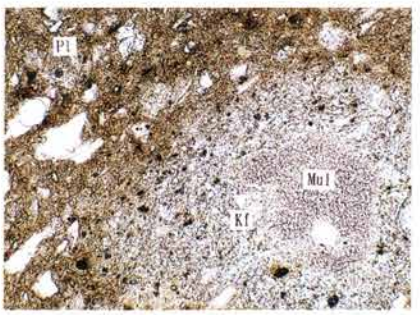
試料番号 21.　XE5t　灰原 03　碗 Ab 類



試料番号 25.　XE5t　灰原 03　碗 Aa 類



試料番号 31.　XE5t　灰原 03　碗 B 類

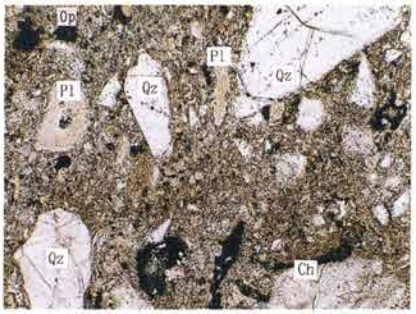


試料番号 33.　XF3c　灰原 03　鉢（294）

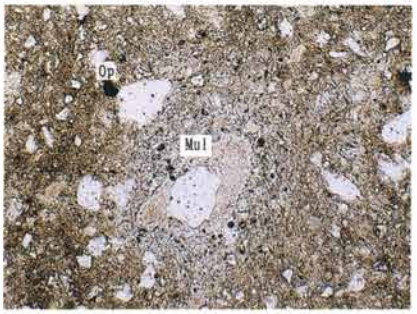
0.2mm

Qz：石英　　Kf：カリ長石　　Pl：斜長石
Bi：黒雲母　　Ch：チャート　　Sh：頁岩
Gr：花崗岩　　Mul：ムライト　　Gl：溶化ガラス
写真は下方ポーラーのみ

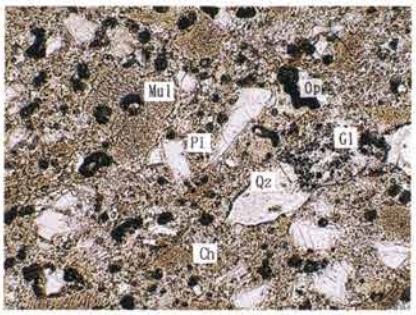
図版25　顕微鏡下の胎土の状況（2）



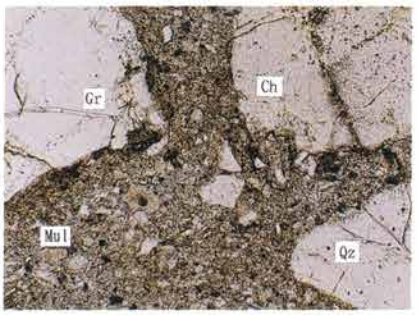
試料番号34.　XF3c　灰原03　鉢（298）



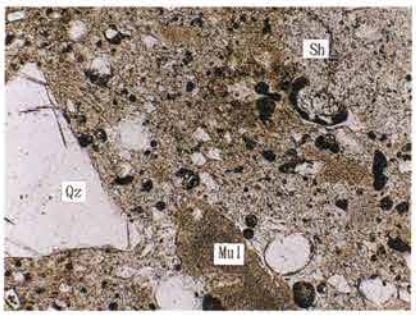
試料番号35.　XF3c　灰原03　壺（300）



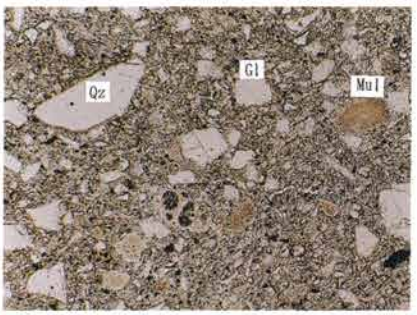
試料番号36.　XF4a　灰原03　鉢（290）



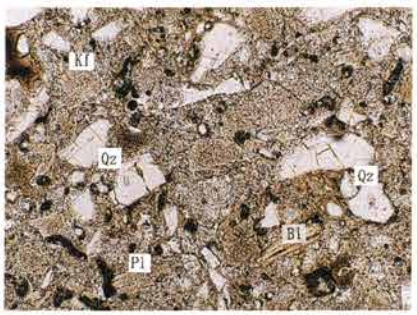
試料番号38.　XF4b　灰原03　碗B類



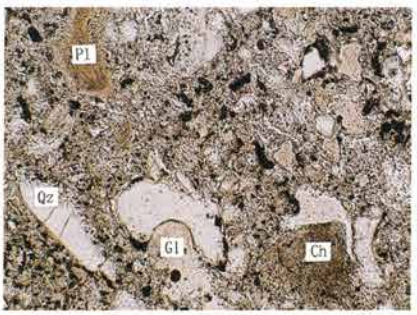
試料番号41.　XF4b　灰原03　碗B類



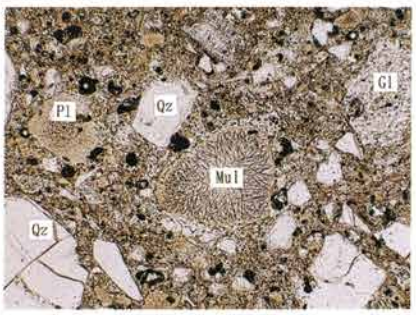
試料番号44.　XF4b　灰原03　碗Aa類



試料番号51.　XF4b　灰原03　碗Ab類



試料番号52.　XF5a　灰原03　鉢（297）

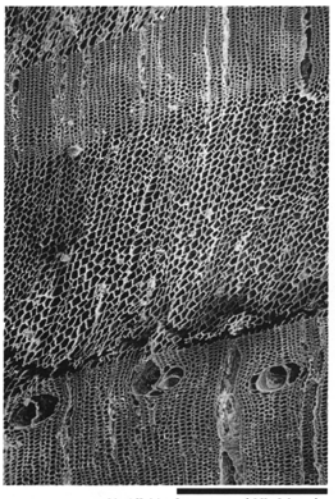


試料番号53.　XF5a　灰原03　壺（299）

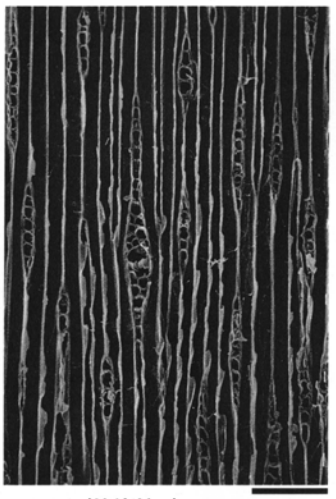
0.2mm

Qz：石英　Kf：カリ長石　Pl：斜長石
Bi：黒雲母　Op：不透明鉱物　Ch：チャート
Sh：頁岩　Gr：花崗岩　Mul：ムライト
Gl：溶化ガラス
写真は下方ポーラーのみ

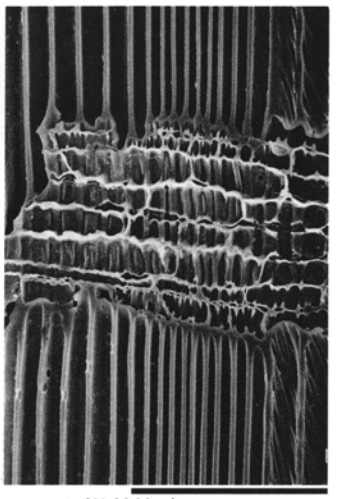
図版 26　灰原出土炭化材樹種（1）



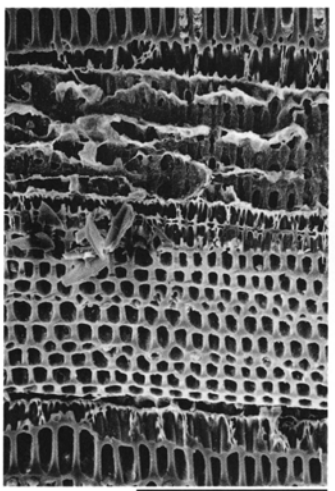
1a. マツ属複維管束亜属（横断面）
No.12　灰原03　XE5t　bar：0.5mm



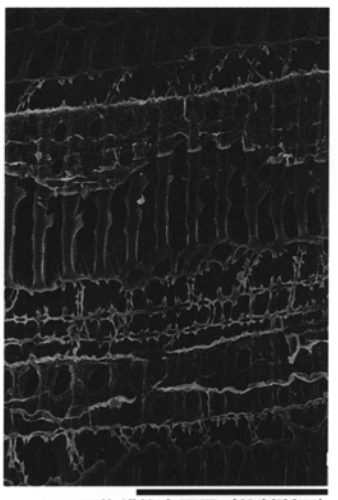
1b. 同（接線断面）　bar：0.1mm



1c. 同（放射断面）　bar：0.1mm



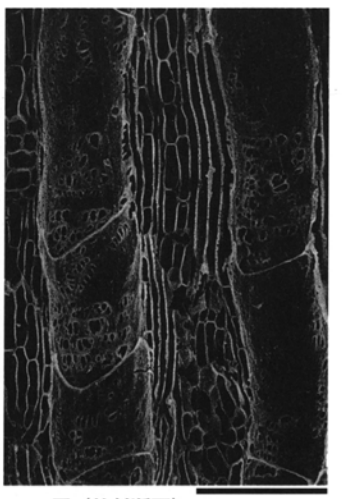
2a. マツ属複維管束亜属（放射断面）
No.7　灰原02　XE5t　bar：0.1mm



3a. マツ属複維管束亜属（放射断面）
No.10　灰原03　XE5t　bar：0.1mm

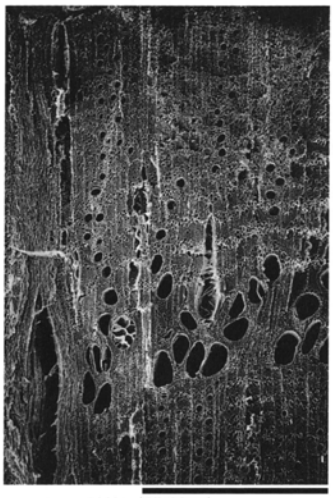
4a. アカガシ亜属（横断面）
No.13-2　灰原03　XF3c　bar：1.0mm

4b. 同（接線断面）　bar：0.1mm



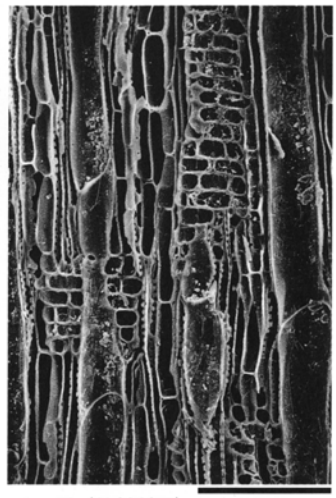
4c. 同（放射断面）　bar：0.1mm

図版27　灰原出土炭化材樹種（2）

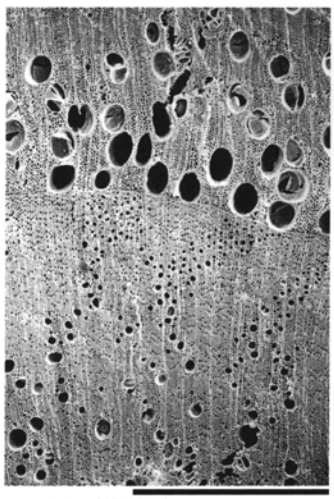


5a. クヌギ節（横断面）
No.13-3 灰原03 XF3c bar：1.0mm

5b. 同（接線断面） bar：0.1mm

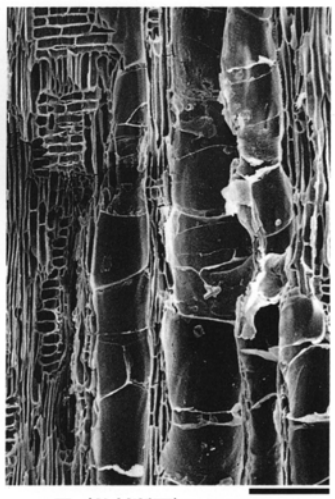


5c. 同（放射断面） bar：0.1mm

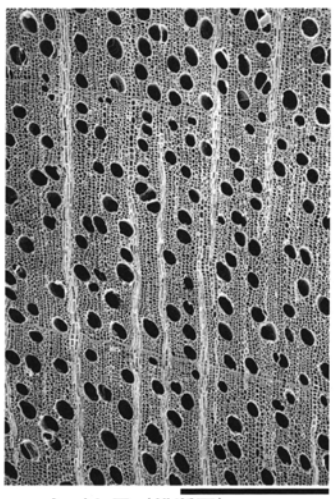


6a. クリ（横断面）
No.13-4 灰原03 XF3c bar：1.0mm

6b. 同（接線断面） bar：0.1mm

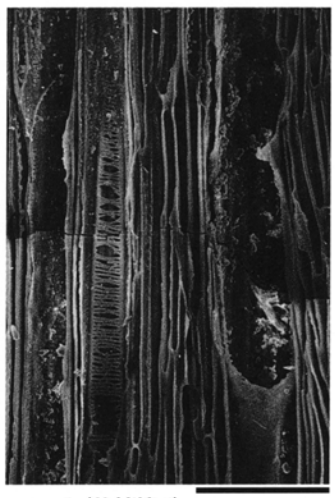


6c. 同（放射断面） bar：0.1mm



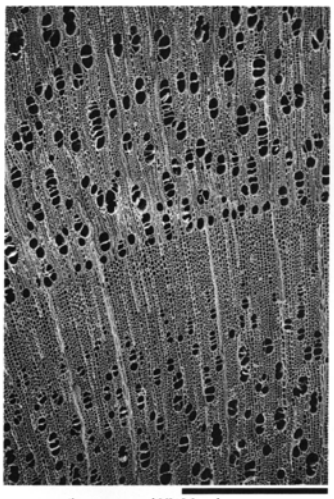
7a. ミズキ属（横断面）
No.13-5 灰原03 XF3c bar：0.5mm

7b. 同（接線断面） bar：0.1mm



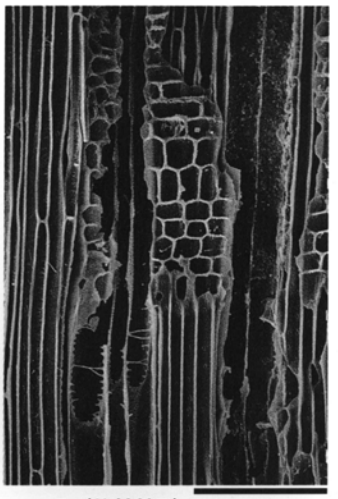
7c. 同（放射断面） bar：0.1mm

図版 28　灰原出土炭化材樹種（３）

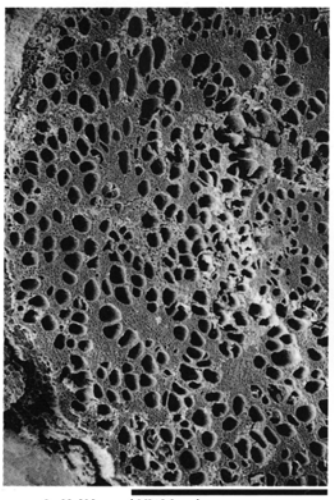


8a. エゴノキ属（横断面）
No.13-6 灰原 03 XF3c bar：0.5mm

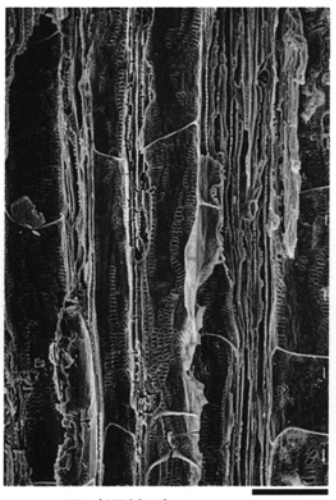
8b. 同（接線断面） bar：0.5mm



8c. 同（放射断面） bar：0.1mm

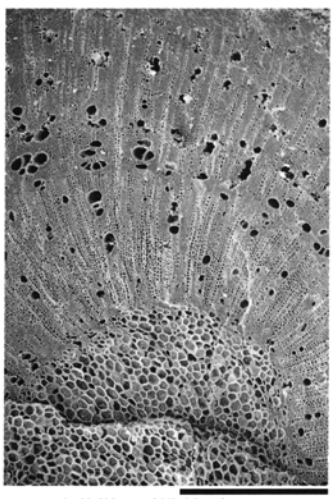


9a. 広葉樹 A（横断面）
No.19-3 灰原03 XF4a bar：1.0mm



9b. 同（縦断面） bar：0.1mm

9c. 同（縦断面） bar：0.1mm



10a. 広葉樹 B（横断面）
No.23-2 灰原03 XF4b bar：0.5mm

10b. 同（接線断面） bar：0.1mm

10c. 同（放射断面） bar：0.1mm

報告書抄録

ふりがな	もりおかだい1ごうようせきぐん
書　　名	森岡第1号窯跡群
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第85集
編 著 者 名	中野良法，八木佳素実，株式会社パレオ・ラボ
編 集 機 関	財団法人愛知県教育サービスセンター　愛知県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ケ須新田字野方802-24
発行年月日	1999年8月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m^2	調査原因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号					
もりおか1ごうよう 森岡1号窯	おおぶしもりおかちょう 大府市森岡町	23223	44013	35度 00分 00秒	136度 57分 11秒	19960408～ 19960607	350 m^2	道路建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項
森岡1号窯	古窯跡	平安～鎌倉	灰原	碗・皿・鉢・壺	窯体なし 篦描きの壺

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第85集

森岡第1号窯跡群

1999年8月31日

編集・発行　財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター
印刷　株式会社　正鵠堂